

日本女子体育大学 | 2019年度 |

# シラバス



Japan Women's College of Physical Education

# 授業形態：講義

科目名	日本国憲法				担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 なぜ憲法を学ぶのか？</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				<b>第9回 社会権</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第2回 憲法とはどのような法か？</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。 (2) 憲法は国内の最高法規であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				<b>第10回 天皇と国民</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第3回 基本的人権総論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)				<b>第11回 平和主義</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第15章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第4回 法の下の平等</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)				<b>第12回 国会の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第5回 精神的自由権①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)				<b>第13回 内閣の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 内閣の地位と構成・役割について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第6回 精神的自由権②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				<b>第14回 裁判所の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 裁判所の地位と構成・役割について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第7回 経済的自由権</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)				<b>第15回 憲法の役割と現実</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 人身の自由</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 人身の自由が保障されている意味を理解する。 (2) 人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書の第5章を熟読する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「【合格水準】教職のための憲法」志田陽子 編著、法律文化社、2017							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。							

# 授業形態：講義

科目名	女性と仕事				担当者	影山陽子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。その方法として「問い」を重視する。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら「問い」を立て思考することによって、4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 本講義の目的と狙いを理解し、現時点を把握するために自分の考えを書き出してみる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)				<b>第9回 自分を知る(1) 社会人基礎力</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について、自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			
<b>第2回 「問い」の力を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 本授業の目的を達成するために自ら「問い」を立てることを目指す。その「問い」の持つ力について知り、考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 「問い」に関する練習問題を行う。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)				<b>第10回 自分を知る(2) スポーツちからとニチジョちから</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツちからとニチジョちからについて学び、本学で養成できる力について、自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			
<b>第3回 社会を知る(1) 「働く」こと・「仕事」をするということ</b> <b>【 到達目標 】</b> 「働く」こと・「仕事」をするということについて多視点から学び考え、自分なりの問いを立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)				<b>第11回 人生100年時代の働き方</b> <b>【 到達目標 】</b> 人生100年時代の働き方と自分の可能性について考え、自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 関連書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)			
<b>第4回 社会を知る(2) 業界・業種について知る。</b> <b>【 到達目標 】</b> 業界や業種について知る。ニチジョの卒業生が就職している業界について、資料を通じて具体的に知る。業界や業種に関して、自分なりの問いを立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)				<b>第12回 講演⑨ 個人の力と起業という選択</b> <b>【 到達目標 】</b> 個人起業家による講演を通して、人生100年時代を生き抜く選択肢の一つとしての「起業」について学び、自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 冬休みを利用して、プレゼンテーションのための準備をする。(4.0hr)			
<b>第5回 社会を知る(3) 雇用とキャリア形成①</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本社会特有の雇用とこれからの動向について学ぶ。新聞を読み、自分なりの問いを立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)				<b>第13回 自分らしく生きるために</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンの準備を通して、大学生活と将来についての考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
<b>第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成②</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。(4.0hr)				<b>第14回 プレゼンテーション(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
<b>第7回 社会を知る(5) 講演⑩</b> <b>【 到達目標 】</b> 企業に勤務する卒業生による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分なりの問いを立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> キャリアセンターHPのOG図鑑を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)				<b>第15回 プレゼンテーション(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
<b>第8回 社会を知る(6) 講演⑪ ブラック企業について</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。また、自分なりの問いを立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 関連HPや書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 「質問づくり」という手法を用いて、講義を聴講するだけでなくキャリアデザインを自分自身の問題として捉えるアクティブラーニングの手法で授業を行う。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を学生諸君に提供する。この授業をきっかけに視野を広げ、自ら「問い」を立て探求する姿勢を身につけてほしい。各自の理解度や気づきの程度確認のため、小レポートの提出を課すことがある。小レポートの記述に対しては、次回の授業時にフィードバックを行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> キャリアデザインテキスト（担当教員が製作）を授業内で販売する。							
<b>【関連科目】</b> 社会のしくみとキャリア形成							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度（50％）、プレゼンテーション（20％）、プレゼンテーションの要旨レポート（30％）で評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	教養演習				担当者		
英文名	Preparations for Academic Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 アイスブレイク</b> 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)			<b>第9回 レポート・論文作成の技術(1)</b> 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)				
<b>第2回 私の学生生活</b> 【 到達目標 】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。  【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)			<b>第10回 レポート・論文作成の技術(2)</b> 【 到達目標 】 レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)				
<b>第3回 日本女子体育大学を知る(1)</b> 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。  【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			<b>第11回 プレゼンテーションの技術</b> 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。  【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)				
<b>第4回 日本女子体育大学を知る(2)</b> 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。  【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			<b>第12回 専門への架け橋</b> 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)				
<b>第5回 話し合いの技術</b> 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動、諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第13回 レポート・プレゼンテーション①</b> 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)				
<b>第6回 ノートテイクの技術</b> 【 到達目標 】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。  【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第14回 レポート・プレゼンテーション②</b> 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)				
<b>第7回 データを読む技術</b> 【 到達目標 】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。  【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第15回 レポート・プレゼンテーション③</b> 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。  【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)				
<b>第8回 データをまとめる技術</b> 【 到達目標 】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「KJ法」を習得する。  【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	情報処理 I				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希	
英文名	Information Literacy I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> ICT (Information & Communication Technology) の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 インターネットについての理解と利用 1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) LANについての基礎知識を理解する。 (2) メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第9回 インターネットについての理解と利用 2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウイルスの知識を得る。 (2) メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第2回 文書作成法の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2) テキストデータ作成と編集について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) PC周辺機器についての知識を得る。 (2) プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第3回 文書作成の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2) 文書のレイアウト方法や編集について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第11回 プレゼンテーション法の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2) PowerPointによるスライド作成を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第4回 ビジュアル表現法の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文書上のオブジェクトについて理解する。 (2) 文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第12回 プレゼンテーションの方法 1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第5回 ビジュアル表現の方法 1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第13回 プレゼンテーションの方法 2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第6回 ビジュアル表現の方法 2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2) 文書の印刷方法について理解し、習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2) Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第7回 数値分析・データ加工法の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2) 表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第15回 ファイルについての知識および管理の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2) 様々な保存形式について理解する。 (3) 提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第8回 数値分析・データ加工の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2) 数値計算・統計計算への応用ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	情報処理Ⅱ				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希	
英文名	Information Literacy Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、インターネットやメーラーの活用方法を学び、コンピュータウイルスに対する対策についても理解する。Excelのデータの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 情報ツールとネットワークPC</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ネットワークコンピュータやネットワークシステムを理解する。 (2) 情報ツール、Wifi、について理解する。 (3) パソコンの設定について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第9回 マルチメディアデータの取込と編集</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 知的財産権について理解する。 (2) マルチメディアのファイルについて理解する。 (3) マルチメディアをPCで取込む方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第2回 文書作成の方法（応用）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ファイルについての知識と管理方法を理解する。 (2) 文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第10回 マルチメディアの簡単な編集と利用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) マルチメディア編集ソフトによる編集と利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第3回 ビジュアル表現の方法（応用）1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 複雑な図形表現の方法を習得する。 (2) 作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第11回 スライドを使ったプレゼンテーション1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。 (2) グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第4回 ビジュアル表現の方法（応用）2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文書上のオブジェクトについて理解する。 (2) 文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第12回 スライドを使ったプレゼンテーション2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 分担を決めてスライドの作成を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第5回 データベースのデータの活用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データベースについて理解する。 (2) データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第13回 スライドを使ったプレゼンテーション3</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) スライドの作成を完了する。 (2) スライドを使ってプレゼンテーションを行う（1回目）。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第6回 数値データの分析1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。 (2) 絶対参照の利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第14回 スライドを使ったプレゼンテーション4</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) スライドを使ってプレゼンテーションを行う（2回目）。 (2) 他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第7回 数値データの分析2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 統計に必要な関数の利用方法を習得する。 (2) データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第15回 ファイル管理とPCの設定</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 高度なファイル操作・管理・設定を習得する。 (1) 提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第8回 数値データのビジュアル化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 分析に適したグラフを理解する。 (2) 分析結果をグラフで表現する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	国語表現Ⅰ				担当者	稲井 達也・影山 陽子 並木真理子	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> ・ 言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・ 新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・ 読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定)</b> <b>【 到達目標 】</b> この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。  <b>【授業時間外学習】</b> データベースを活用して、テーマに基づいた新聞記事を探す。(4.0hr)				<b>第9回 読書生活③</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 書評を分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)			
<b>第2回 新聞に親しむ①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。 ・ 全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。 ・ 紙面構成と記事構成を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。(4.0hr)				<b>第10回 読書生活④</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 教科書として指定された文庫の書評を分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)			
<b>第3回 新聞に親しむ②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 新聞をもとに、意見を交流する。 ・ 新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。 ・ 批判的なものの見方・考え方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 新聞記事を参考にして意見文を書く。(4.0hr)				<b>第11回 ビブリオバトル①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルを意識して、本を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 手紙①</b> <b>【 到達目標 】</b> 手紙のマナーや書き方について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬の手紙を書く。(4.0hr)				<b>第12回 ビブリオバトル②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。(4.0hr)			
<b>第5回 手紙②</b> <b>【 到達目標 】</b> 手紙の書き方について一層の理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬の手紙を書く。(4.0hr)				<b>第13回 ビブリオバトル③</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルの記録を完成させる。(4.0hr)			
<b>第6回 メール</b> <b>【 到達目標 】</b> PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬のeメールを書く。(4.0hr)				<b>第14回 ビブリオバトル④</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 ・ チャンプ本を選ぶ。 ・ ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。 <b>【授業時間外学習】</b> 書評の構想を基にして、書評の執筆をする。(4.0hr)			
<b>第7回 読書生活①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 本の選び方と読み方を知る。 ・ 書評を読み、本の批評方法について学ぶ。 ・ 書誌情報について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)				<b>第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 読書生活②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 書評の批評の特徴について考える。 ・ ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り挙げられた書評を比較する。 ・ 批判的思考力を身に付ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ・ 毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。 ・ 本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・ 新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組みが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・ 不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社) 税込713円 『高校生・大学生のための読書の教科書』(仮称/学事出版) 税込1,600円程度							
<b>【関連科目】</b> 国語表現Ⅱ							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出物40％・レポート課題30％・発表(ビブリオバトル等)20％・日本語検定確認テスト10％							

# 授業形態：演習

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を習得する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			<b>第9回 英語基礎総合演習⑨</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習①</b> 【 到達目標 】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第10回 英語基礎総合演習⑩</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 英語基礎総合演習②</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第11回 英語基礎総合演習⑪</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 英語基礎総合演習③</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第12回 英語基礎総合演習⑫</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 英語基礎総合演習④</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第13回 英語基礎総合演習⑬</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 英語基礎総合演習⑤</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第14回 英語基礎総合演習⑭</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 英語基礎総合演習⑥</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第15回 英語基礎総合演習⑮</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 英語基礎総合演習⑦</b> 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						



# 授業形態：演習

科目名	英語 I (初級)			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> <b>【 到達目標 】</b> 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			<b>第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得①</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得②</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習する。(4.0hr)			
<b>第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦</b> <b>【 到達目標 】</b> 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	英語 I (中級)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> 【到達目標】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			<b>第9回 英語総合演習⑩</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 Introduction 英語総合演習①</b> 【到達目標】 受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第10回 英語総合演習⑪</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英語総合演習②</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第11回 英語総合演習⑫</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英語総合演習③</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第12回 英語総合演習⑬</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英語総合演習④</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第13回 英語総合演習⑭</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英語総合演習⑤</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第14回 英語総合演習⑮</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英語総合演習⑥</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第15回 英語総合演習⑯</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第8回 英語総合演習⑦</b> 【到達目標】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業説明および英語総合演習①</b> 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			<b>第9回 英語総合演習⑨</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 英語総合演習②</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第10回 英語総合演習⑩</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 英語総合演習③</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第11回 英語総合演習⑪</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 英語総合演習④</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第12回 英語総合演習⑫</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 英語総合演習⑤</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第13回 英語総合演習⑬</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 英語総合演習⑥</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第14回 英語総合演習⑭</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 英語総合演習⑦</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			<b>第15回 英語総合演習⑮</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 英語総合演習⑧</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（基礎）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上①</b> <b>【 到達目標 】</b> 受講における留意点・授業の進み方を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上②</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			<b>第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。(4.0hr)			
<b>第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（初級）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	英語Ⅱ（中級）				担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English II (Intermediate)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 Introduction 英語演習①</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 英語演習⑨</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 英語演習②</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第10回 英語演習⑩</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英語演習③</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第11回 英語演習⑪</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英語演習④</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 英語演習⑫</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英語演習⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第13回 英語演習⑬</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英語演習⑥</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第14回 英語演習⑭</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英語演習⑦</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第15回 英語演習⑮</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第8回 英語演習⑧</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。							
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（中級）							
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	国語表現Ⅱ				担当者	稲井 達也・影山 陽子 並木真理子	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定)</b> <b>【 到達目標 】</b> 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。  <b>【授業時間外学習】</b> 興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)				<b>第9回 本から学ぶ②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・書誌情報を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 新聞を活用した意見の構築①</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 記事を要約する。(4.0hr)				<b>第10回 本から学ぶ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 新聞を活用した意見の構築②</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 討議の内容を整理し、要約する。(4.0hr)				<b>第11回 本から学ぶ④</b> <b>【 到達目標 】</b> 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 新聞を活用した意見の構築③</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 記事をもとにして、意見文を書く。(4.0hr)				<b>第12回 インタビューを書く①</b> <b>【 到達目標 】</b> インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> インタビューのまとめ方の構想を練る。(4.0hr)			
<b>第5回 アカデミック・ライティングの基礎①</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 意見文を書く。(4.0hr)				<b>第13回 インタビューを書く②</b> <b>【 到達目標 】</b> インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> インタビューを完成させる。(4.0hr)			
<b>第6回 アカデミック・ライティングの基礎②</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 意見文を書く。(4.0hr)				<b>第14回 インタビューを読み合う</b> <b>【 到達目標 】</b> 完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。  <b>【授業時間外学習】</b> 推敲して修正したインタビューの文章を見直す。(4.0hr)			
<b>第7回 アカデミック・ライティングの基礎③</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをする。(4.0hr)				<b>第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 本から学ぶ①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・新書の読み方を知る。 ・本の選び方と読み方を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『なぜあの時あきらめなかったのか』小松成美著（PHP新書）※変更の予定あり 参考書1：『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編（東京書籍） 参考書2：『聞く力』阿川佐和子著（文春新書）							
<b>【関連科目】</b> 国語表現Ⅰ							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出物40％・発表20％・課題40％							

# 授業形態：講義

科目名	栄養学入門				担当者	古泉 佳代・大村 恵利	
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス・食生活と社会環境</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。 (2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。  <b>【授業時間外学習】</b> 毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 食生活と健康④食物と栄養（脂質）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)脂質の種類、体内での働き及び代謝を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 食を取り巻く環境の変化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フードシステムの複雑化にともなっている食生活の課題を認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 食生活と健康⑤食生活と健康</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 食料の供給と課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 食生活と健康⑥食の情報を読み解くリテラシー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 健康により根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考えたと3つの構成要素について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 食生活と文化①食物のおいしさ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 (2)おいしさの要因を理解することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 食生活と文化②共食の現代的課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 食生活と健康①食物と栄養（栄養バランス）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 食生活と文化③日本の食文化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 食生活と健康②炭水化物</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)炭水化物の代謝を理解することができる。 (2)炭水化物の種類を理解することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 食育とフード・リテラシー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)			
<b>第8回 食生活と健康③飲み物の糖度</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)飲み物の糖度について理解できる。 (2)糖質の摂取方法について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけでなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 編著者 金子佳代子・松島悦子「白熱教室 食生活を考える」（アイ・ケイコーポレーション出版） 参考資料は、適宜配布する。							
<b>【関連科目】</b> スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）							
<b>【成績評価方法】</b> 期末テスト達成度（100％）。なお、試験は試験期間中に別途実施する。							

# 授業形態：講義

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生理学・生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション・概論</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方、生理学・生化学の学問領域を理解する。日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第9回 エネルギー代謝</b> <b>【 到達目標 】</b> 3つのエネルギー産生機構について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 筋 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 筋の種類・微細構造、筋収縮様式を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第10回 ホルモン</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動に伴うホルモン応答とその作用について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 筋 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 骨格筋の損傷・疲労・トレーニングによる変化を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第11回 血液</b> <b>【 到達目標 】</b> 血液の成分・役割・運動による変化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 神経</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動による中枢・末梢神経系の応答、反射について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第12回 骨</b> <b>【 到達目標 】</b> 骨の構造・代謝・測定法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 呼吸 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 呼吸器系の構造・機能、酸素輸送について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第13回 脂肪</b> <b>【 到達目標 】</b> 脂肪の種類・代謝・測定法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 呼吸 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 最大酸素摂取量の意味・有用性・測定法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第14回 環境生理</b> <b>【 到達目標 】</b> 暑熱・低酸素・無重力環境に対する身体の適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 循環 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 心臓・血管系の構造と機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			<b>第15回 運動時における生理応答</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の運動時に生じる様々な生理学・生化学的変化の相互作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 循環 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 自律神経系による循環機能の調節を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義の理解のためには、講義内容を各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべることが大切である。講義終了時にレポート作成、および翌回講義開始時に小テストを行う。その後の講義内において、これらのフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「生化学」「解剖学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。						
<b>【関連科目】</b> スポーツ生理学、運動処方論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内での発言、小テスト、レポートを20%、筆記試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。						



# 授業形態：講義

科目名	近現代史入門				担当者	山本唯人	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 東京から見る日本近現代史/みなさんにとって「いま」とはいつからのことですか？なぜ、そう思うのですか？歴史を学ぶとはこの質問への自分なりの答えを、いま、見ることのできる証拠に照らして確かめていくことです。答えはひとつによって違います。この講義を受講されるみなさんは、年表を覚えることが歴史だという発想を、まず捨ててください。以上の問いを共有しつつ、明治、大正、昭和、平成にいたる日本の近現代史を、身近な街・東京を題材に初歩から学んでいきます。上の質問について、考えてみてください。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 インTRODクッション</b> <b>【 到達目標 】</b> 幕末開国から現在まで。歴史がどう流れてきたかを概観し、この講義でどこを、どのように学んでいくかを説明します。評価方法などについても説明するので受講を希望する方は必ず出席してください。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 街頭の民主主義 (1) 日露戦争、日比谷焼き打ち事件</b> <b>【 到達目標 】</b> 明治の後期から大正時代にかけては、都市の街頭に多くのひとびとが繰り出して自らの主張を訴える様々な行動が行われた時代でした。そうしたひとびとの行動を「街頭の民主主義」という視点から見つめ直します。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 東京の誕生</b> <b>【 到達目標 】</b> そもそも「東京」とはいつごろ、どのように成立したのか。これまでの研究から確認していきます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 街頭の民主主義 (2) 第一次世界大戦、米騒動、普通選挙</b> <b>【 到達目標 】</b> 第9回の続編です。街頭におけるひとびとの行動が、「普通選挙」の仕組みを生み出すというかたちで、現代にその遺産をもたらしていることを見ていきます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 開国と文化変容 (1) 横浜居留地</b> <b>【 到達目標 】</b> 幕末開港は日本社会に大きな影響を与えます。その影響を外国に開かれた「窓」、居留地の風景から探ります。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 関東大震災と「大東京」の時代</b> <b>【 到達目標 】</b> 関東大震災と東京大空襲というふたつの災害を通じて、それまでの東京のまちなみは大きく変わっていきます。第11回は関東大震災とその復興のなかであられた「大東京」のまちなみを見ます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 開国と文化変容 (2) 築地居留地</b> <b>【 到達目標 】</b> 第3回の続編として、東京に開かれた築地居留地について見ていきます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 東京大空襲と東京の復興</b> <b>【 到達目標 】</b> 第11回の続編として、東京大空襲と戦後の復興を扱います。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 街頭空間の成立 (1) パリの都市計画</b> <b>【 到達目標 】</b> 東京が成立した時代、世界の都市で大きな街づくりが進められていました。東京のまちづくりを見る前に、その参考の一つになった19世紀パリの都市計画を見ます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 バブル期の都市政治 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「バブルの時代」は現代に続く東京の再開発がはじまった時代でもありました。「バブルの時代」とは何だったのか？東京の再開発を軸に探っていきます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 街頭空間の成立 (2) 商店街の形成、市区改正</b> <b>【 到達目標 】</b> 多くのひとが「都会らしさ」を感じる場所とは、不特定多数のひとが入り乱れる「街頭」である場合が多いです。こうした「街頭」空間の多くは「東京」になって初めて生まれたものです。その一つとして商店街の形成を扱います。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 バブル期の再開発 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 第13回の続編です。バブルの崩壊から現在までを展望します。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 街頭空間の成立 (3) 新宿御苑</b> <b>【 到達目標 】</b> 特殊な街頭空間のひとつに公園やオープンスペースがあります。戦前までは皇室の所有であり戦後になって一般市民に開放された新宿御苑の成り立ちをたどります。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 おわりにーブレオリピックの時代に</b> <b>【 到達目標 】</b> 最後に「いま」の時代をふりかえります。ここまで歴史を学んだみなさんには「いま」をより確かに把握することができることでしょ。いまの東京を、つまり「わたしたち」の未来を考えて、講義全体をまとめます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 街頭空間の成立 (4) 自由民権、帝国議会、東京市役所</b> <b>【 到達目標 】</b> 街頭空間は単なる交通や商業の場所ではなく、政治の舞台でもありました。日本に「議会」を成立させる原動力になった自由民権運動を都市の「街頭」を舞台にした言論活動という視点から見ます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。毎回の授業のはじめにふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「東京」などのテーマに「関心のある」みなさんの参加を歓迎します。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。							
<b>【関連科目】</b> 必須ではありませんが「歴史」や「社会」に関連する科目をとっておくとよいでしょう。							
<b>【成績評価方法】</b> 2回のミニレポートと期末レポートで評価します。ミニレポート40%（1回20%）、期末レポート60%で評価します。							

科目名	人間心理の理解				担当者	三好 昭子	
英文名	Personality Psychology						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえているのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものの方を幅広く修得する。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 感覚・知覚</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。 (3)心理的世界と物理的世界との関連を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 人間の知覚についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第9回 パーソナリティ③構造論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フロイトの構造論について理解する。 (2)レヴィンの構造論について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 構造論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 感情・情動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)どのようにして感情を感じるのかを理解する。 (2)表情の読み取りについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 感情の起源と表情の読み取りに関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第10回 防衛機制に基づく個人差とエゴグラムによる自己理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)防衛機制に基づく個人差について理解する。 (2)エゴグラムを実施し、自己分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 防衛機制に基づく個人差とエゴグラムの理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 対人認知・印象形成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)対人認知について理解する。 (2)印象形成について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第11回 知能とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)知能の定義について理解する。 (2)知能テストについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 知能と知能テストの理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 態度変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)態度変容に影響を与える要因について理解する。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第12回 知能の発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)行動遺伝学について理解する。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 恋愛</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 恋愛の理解に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第13回 発達の可塑性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)初期経験の重要性について理解する。 (2)社会的に剥奪された環境からの社会復帰について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 発達の可塑性についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 グループダイナミクス(集団力学)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)向社会的行動(思いやり)について理解する。 (2)他者への同調・服従について理解する。 (3)他者への同調・服従がまねく危険性について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 向社会的行動や同調・服従の理解に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第14回 健康なパーソナリティ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)健康なパーソナリティについて理解する。 (2)ストレスへの対処について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 健康なパーソナリティの理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 パーソナリティ①類型論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)クレッチマーの類型論について理解する。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 類型論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第15回 自己実現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)パーソナリティの変容について理解する。 (2)なりたい自分について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 自己実現の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 パーソナリティ②特性論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)共通特性について理解する。 (2)ギルフォードの特性論について理解する。 (3)Big Fiveについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 特性論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行ったり、グループでロールプレイやディスカッションを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているため、しっかり復習すること。次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：『心理学 心と行動のメカニズムを探る』越智啓太・著(樹村房 2012)							
<b>【関連科目】</b> 教育心理学、生徒指導法(進路指導を含む)、精神発達							
<b>【成績評価方法】</b> 課題の提出30%、期末テスト(試験は試験期間中に別途実施)を70%として評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	ボランティア活動論				担当者	上 杉 杏	
英文名	Citizenship Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、大会の成否に影響を与えると言われるボランティアの存在に注目が集まっている。本講義では、各分野で活動している実践者からの現場の生の声を通して、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の学習目標を決める。(4.0hr)				<b>第9回 ボランティア活動の歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。 (2)ボランティア思想の発展史を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 ボランティア活動の役割と背景</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第10回 ボランティア活動事例の紹介（3）（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 ボランティア活動事例の紹介（1）（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第11回 大学の地域貢献</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。 (2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 スポーツボランティア活動の基礎知識</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツボランティアの定義と分類、具体的なスポーツボランティア活動を知る。 (2)スポーツボランティアの現状と課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第12回 ボランティア活動体験と報告（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)			
<b>第5回 スポーツイベントやプログラム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツイベントの分類、効果について理解を深める。 (2)今後のスポーツイベントのあり方を探る。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第13回 ボランティア活動体験と報告（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)			
<b>第6回 スポーツイベントボランティア</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)大規模スポーツイベントにおけるボランティアの活動を理解する。 (2)スポーツイベントボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第14回 ボランティア活動体験と報告（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)			
<b>第7回 ボランティア活動事例の紹介（2）（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 海外のスポーツボランティア</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)海外のスポーツボランティアの取り組みについて理解する。 (2)海外の事例をもとに、日本のスポーツボランティアのあり方を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	日常生活の社会学				担当者	田北康成	
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何が語られないかと考える習慣を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「日本」という国の好きなおところ、きらいなおところを考えておく。(4.0hr)				<b>第9回 新しい社会運動と「地域」の変革を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「地域」の人間関係を取り戻すいくつかの試みを学ぶ。 (2)「新しい社会運動」が従来型の労働運動とどう違うかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「絆」「助け合い」という言葉から連想することを考えておく。(4.0hr)			
<b>第2回 社会学はどのような考え方をするのか(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。 (2)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)				<b>第10回 これからのライフステージを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフステージに伴う生活の変化を捉える。 (2)働き方に縛られない生活を把握し、将来、当事者として考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：将来、どこに住みたいか、その理由とともに考えておく。(4.0hr)			
<b>第3回 社会学はどのような考え方をするのか(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：次に食べに行きたい「おいしい店」を探しておく。(4.0hr)				<b>第11回 働くことの意味を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。 (2)労働条件の持つ意味を把握するとともに、金銭に換算されない労働を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：家事労働は「いくら」もらえば満足するかを考えてみる。(4.0hr)			
<b>第4回 人が持っているバイアスを考える (1) ジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解けるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)				<b>第12回 セーフティネットの持つ意味</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「相対的剥奪の理論」について理解する。 (2)セーフティネットが機能しない問題について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「生活保護」について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
<b>第5回 人が持っているバイアスを考える (2) エスニシティ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「日本」という国に住んでいることのバイアスを考えてみる。 (2)前回の授業とともに「一般化された他者」になる道筋を考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：行ってみたい、住んでみたい国をその理由とともに考えておく。(4.0hr)				<b>第13回 ハンディキャップを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「しょうがい」とはどのようなものか、何が生きづらさをもたらすかを考える。 (2)「パラリンピック」に何が期待されるかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：身の回りにおける「ユニバーサル・デザイン」を探しておく。(4.0hr)			
<b>第6回 家族の役割について考える (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「家族」に対する理論的な分析枠組みを知ると共に、その機能を学ぶ。 (2)「家族」の制度がかかえる問題や課題を知り、将来、当事者として考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「夫婦別姓」についてどう思うか、その理由を考えておく。(4.0hr)				<b>第14回 病と医療を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)タルコット・パーソンズの「病人役割」について把握する。 (2)病とソーシャルキャピタルの関係について把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分の住んでいる場所の休日・深夜の医療体制を調べておく。(4.0hr)			
<b>第7回 家族の役割について考える (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「家制度」の変化と現状、課題を知る。 (2)ライフステージの変化を捉え、家族の絆がどのような場面で必要かを考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分の「お墓」について考えておく。(4.0hr)				<b>第15回 全体のまとめと補論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)これまで14回かけて学んできたこと全体の復習をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：これまでにとったノートを整理し、分からないところを調べておく。(4.0hr)			
<b>第8回 人や地域コミュニティのネットワークをどう形成するか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)災害時のコミュニティ形成について学び、ふだん求められることを考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分が住んでいる地区の避難場所を調べておく。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。ほぼ毎回何らかの予習課題が用意されている。世の中の動きについて積極的な好奇心を持つことで授業への主体的な参加が求められる。授業は板書、パワーポイント、書画カメラ、映像資料を複合的に使用するので、履修者が整理しやすいノート作りを自らしてほしい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は不使用。参考書は随時指示するので、事後学習に役立ててほしい。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（10％）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（90％）との総合点で評価する。（試験は試験期間中に別途実施する）							

# 授業形態：講義

科目名	数と論理				担当者	水野有希	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 計算の基礎1、整数の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 比と割合</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 比について復習する。 (2) 利益算について学ぶ。 (3) 濃度算について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 百分率や歩合の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 計算の基礎2、平方根</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 実数および平方根の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 速さ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 速さ、時間について復習する。 (2) 通貨算、流水座について学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 速さの公式や計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 方程式</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 1次方程式、連立方程式について復習する。 (2) 2次方程式について復習する。 (3) 不等式について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 方程式の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 特殊算</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 鶴亀算について復習する。 (2) 集合算について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 関数1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 比例と反比例について学ぶ。 (2) 1次関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 1次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 場合の数と確率</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 順列と組み合わせの公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 関数2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 2次関数について学ぶ。 (2) 平方完成について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 2次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 図形の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 図形の性質について学ぶ。 (2) 図形の体積と表面積について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 図形の種類や計算式の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 関数3</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 関数の領域（不等式）について学ぶ。 (2) 関数の応用について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 関数の領域（不等式）の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第14回 合同と相似</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 合同と相似について復習する。 (2) 平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 合同と相似の定義の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 数列</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 等差数列、等比数列について理解する。 (2) 数列の応用問題について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 数列の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 命題と推論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 命題とは何かを理解する。 (2) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 命題の対偶について予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 規則性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) n進法について理解する。 (2) 剰余算、植木算について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に15分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをしますので、間違えた人は必ず復習をしてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回行うミニ課題40%、期末試験60%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。							

# 授業形態：講義

科目名	現代の倫理				担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：倫理的な問い</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第9回 環境倫理：未来に対する責任</b> <b>【 到達目標 】</b> 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第2回 「幸福」「善」とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、善の定義を試み、開かれた(未決の)間であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会</b> <b>【 到達目標 】</b> メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第3回 普遍化可能性1：社会契約</b> <b>【 到達目標 】</b> 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第11回 生命倫理1：人間の尊厳</b> <b>【 到達目標 】</b> 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第4回 普遍化可能性2：自由意志</b> <b>【 到達目標 】</b> 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第12回 生命倫理2：生殖医療</b> <b>【 到達目標 】</b> テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任</b> <b>【 到達目標 】</b> 科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第6回 功利の原理(2)：自由主義的な行為原則</b> <b>【 到達目標 】</b> 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第14回 倫理的相対主義</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第7回 正義：自由と平等</b> <b>【 到達目標 】</b> 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、その両立可能性について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第15回 規範なき時代とニヒリズム</b> <b>【 到達目標 】</b> 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第8回 自然と文明：道具的理性</b> <b>【 到達目標 】</b> 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。原理的に考えることを要しますが、具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

# 授業形態：講義

科目名	日常生活の法律				担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)				<b>第9回 表現物と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 アルバイトと法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)				<b>第10回 表現物と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 著作権が問題となった事例を調べる。(4.0hr)			
<b>第3回 アルバイトと法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)				<b>第11回 ペットの飼育と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 法律におけるペットの定義について理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 恋愛関係と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)				<b>第12回 ペットの飼育と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 恋愛関係と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) DV防止法について理解する。 (2) リベンジポルノ防止法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 2つの法律に関連する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				<b>第13回 犯罪の取り調べと裁判の進め方</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 警察による取り調べに関する規定について理解する。 (2) 起訴から判決までの流れについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)			
<b>第6回 家族と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 結婚するために必要な手続について調べる。(4.0hr)				<b>第14回 試験と法律</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 偽計業務妨害罪について理解する。 (2) 私文書偽造罪について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 不正行為を禁止される理由について考える。(4.0hr)			
<b>第7回 家族と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。 (2) 養子に関する法制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 親子関係不存確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)				<b>第15回 日々の暮らしと法律</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 無戸籍問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 無戸籍問題を理解する。 (2) 無戸籍であることによって生じる不利益について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 無戸籍問題に関する新聞記事を調べる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果100%で評価する(良好な出席状況は、当然の前提です)。試験は試験期間中に別途実施。							

# 授業形態：講義

科目名	教養としての経済学				担当者	高橋 信勝	
英文名	Introductory Economics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 経済学への誘い（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。経済学の学問的特質を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済学の偉人について調べる（ケネー）。（4.0hr）				<b>第9回 有効需要論（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回のつづき。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本の財政について調べる（歳入）。（4.0hr）			
<b>第2回 経済学への誘い（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済学の偉人について調べる（スミス）。（4.0hr）				<b>第10回 IS-LM分析（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。市場経済への公的介入についての理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本の財政について調べる（歳出）。（4.0hr）			
<b>第3回 企業と経済</b> <b>【 到達目標 】</b> 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。（4.0hr）				<b>第11回 IS-LM分析（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回のつづき。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。（4.0hr）			
<b>第4回 GDPと三面等価の原則</b> <b>【 到達目標 】</b> ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。国民経済の数量的把握について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。（4.0hr）				<b>第12回 国際収支と為替レート（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。世界経済と日本経済とのかわり方を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。（4.0hr）			
<b>第5回 中央銀行の機能と金融政策（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。金融政策の枠組みについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。（4.0hr）				<b>第13回 国際収支と為替レート（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回のつづき。 <b>【授業時間外学習】</b> 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。（4.0hr）			
<b>第6回 中央銀行の機能と金融政策（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回のつづき。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。（4.0hr）				<b>第14回 戦後の日本経済</b> <b>【 到達目標 】</b> 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。（4.0hr）			
<b>第7回 インフレとデフレ</b> <b>【 到達目標 】</b> インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。（4.0hr）				<b>第15回 授業の総復習と問題演習</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。（4.0hr）			
<b>第8回 有効需要論（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。経済のマクロ分析について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。（4.0hr）							
<b>【学習上の留意点】</b> 経済学は体系的な学問であるから、授業理解の第一のカギは継続的な出席である。テキストの予習箇所をあらかじめ指示するので、必ず目を通しておくこと。毎回、授業のポイントを示したレジュメを配布する。授業ではキーワードを板書し、レジュメとテキストを参照しながら口頭で説明する。詳細な板書は行わないので、受講生各自がノートを整理し直すことが望ましい。また理解度を確認するため、問題演習を單元ごとに実施し、後続の授業でその解説を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							



# 授業形態：演習

科目名	英語EAP I				担当者	中村大輔	
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	ダンス学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 学術論文を理解するためには語彙・文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業ではcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。予習を前提としている授業なので、受講生は十分に準備した上で授業に臨むことになる。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 Introduction</b> <b>【 到達目標 】</b> この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 1: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)				<b>第9回 Why do some people hate broccoli?</b> <b>【 到達目標 】</b> メインアイデアのサポート文を把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 9: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)			
<b>第2回 Memory &amp; New Technology</b> <b>【 到達目標 】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 2: Finding the topic of a paragraphを予習する。(4.0hr)				<b>第10回 Ocean—An economic resource</b> <b>【 到達目標 】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 10: Finding steps in a processを予習する。(4.0hr)			
<b>第3回 Lying</b> <b>【 到達目標 】</b> パラグラフのトピックを把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 3: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)				<b>第11回 The health of our oceans</b> <b>【 到達目標 】</b> プロセスを説明する文章の構造を把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 11: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)			
<b>第4回 Fact or fiction: Science</b> <b>【 到達目標 】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 4: Finding the main idea of a paragraphを予習する。(4.0hr)				<b>第12回 Communication in natural disasters</b> <b>【 到達目標 】</b> 名詞の接辞を理解できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 12: Finding advantages and disadvantagesを予習する。(4.0hr)			
<b>第5回 Hoaxes</b> <b>【 到達目標 】</b> パラグラフのメインアイデアを把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 5: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)				<b>第13回 How do social networks affect our daily lives?</b> <b>【 到達目標 】</b> 物事に潜む二面性を表現する際の文章の構造を把握できる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 13: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)			
<b>第6回 The psychology of price</b> <b>【 到達目標 】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 6: Finding the topic and main dea of a readingを予習する。(4.0hr)				<b>第14回 The history of currency</b> <b>【 到達目標 】</b> 動詞の接辞を理解できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 Guerrilla marketing</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章全体のトピックとメインアイデアを把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 7: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)				<b>第15回 総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 Taste and color</b> <b>【 到達目標 】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> Skills and strategies 8: Finding supporting detailsを予習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。</li> <li>・授業には辞書（あるいはsmartphone等辞書機能として使用できるもの）を携帯すること。</li> <li>・履修者のレベルは英語1・2（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。</li> </ul>							
<b>【教科書・参考書など】</b> Williams, J & Wiese, D. (2016). Making connections: Intro. New York: Cambridge University Press. その他、参考書等は授業内で指示する。 ※上記テキストは現時点での予定であり、変更の可能性がある。詳しくは初回の授業で担当者の指示に従うこと。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	英語EGCI			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus(4.0hr)			<b>第9回 Regular and Current Activities</b> 【到達目標】 Practising present tenses  【授業時間外学習】 Review present tense usage(4.0hr)			
<b>第2回 Asking / Answering Questions</b> 【到達目標】 Practising question / answer format  【授業時間外学習】 Review question sentence grammar(4.0hr)			<b>第10回 Presentations: Invitations</b> 【到達目標】 Discussing schedules  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
<b>第3回 Likes and Dislikes</b> 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar  【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar(4.0hr)			<b>第11回 Part-time Work</b> 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary(4.0hr)			
<b>第4回 Presentations: Likes and Dislikes</b> 【到達目標】 Discussing preferences  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			<b>第12回 Duties and Working Conditions</b> 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary(4.0hr)			
<b>第5回 Family</b> 【到達目標】 Practising family vocabulary  【授業時間外学習】 Preview family vocabulary(4.0hr)			<b>第13回 Presentations: Part-time Work</b> 【到達目標】 Discussing part-time work  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
<b>第6回 People</b> 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary  【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary(4.0hr)			<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
<b>第7回 Preparations for Presentations: Family</b> 【到達目標】 Gathering and organising information  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
<b>第8回 Presentations: Family</b> 【到達目標】 Discussing family  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
<b>【教科書・参考書など】</b> Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

# 授業形態：演習

科目名	英語EAPⅡ				担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 英文読解演習（9）</b> <b>【 到達目標 】</b> プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 英文読解演習（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 パラグラフの構造を確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第10回 英文読解演習（10）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英文読解演習（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 パラグラフ間の関係を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第11回 英文読解演習（11）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英文読解演習（4）</b> <b>【 到達目標 】</b> パラグラフ間の関係を理解する。 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 英文読解演習（12）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英文読解演習（5）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第13回 英文読解演習（13）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの原稿を作成する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英文読解演習（6）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第14回 英文読解演習（14）</b> <b>【 到達目標 】</b> プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英文読解演習（7）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				<b>第15回 英文読解演習（15）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり返りを行う。 今後の学習目標を設定する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。(4.0hr)			
<b>第8回 英文読解演習（8）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの原稿を作成する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーションの課題に関して意見を構築し、発表すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験40%で評価します。							

# 授業形態：演習

科目名	英語EGCⅡ			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus(4.0hr)			<b>第9回 The City</b> 【到達目標】 Practising giving / receiving directions  【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary(4.0hr)			
<b>第2回 Questions about Past Experiences</b> 【到達目標】 Practising past tense questions / answers  【授業時間外学習】 Review past tense(4.0hr)			<b>第10回 Presentations: My Home</b> 【到達目標】 Discussing living space  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
<b>第3回 A Holiday in Florida</b> 【到達目標】 Listening in Context  【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary(4.0hr)			<b>第11回 School</b> 【到達目標】 Previewing school-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary(4.0hr)			
<b>第4回 Presentations: Holidays</b> 【到達目標】 Discussing a past experience  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			<b>第12回 Presentations: School</b> 【到達目標】 Discussing School  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
<b>第5回 Countries and Their Kitchens</b> 【到達目標】 Practising food-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary(4.0hr)			<b>第13回 Reading a Story</b> 【到達目標】 Reading comprehension  【授業時間外学習】 Reading Preparation(4.0hr)			
<b>第6回 Locations</b> 【到達目標】 Practising location vocabulary  【授業時間外学習】 Preview location vocabulary(4.0hr)			<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
<b>第7回 Presentations: A Country and its Kitchen</b> 【到達目標】 Discussing Foreign Countries  【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
<b>第8回 The Home</b> 【到達目標】 Practising home-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
<b>【教科書・参考書など】</b> Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

# 授業形態：演習

科目名	ドイツ語				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 初級レベルの基礎知識を確実なものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。 あいさつやとっさの一言が言える。  <b>【授業時間外学習】</b> 文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)				<b>第9回 前置詞の格支配</b> <b>【 到達目標 】</b> 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。  <b>【授業時間外学習】</b> 例文を覚える。(4.0hr)			
<b>第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)				<b>第10回 助動詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)			
<b>第3回 ドイツ語の文構造／自己紹介 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、ドイツ語で自らを表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)				<b>第11回 過去表現 (1) 過去形</b> <b>【 到達目標 】</b> 動詞の三基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）を知る。 過去形を使って過去を表す。  <b>【授業時間外学習】</b> 三基本形の規則性を覚える。(4.0hr)			
<b>第4回 ドイツ語の名詞を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 格変化の表の見方に慣れる。／自分に関連する名詞を調べる。(4.0hr)				<b>第12回 過去表現 (2) 現在完了形</b> <b>【 到達目標 】</b> 過去形と現在完了形との用法の違いを認識する。 現在完了形を使って日常生活を表現できる。 英語の完了形と違う点を確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 例文を覚える。(4.0hr)			
<b>第5回 冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。 「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)				<b>第13回 時の表現</b> <b>【 到達目標 】</b> 現在や過去、未来の表現を知る。(昨日、3日前、毎年、4月に、1週間、将来、等) 頻度や回数、継続、曜日を表現する。(頻繁に、5回、10年前からずっと、日曜日には、等)  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の部活動や趣味などの活動状況をドイツ語で説明してみる。(4.0hr)			
<b>第6回 複数形／否定冠詞を使った否定表現</b> <b>【 到達目標 】</b> sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)				<b>第14回 自己紹介 (3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分の過去、現在、未来をドイツ語で表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 家族や友人のことも表現してみる。(4.0hr)			
<b>第7回 自己紹介 (2)／数詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 簡単な自己紹介ができる。友人や家族のことを表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自己紹介文を何も見ずに表現する。(4.0hr)				<b>第15回 理解度の確認と補足説明</b> <b>【 到達目標 】</b> 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)			
<b>第8回 人称代名詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 半期しかないので、日本で、あるいは外国において自分をドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。そして、発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 平山・小野・藤由 『お菓子で学ぶドイツ語』朝日出版社 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の発表・課題提出25%、理解度確認のためのテスト結果を75%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

# 授業形態：演習

科目名	フランス語				担当者	山下利枝	
英文名	French						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらふ。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。(4.0hr)				<b>第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「エコ・ライフには自転車を」を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ロワール河の北と南」を読む。(4.0hr)				<b>第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。(4.0hr)			
<b>第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。(4.0hr)				<b>第11回 まとめと復習②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)7～10回のまとめと復習を実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシエル）」を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 日常の表現：自分のことを言う</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。(4.0hr)				<b>第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。(4.0hr)			
<b>第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。(4.0hr)				<b>第13回 フランスの映画鑑賞</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「7月14日は革命記念日」を読む。(4.0hr)			
<b>第6回 まとめと復習①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)4・5回のまとめと復習を実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「日仏マンガ交流」を読む。(4.0hr)				<b>第14回 フランス語の世界を理解するための注目点</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。(4.0hr)			
<b>第7回 日常の表現：数、時間、お金</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ストライキ大国フランス」を読む。(4.0hr)				<b>第15回 総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。(4.0hr)			
<b>第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）							

# 授業形態：演習

科目名	中国語			担当者	道上峰史	
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション：中国語について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての中国語の特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)			<b>第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
<b>第2回 発音の基礎：発音記号と四声</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての中国語の音声(発音・リズム)を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で習った発音を、繰り返し発声する。(4.0hr)			<b>第10回 基礎構文(Ⅳ)：過去形</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
<b>第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)			<b>第11回 基礎構文(Ⅳ)：過去形の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
<b>第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			<b>第12回 作文：自己紹介</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 自分について紹介する文章を作る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)			
<b>第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			<b>第13回 作文：日常の表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常表現をするための語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			<b>第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
<b>第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			<b>第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
<b>第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『《最新2訂版》中国語はじめの一步』竹島金吾監修/尹景春、竹島毅著(白水社)を元にして、講義用のプリントを配布します。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験(試験は試験期間中に別途実施)が70%となります。						

# 授業形態：演習

科目名	コリア語				担当者	李 貞 暎	
英文名	Korean language						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 <b>【授業時外学習】</b> 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)				<b>第9回 日常生活の表現：疑問表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)			
<b>第2回 ハングルの発音：基本母音字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)				<b>第10回 日常生活の表現：否定表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)			
<b>第3回 ハングルの発音：子音字（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				<b>第11回 日常生活の表現：用言の表現（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 <b>【授業時外学習】</b> 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)			
<b>第4回 ハングルの発音：子音字（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				<b>第12回 日常生活の表現：用言の表現（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 <b>【授業時外学習】</b> 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)			
<b>第5回 ハングルの発音：合成母音字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 合成母音を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)				<b>第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)			
<b>第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのパッチムを習得する。 <b>【授業時間内学習】</b> パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)				<b>第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 <b>【授業時外学習】</b> 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)			
<b>第7回 日本語のハングルの表記</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)				<b>第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 <b>【授業時外学習】</b> 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)			
<b>第8回 日常生活の表現：肯定表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 <b>【授業時外学習】</b> 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れること（ドラマ・映画・歌等）。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞暎）著（白水社）							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。							



# 授業形態：演習

科目名	社会のしくみとキャリア形成				担当者	影山 陽子・八田 益之	
英文名	Social System and Basic Career Development						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 現代社会の特徴を理解し、各人が幸福に生きるためには社会とどのように関わっていくのか、自分のキャリアデザインにおける様々な可能性について考える。また、それらの可能性を実現可能なものとするために、社会人としての基本、社会の仕組みや会社の仕組み・形態を学び、実践体験を通してキャリアデザインについて考え、キャリア形成に関わる実践的スキルを学ぶ。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス・現代社会の特徴について</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業受講のためのガイダンスを行う。 新聞記事を読み、現代社会の特徴について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身の受講目的を明確にする。新聞記事について理解を深め、自らも調べる。(4.0hr)				<b>第9回 社会の動きとキャリア (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会背景を踏まえ、働く際に求められている資質・能力・考え方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 学生と社会人との価値観の違いや社会において大切な考え方について復習する。(4.0hr)			
<b>第2回 大学と社会、生涯学習について</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学と社会とのつながり、生涯学習について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 「女性と仕事」で学んだ現代社会の特徴と自分自身の姿勢について考察する。(4.0hr)				<b>第10回 社会の動きとキャリア (3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 夢と現実を踏まえ、自分のキャリアを考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自らの希望とそれに向けての準備・努力の確認をする。(4.0hr)			
<b>第3回 幸福とキャリア (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> キャリアデザインにおける幸福について考え、幸福に生きるためのスキルについて知る。 自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」に対する答えをまとめる。(4.0hr)				<b>第11回 雇用形態と働き方 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 仕事の種類と具体的な内容を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 具体的な仕事や働き方について復習する。(4.0hr)			
<b>第4回 幸福とキャリア (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 選択に迷った時、挫折を経験した時の対処について考える。 自分なりの「問い」を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「問い」に対する答えをまとめる。(4.0hr)				<b>第12回 雇用形態と働き方 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学で学んだ事をどう活かすか、またどう活かせるかについて、実際の仕事に照らし合わせ幅広い視野に立って考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 体育大学で学んだことを活かす視点で自らの強みを考える。(4.0hr)			
<b>第5回 社会のしくみ・会社の仕組み (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 法律の変遷と雇用をめぐる変化を通して、働き方について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の卒業後の進路・生き方・働き方について考える。(4.0hr)				<b>第13回 実践研究 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 学生と社会人の違いについて実践研究する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞を活用し、授業で取り上げたテーマに照らし合わせて再読する。(4.0hr)			
<b>第6回 社会のしくみ・会社の仕組み (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 学歴と雇用(形態)について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 大学と専門学校の違いについて再考し、大学で学ぶ目的を確認する。(4.0hr)				<b>第14回 実践研究 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 企業・社会の価値観について実践研究する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞を活用し、取り上げられている出来事の背景を考える。(4.0hr)			
<b>第7回 社会のしくみ・会社の仕組み (3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学卒業後の生き方・働き方について、ケーススタディを通して考える。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでの自分の歩みをふり振り返り、現在の学生生活を考える。(4.0hr)				<b>第15回 体育大学で学んだことを社会で活かす</b> <b>【 到達目標 】</b> 体育大学で学んだことと企業が求める人材像、自分の描くキャリアデザインの接点や予測について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。(4.0hr)			
<b>第8回 社会の動きとキャリア (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会の変化と雇用のあり方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 現代社会の実態について復習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 2名の教員によるオムニバス授業である。「質問づくり」という手法を用いて、講義を聴講するだけでなくキャリアデザインを自分自身の問題として捉えるアクティブラーニング的手法で行う回もある。また、新聞記事を用いて、自らが気になる社会事象を調べ思考する回もある。それらへのフィードバックは実践の次回授業で行われる。学生諸君の主体性を持ち積極的に取り組む姿勢を期待する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> ・(参考書)『たった一つを変えるだけ: クラスも教師も自立する「質問づくり」』Dan Rothstein/原著, Luz Santana/原著, 吉田 新一郎 / 翻訳 (新評論) ・現代社会の動き(主として経済活動)を知るために、新聞を補助教材として使用する。							
<b>【関連科目】</b> 女性と仕事							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	データ分析と統計学				担当者	水野有希	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 統計の心構え、度数分布表とヒストグラム</b> <b>【到達目標】</b> (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)				<b>第9回 平均の推定と区間推定</b> <b>【到達目標】</b> (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（平均の推定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 データの種類・尺度水準</b> <b>【到達目標】</b> (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 分散の推定と区間推定</b> <b>【到達目標】</b> (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（分散の推定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 データのばらつきを数値に表すには</b> <b>【到達目標】</b> (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何かがあるかを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 t検定（対応あり）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 散布図と相関、相関係数</b> <b>【到達目標】</b> (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 t検定（対応なし）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 回帰直線</b> <b>【到達目標】</b> (1) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 カイ二乗検定</b> <b>【到達目標】</b> (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 アンケート作成</b> <b>【到達目標】</b> (1) アンケート作成の基本を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)				<b>第14回 分散分析</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（分散分析）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 確率について</b> <b>【到達目標】</b> (1) 確率の意味を復習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 実践課題</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実際のデータを使って分析を行います。  <b>【授業時間外学習】</b> 分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)			
<b>第8回 正規分布とその他の分布</b> <b>【到達目標】</b> (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。 また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【関連科目】</b> 数と論理、コンピュータ実践演習、情報処理Ⅰ、Ⅱ							
<b>【成績評価方法】</b> ミニ課題（講義中に出すもの）40%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）60%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

# 授業形態：講義

科目名	知の哲学				担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理論的に解読する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ</b> <b>【 到達目標 】</b> 哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の〈検討課題〉に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 感情：感情と認識</b> <b>【 到達目標 】</b> 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第2回 知の成立条件と定義：必要条件と充分条件</b> <b>【 到達目標 】</b> 知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題と定義のかたちで明晰に述べることを試みる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準</b> <b>【 到達目標 】</b> プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第3回 意味と明晰さ：曖昧と漠然</b> <b>【 到達目標 】</b> 定義の種類と、目的に応じたタイプを理解し、適切な分析的定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我</b> <b>【 到達目標 】</b> コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第4回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型</b> <b>【 到達目標 】</b> 立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第5回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論敵</b> <b>【 到達目標 】</b> 対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法</b> <b>【 到達目標 】</b> 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第6回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考</b> <b>【 到達目標 】</b> 欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第14回 現代の知の諸相3：俗悪なものの形而上学</b> <b>【 到達目標 】</b> 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第7回 立論の解剖学：樹形図の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第15回 知の主体的責任と知的誠実性</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第8回 知覚経験と認識：現象と実在</b> <b>【 到達目標 】</b> 知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、その限界と問題点を考察することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。予備知識は要りませんが、集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

# 授業形態：講義

科目名	教養としての日本文学				担当者	稲井達也	
英文名	Introduction to Japanese Literature						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 宮澤賢治は童話や膨大な詩を書き、いまでも多くの人々の心を魅了してやまない。東日本大震災後、賢治の作品は改めて注目されている。本科目では、没後80年余を迎えた賢治のひとと生涯について理解を深める。賢治の主要な童話や詩の鑑賞と分析を行いながら、賢治が私たちに伝えようとした思想に少しでも近づくことを目指す。また、作品を通して、自ら文学を楽しむ態度を養うとともに、文学作品の分析力を身に付ける。受講者は自ら主体的に「読者」として作品と向き合い、作品への理解を深めることを通して、問題意識を持って現代社会を問い直す視点を持つことが必要とされる。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 この授業の目的とねらい、宮澤賢治の生涯、同時代の作家との違い</b> <b>【 到達目標 】</b> 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。また、宮澤賢治の生涯について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第9回 イーハトーブ②</b> <b>【 到達目標 】</b> 『どんぐりと山猫』『狼森と狐森と盗森』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 自己犠牲①</b> <b>【 到達目標 】</b> 『グスコブドリの伝記』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第10回 イーハトーブ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 『風の又三郎』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 自己犠牲②</b> <b>【 到達目標 】</b> 『戌十公園林』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第11回 生命と宇宙①</b> <b>【 到達目標 】</b> 『銀河鉄道の夜』を読み解く①  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 生命①</b> <b>【 到達目標 】</b> 『よだかの星』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第12回 生命と宇宙②</b> <b>【 到達目標 】</b> 『銀河鉄道の夜』を読み解く②  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 生命②</b> <b>【 到達目標 】</b> 『なめとこ山の熊』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第13回 生命と宇宙③</b> <b>【 到達目標 】</b> 『銀河鉄道の夜』を読み解く③  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 家族①</b> <b>【 到達目標 】</b> 『疾中』（『病中』『眼にて云ふ』『夜』など）などの詩を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第14回 生命と宇宙④</b> <b>【 到達目標 】</b> 『銀河鉄道の夜』を読み解く④  <b>【授業時間外学習】</b> 授業記録の内容を充実させるため、授業全体を振り返り、加筆や訂正を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 家族②</b> <b>【 到達目標 】</b> 『青森挽歌』『オホーツク挽歌』などの詩を読み解く。また兄・清六の随筆を読む。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)				<b>第15回 宮澤賢治と現代社会</b> <b>【 到達目標 】</b> 東日本大震災後に宮澤賢治をどう読むべきかについて考え、賢治が私たちに問いかけてくることや、自然科学が私たちの生活に果たす役割について考え、現代社会を深く問い直すための視点を持つ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 イーハトーブ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 『注文の多い料理店』を読み解く。  <b>【授業時間外学習】</b> 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ・文庫本3冊をテキストとするので、履修者は第2回の授業までに各自で購入しておくこと。 ・宮澤賢治の諸作品を精読し、作品分析を行う。次回の授業で取り扱う作品を事前に読むのを前提に講義を進める。 ・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施する。定期試験では、テキストとする文庫本の持ち込みも認めないので、予め授業で取り上げた作品は全て読み直しておくこと。 ・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位取得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 『新編風の又三郎』宮澤賢治著（新潮文庫）、『銀河鉄道の夜』宮澤賢治著（新潮文庫）、 『注文の多い料理店』宮澤賢治著（新潮文庫） ※3冊とも使用する。必ず指定された「新潮文庫」を購入すること。 参考書 『宮澤賢治-存在の祭りの中へ-』見田宗介著（岩波現代文庫）、『宮澤賢治』吉本隆明著（ちくま学芸文庫）							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> ・授業時の提出物(40%)：授業の講義記録や作品を読んだ意見等を評価する。 ・定期試験(60%)：作品、及び授業内容への理解度を評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	音楽の世界				担当者	森 立 子	
英文名	The World of Music						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 世界の様々な音楽を、その様式と文化的背景とを学ぶことにより、より深く理解することを目指す。また、音楽と舞蹈の関係にも着目し、様々な時代、地域の例にふれつつ考察を進めていく。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 序説～人間と音楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか、いくつかの例を基に考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第9回 童歌の諸相</b> <b>【 到達目標 】</b> 童歌（わらべうた）にはどのようなものがあるのか。世界各地の例を鑑賞しながら理解するとともに、童歌の社会的機能についても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第2回 音階とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 音階の概念について学び、（西洋芸術音楽の）調性と音階の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第10回 祭りと言楽（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されてきたのか。主に歴史的な視点から考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第3回 様々な音階</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な種類の音階について学び、それらの音階に基づく音楽を鑑賞して、響きの違いを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第11回 祭りと言楽（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 今日の「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されているのか。実例を観ながら理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第4回 楽器の分類とその響き（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 楽器の分類法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第12回 舞曲とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞曲の種類について学び、その実例を鑑賞しながら、舞曲における音楽と舞蹈の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第5回 楽器の分類とその響き（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 代表的な楽器の音色と、その楽器を使用した楽曲について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第13回 音楽と民族的アイデンティティ（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 民族的アイデンティティの構築、強化に音楽がどのように用いられてきたのか、歴史的視点から考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第6回 音楽と「声」</b> <b>【 到達目標 】</b> 世界の様々な音楽において「声」がどのように活用されているのか、具体的な例を鑑賞しながら学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第14回 音楽と民族的アイデンティティ（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 音楽の中に現れる民族性の問題について、具体的な例を鑑賞しながら考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第7回 合唱の諸相</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な合唱の形態について学び、さらに文化的視点から合唱とは何かについて考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				<b>第15回 日本における西洋音楽の受容</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
<b>第8回 祈りの音楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 「祈り」のための音楽にはどのようなものがあるのか、世界各地の例を鑑賞しながら理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課す。課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。なお、ミニ・レポートの内容も成績評価の対象とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の際に随時紹介する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> ミニ・レポート50%、学期末レポート50%の割合で評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新		
英文名	Gender Issues						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 イントロダクション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> あらかじめ、自らがどのような事柄を「男らしい」「女らしい」と感じるのか、また、なぜそう感じるのかを考察し、授業に臨む。(4.0hr)				<b>第9回 近代スポーツとジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの概要を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容のうち、「ブライTON宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)			
<b>第2回 フェミニズムの歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)				<b>第10回 学校体育とジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)教員の男女比の偏りや、運動部の加入状況など、学校体育におけるジェンダー問題を具体的に理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえ、学校体育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)			
<b>第3回 男女共同参画社会ってなんですか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえ、男女共同参画社会を推進するために、国や自治体でどのような取り組みが行われているかを調べる。(4.0hr)				<b>第11回 セクシュアル・マイノリティと学校・スポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)多様性を保障する学校体育のあり方について検討する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、ジェンダー論の視点から、体育の教員やスポーツの指導者として注意しなければならないことをまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)「マジョリティ=正常」「マイノリティ=異常」ではないことを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように扱われているかを調べる。(4.0hr)				<b>第12回 スポーツと身体</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)身体的性差とスポーツとの関係を理解する。 (2)セクシュアル・マイノリティ当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容および『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ⅹ性のマイノリティとスポーツ」を参考に、スポーツにおける「公平」とは何かを考察する。(4.0hr)			
<b>第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (3)性感染症の実態について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容に示すデートDV防止に取り組み団体等のWebサイトを閲覧し、性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)				<b>第13回 メディアとスポーツとジェンダーと</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)			
<b>第6回 実は身近なデートDV</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)				<b>第14回 スポーツと人権</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)			
<b>第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 (3)スポーツ界における女性のリーダーシップの現状について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> あらかじめ、『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ⅰ総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)				<b>第15回 日常生活世界に見るジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)家族、就業、政治などの場面で現れるジェンダー問題について理解する。 (2)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で指示する男女共同参画白書平成30年版 (Web版) の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)			
<b>第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日本における女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 毎時間配布するハンドアウトは、講義を聞いたうえで必要な事項を書き込むことで、資料として完成するように作成しています。ただし、授業内容を理解するためには、単なる穴埋めにとどまらず、そのほかの部分についても積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを5回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 特指定しない。 参考書は、『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・来田享子著 (2018) ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著 (2016) 八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著 (2013) ミネルヴァ書房							
<b>【関連科目】</b> 女性と仕事、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ心理学							
<b>【成績評価方法】</b> リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。 ※試験は試験期間中に別途実施する。							

# 授業形態：演習

科目名	コンピュータ実践演習				担当者	水野有希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 情報技術について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 データベースについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データベースとは何かについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 レポート作成と論文作成の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 データベースの基本操作</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 プレゼンテーション資料の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 Excelの画面操作と印刷について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 画面操作について学ぶ。 (2) 印刷の方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 クラウドについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケート項目を考える。(4.0hr)				<b>第12回 グラフの作成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 基本的なグラフについて学ぶ。 (2) 複合グラフについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 グループにおけるコミュニケーション実践</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)				<b>第13回 Excelの総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第14回 Excelを利用したデータ分析の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 Excelの初級</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 Excelを利用したデータ分析の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 Excelの上級</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 1年生前期に行った情報処理の知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料を配付します。							
<b>【関連科目】</b> 情報処理Ⅰ、Ⅱ							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの）40%、グループ演習課題（第5回、第13回）25%、総復習問題（第15回）35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

# 授業形態：講義

科目名	人間生活と地球環境				担当者	鈴木信夫	
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				<b>第9回 温室効果ガス</b> <b>【 到達目標 】</b> 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)			
<b>第2回 原始地球の環境(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>第10回 崩れる生態系</b> <b>【 到達目標 】</b> 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)			
<b>第3回 原始地球の環境(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第11回 リサイクル法(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
<b>第4回 恐竜の絶滅</b> <b>【 到達目標 】</b> 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第12回 リサイクル法(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)			
<b>第5回 人為圧による野生生物の絶滅</b> <b>【 到達目標 】</b> 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等でドードー・リョウコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)				<b>第13回 リサイクル法(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
<b>第6回 酸性雨</b> <b>【 到達目標 】</b> 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)				<b>第14回 環境監査(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)			
<b>第7回 水問題</b> <b>【 到達目標 】</b> 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第15回 環境監査(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)			
<b>第8回 温室効果ガス</b> <b>【 到達目標 】</b> 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 小レポートの達成度を100%として評価する。							



# 授業形態：講義

科目名	ヨーロッパの文学と文化				担当者	加賀岳彦	
英文名	European Literature and Culture						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> ヨーロッパの文学は、日本を含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観</b> <b>【到達目標】</b> 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第9回 ヨーロッパ中世の文学</b> <b>【到達目標】</b> ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話</b> <b>【到達目標】</b> ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第10回 ルネサンスの文学①</b> <b>【到達目標】</b> 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学①</b> <b>【到達目標】</b> ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第11回 ルネサンスの文学②</b> <b>【到達目標】</b> 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学②</b> <b>【到達目標】</b> 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第12回 宗教改革</b> <b>【到達目標】</b> 宗教改革(Reformation)は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学</b> <b>【到達目標】</b> その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第13回 ヨーロッパ近代の文学①</b> <b>【到達目標】</b> 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。デフォー、スウィフト、ディケンズの作品を扱う。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』</b> <b>【到達目標】</b> ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第14回 ヨーロッパ近代の文学②</b> <b>【到達目標】</b> 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』</b> <b>【到達目標】</b> 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第15回 ヨーロッパの現代文学</b> <b>【到達目標】</b> 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 ヨーロッパ中世の文化</b> <b>【到達目標】</b> ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業時にテキストを配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	レクリエーションミュージック・合奏				担当者	今 角 夏 織	
英文名	Recreation music (Ensemble)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入</b> <b>【 到達目標 】</b> 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)				<b>第9回 ボディーパーカッション②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。  <b>【授業時間外学習】</b> 第8回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル</b> <b>【 到達目標 】</b> 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)				<b>第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識②</b> <b>【 到達目標 】</b> 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 第9回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル①</b> <b>【 到達目標 】</b> プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)				<b>第11回 リコーダー運指②/トーンチャイム導入</b> <b>【 到達目標 】</b> リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)				<b>第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム①</b> <b>【 到達目標 】</b> 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			
<b>第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー運指①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)				<b>第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①</b> <b>【 到達目標 】</b> トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)				<b>第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②</b> <b>【 到達目標 】</b> トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 担当するパートの復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表)</b> <b>【 到達目標 】</b> カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 第6回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 リコーダー&amp;トーンチャイム(発表)</b> <b>【 到達目標 】</b> 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。  <b>【授業時間外学習】</b> 第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)			
<b>第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー運指②</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜楽譜を配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。							

# 授業形態：講義

科目名	保育・教育心理学			担当者	中道直子	
英文名	Developmental and Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> (1) ヒトの生涯に渡る心身の発達・学習に関する基礎的な知識を身につける。(2) 乳幼児期を中心に、各発達段階の心理的特性を踏まえた教育や養護の基礎となる考え方を理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 発達とは</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 発達の定義、子ども観・発達観、発達に関する代表的理論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第9回 児童期の認知と学校教育への適応</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 児童期の認知の特徴について理解する。 (2) 学校教育への適応における問題について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 胎児期、乳幼児期の身体、運動、知覚</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 胎児期、乳幼児期の身体、運動、知覚の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 青年期の心理的特徴と発達課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 青年期の心理的特徴と発達課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 乳幼児期の親子関係</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 他者と関係を築くための基盤的能力について理解する。 (2) 養育者への愛着とその要因について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第11回 成人期～老年期の心理的特徴と発達課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 成人期～老年期の心理的特徴と発達課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 乳幼児期の言葉</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語獲得の基礎やそのメカニズムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第12回 学びの仕組み</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 学習に関する代表的理論をもとに学習の仕組みについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 乳幼児期の認知</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 乳幼児期の認知の特徴を説明できる。 (2) 認知発達段階について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第13回 学びの意欲</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 主体的な学習を促す動機づけやその要因について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 乳幼児期の社会情動的発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 乳幼児期の他者理解の発達について説明できる。 (2) 乳幼児期の情動やその制御の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第14回 記憶と知識</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 記憶のメカニズムについて理解する。 (2) 知識の種類やその性質について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 乳幼児期の仲間関係</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 乳幼児期の仲間関係の特徴について説明できる。 (2) 仲間関係に影響する要因について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第15回 学びの支援と評価</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 主体的な学びを可能にする教授方法、集団作りについて理解する。 (2) 保育・教育実践や子どもの学びを評価する際の視点やバイアスについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 発達障害</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 発達障害の特徴を説明できる。 (2) 発達障害児への指導法の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。講義内容についての質問は用紙にて受け付け、次の冒頭で回答する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 中澤 潤（編）『発達心理学の最先端』あいり出版						
<b>【関連科目】</b> 子ども家庭支援の心理学						
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を100%として評価する。						

科目名	社会福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Social Welfare					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 子ども家庭支援を行う専門職として必要な社会福祉の考え方、社会福祉法制度、社会福祉実践について学ぶことを目的とする。 我が国では少子高齢化が加速度的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。社会福祉は、すべての人が生きていく上で必ず利用する制度やサービスである。ライフステージに応じた生活問題とその支援について、基本的知識を習得することをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 社会福祉の意義、理念、歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。 (2) 社会福祉の歴史の変遷を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第9回 母子保健・医療福祉</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 母子保健施策の概要を理解する。 (2) 保育・教育・療育・保健・医療等の連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第2回 子ども家庭支援と社会福祉(1) 少子高齢化社会</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。 (2) 少子高齢化社会における子育て支援に関する今後の課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第10回 地域福祉・ボランティア活動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) ボランティア活動、NPO活動の役割を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第3回 子ども家庭支援と社会福祉(2) 現代の生活問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子ども家庭をめぐる現代の生活問題とその支援について、多角的に理解する。 (2) 日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第11回 利用者保護制度</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 情報提供と第三者評価について理解する。 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第4回 社会福祉の制度と実施体系</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会福祉の制度と法体系を理解し、概要を説明できる。 (2) 社会福祉行政、実施機関、社会福祉施設等を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第12回 社会福祉における相談援助</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 相談援助の意義と原則について理解する。 (2) 相談援助の方法と技術について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第5回 社会福祉と児童家庭福祉</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉について理解する。 (2) 社会福祉と児童の人権擁護、家庭支援との関連性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第13回 社会福祉の専門職</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会福祉の専門職・実践者について理解する。 (2) 社会福祉専門職としての保育士について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第6回 社会保障・公的扶助</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会保障の概要を理解する。 (2) 生活保護制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第14回 これからの社会福祉の課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) 社会福祉の今後の課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第7回 障害者福祉</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) インクルージョン、共生社会、合理的配慮等の障害者福祉の理念を理解する。 (2) 障害者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			<b>第15回 諸外国の動向</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 諸外国の社会福祉の動向を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第8回 高齢者福祉</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 高齢者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 (2) 介護保険制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 新聞やTVのニュース報道を適宜取り上げ、現代社会に実際に起こっている生活問題をテーマにディスカッションを進めていく。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチする感性を養っておくことが大切である。自身の生活と結びつけながら福祉関連問題を理解し、専門職として必要な基礎知識を身につけてほしい。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 子ども家庭福祉						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。						

# 授業形態：講義

科目名	子どもの運動発達				担当者	森田陽子	
英文名	Development of Children's Movement						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 子どもの誕生から就学前までの発育に伴う運動発達を、運動学的な観点から捉えて学習する。子どもの体力低下が問題視されている現在、幼稚園教諭や保育士等にとって必要な子どもの運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 近年の子どもの状況</b> <b>【授業時間外学習】</b> (1)近年の子どもの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2)乳幼児期とはどのような時期なのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 近年の子どもの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 運動指導のポイント3 (環境を工夫する、安全を考える)</b> <b>【到達目標】</b> 運動指導のポイントの観点から、運動にふさわしい環境、安全についての基本的な考え方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 環境の工夫、安全について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 運動とは何か1 (運動能力の低下からみえてくるもの)</b> <b>【到達目標】</b> 運動能力の低下から見えてくる幼児期の運動の在り方や、運動能力検査から見た課題を知り、運動がなぜ幼児に必要なかということを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動能力の低下からみえてくるものについて、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 運動指導のポイント4 (援助の仕方を考える)</b> <b>【到達目標】</b> 運動指導のポイントの観点から、子どもの特性に合った援助の仕方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 援助の仕方について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 運動とは何か2 (運動することで期待できる効果)</b> <b>【到達目標】</b> 運動がなぜ幼児に必要なかという観点から、運動することで期待できる効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動することで期待できる効果について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 運動指導のポイント5 (遊びの変化や発展を考える)</b> <b>【到達目標】</b> 運動指導のポイントの観点から、子どもの遊びの変化や発展を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遊びの変化や発展について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 遊びと運動1 (生活としての運動)</b> <b>【到達目標】</b> 遊びと運動の観点から、生活としての運動とはどういうことを意味するのかを知る。また、子どもの生活と運動との関連について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 生活としての運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 運動にかかわる現代的課題1 (幼小の連携、家庭との連携)</b> <b>【到達目標】</b> 運動にかかわる現代的課題の観点から、幼小の連携、家庭との連携における課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼小の連携、家庭との連携について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 遊びと運動2 (遊びの中の運動)</b> <b>【到達目標】</b> 遊びと運動の観点から、遊びの中の運動、運動と遊びについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遊びの中の運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 運動にかかわる現代的課題2 (個人差のある場合の指導)</b> <b>【到達目標】</b> 運動にかかわる現代的課題の観点から、個人差のある場合の指導について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 個人差のある場合の指導について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 遊びと運動3 (動機づけと運動)</b> <b>【到達目標】</b> 遊びと運動の観点から、動機づけと運動、特に子どもの運動遊びに関連した動機づけについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動機づけと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 運動にかかわる現代的課題3 (現代の子どもと運動)</b> <b>【到達目標】</b> 運動にかかわる現代的課題の観点から、現代の子どもについて理解し、いかに運動的なアプローチをかけるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 現代の子どもと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 運動指導のポイント1 (運動量を考える)</b> <b>【到達目標】</b> 運動指導のポイントの観点から、子どもの運動量について理解するとともに、生活の見直しという点にも目を向ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動量について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な今後の方向性の理解</b> <b>【到達目標】</b> 現場における運動指導を事例として挙げる。それについてこれまでの講義で理解したことを基に今後現場で必要とされる子どもの運動発達について考える。そこから保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者等に必要な方向性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第1回～第15回の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 運動指導のポイント2 (運動の質を考える)</b> <b>【到達目標】</b> 運動指導のポイントの観点から、運動の質を考える。運動パターンのバリエーションを考え、運動指導の質を高める。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動の質について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 保育現場において、子どもの体力不足に対応できる指導力を身につけた幼稚園教諭や保育士等が求められている。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことができるよう学習する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 前橋明編著『幼児の体育—動きを通して心を育む』建邦社(2017年) 文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)							
<b>【関連科目】</b> 幼児体育、運動あそび							
<b>【成績評価方法】</b> 授業の習熟度・理解度50%、最終試験50%。試験は試験期間中に別途実施する。							

# 授業形態：講義

科目名	保育原理			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Principle of Child Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 保育という営みはどのようなことをいうのか。子ども観の変遷や保育の思想の歴史の経緯について学び、保育所・幼稚園・認定こども園の成立の経緯や保育制度について理解する。また、子どもの最善の利益や子どもの権利保障、発達保障など保育の理念や保育の意義について、現代の子どもや子育てにかかわる課題を踏まえ、理解を深めていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 はじめに：「保育原理」のオリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「保育」の意味を考え、「保育原理」で学ぶ全体像を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの「はじめに」と「目次」を読み、保育原理の全体像を掴む。(4.0hr)			<b>第9回 保育をどのように考え、進めるべきか</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針の保育所保育の特性日本の保育施設が誕生する頃の時代背景を調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 「保育」の意味を考える1</b> <b>【 到達目標 】</b> 児童福祉法、児童憲章を視点として保育の意味を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの児童福祉法、児童憲章を読み、保育の意味を考える。(4.0hr)			<b>第10回 保育所保育の内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 「保育内容」の構造とポイントを知り、「養護」と「教育」の一体化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針を読み、保育内容への理解を深める。(4.0hr)			
<b>第3回 「保育」の意味を考える2</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育士の専門性について理解し、専門性の修得に必要なことを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育士に必要な専門性について確認する。(4.0hr)			<b>第11回 保育の計画と保育の質の向上</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育の計画の意義と保育の循環について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育の計画について、どのような計画があるのかを調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 保育の場について知る1</b> <b>【 到達目標 】</b> 家庭における保育について、子育てをめぐる社会の変化を通して理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子育てをめぐる社会の変化について資料を読み、家庭における保育の社会背景を考える。(4.0hr)			<b>第12回 多様化する保育ニーズ</b> <b>【 到達目標 】</b> 多様化する保育形態、保育ニーズについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 多様化する保育ニーズについて調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 保育の場について知る2</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所保育についての意義及び目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針の保育所の役割を読み、改めて保育士の役割を考える。(4.0hr)			<b>第13回 保育者に求められる子育て支援</b> <b>【 到達目標 】</b> 子育て支援の必要性とその実際を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 地域子ども・子育て支援事業について調べ、概要について確認する。(4.0hr)			
<b>第6回 保育の場について知る3</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園、認定こども園について、保育の意義及び目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園の現状、認定こども園の現状を調べ、最近の傾向を知る。(4.0hr)			<b>第14回 保育者のあり方を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会状況の変化からみた保育者の存在について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の関心のある保育の時事問題について調べ、考えをもつ。(4.0hr)			
<b>第7回 保育の思想・歴史を学ぶ1</b> <b>【 到達目標 】</b> 西洋における近代保育思想・歴史を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> コメニウス・ルソー・フレーベル・ペスタロッチの保育思想を調べて確認する。(4.0hr)			<b>第15回 日本の保育の現状と課題</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの総括として、最近の保育問題について、社会的背景をもとに課題を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでに学んだ内容を整理し、再確認する。(4.0hr)			
<b>第8回 保育の思想・歴史を学ぶ2</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本における保育思想・歴史を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 倉橋惣三の保育思想を調べて確認する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書を用いて授業を進めるが、授業内容を毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立てるなど理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。保育原理は保育に関する他の科目の基盤となる科目であり、自ら他の科目との関連や共通性を見出し、保育の全体像を描く努力をしてほしい。なお、理解度確認のため、授業内試験を行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『新・保育原理[第4版]—すばらしき保育の世界へ—』三宅茂夫編（株式会社みらい） 参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他適宜参考資料を提示、配布する。						
<b>【関連科目】</b> 保育者論、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、教育原論						
<b>【成績評価方法】</b> 平常点（授業への参加度、授業内の小レポートを含む）及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ運動学			担当者	石塚 浩	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 運動技能の構造</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			<b>第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第2回 技術や戦術と専門的体力の関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			<b>第10回 運動の構造(局面構造に着目して)(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動形式(循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ)から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第3回 運動技能と発達との関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。  <b>【授業時間外学習】</b> 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)			<b>第11回 運動の構造(リズム構造に着目して)(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術</b> <b>【 到達目標 】</b> 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			<b>第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第5回 戦術に関する要因とその具体例(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			<b>第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第6回 戦術に関する要因とその具体例(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			<b>第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第7回 技術練習の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			<b>第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第8回 戦術練習の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、板書を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編(大修館書店) 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳(大修館書店) 「運動学講義」金子明友、朝岡正雄・編著(大修館書店)、「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著(不味堂出版)						
<b>【関連科目】</b> 体操Ⅰ、器械運動Ⅰ、陸上競技Ⅰ、水泳Ⅰ、バスケットボールⅠ、バレーボールⅠ、スポーツコーチング論、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、スポーツコンディショニング論、トレーニング計画論、運動技能評価法など						
<b>【成績評価方法】</b> 全体の20%は教回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80%はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施。						

# 授業形態：実技

科目名	水泳			担当者	森田陽子	
英文名	Swimming					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組み、水泳に関する基礎知識を理解し、正しい泳法を習得する。						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> (1)授業の進め方を理解する。 (2)各泳法を映像で確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第2回 幼稚園・保育園における水あそびの現状</b> <b>【到達目標】</b> (1)保育現場の水あそび事情を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第3回 水と事故・入水に当たっての諸注意</b> <b>【到達目標】</b> (1)子どもと水の事故について知る。 (2)着衣泳を体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第4回 浮きやすい姿勢を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1)浮きやすい姿勢を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第5回 進みやすい姿勢を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1)進みやすい姿勢を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第6回 水を押す方向を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1)水を押す方向を意識して泳ぐ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第7回 補助用具を使用して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1)手や足に補助用具をつけて泳ぎ、正しい技術の習得をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>第8回 苦手な泳ぎを撮影し自分の泳ぎを確認する</b> <b>【到達目標】</b> (1)撮影した映像を見て各自の泳ぎを修正する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> それぞれの泳法（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ）の技術を習得すること。それぞれの特性に合わせた体の使い方を理解すること。怪我や事故のないように、自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の中で、随時紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 子どもの運動発達、幼児体育、運動あそび、身体表現						
<b>【成績評価方法】</b> 各種目の習熟度40%、実技テスト60%。						
<b>第9回 ベビースイミングや障害児と水泳について学習する</b> <b>【到達目標】</b> (1)特殊な水泳指導を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)				<b>第10回 よりスムーズな基本泳法の習得①</b> <b>【到達目標】</b> (1)正しいフォームをマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)		
<b>第11回 よりスムーズな基本泳法の習得②</b> <b>【到達目標】</b> (1)それぞれの泳法のリズムを意識して泳ぐ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)				<b>第12回 よりスムーズな基本泳法の習得③</b> <b>【到達目標】</b> (1)苦手な泳法に取り組む。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)		
<b>第13回 よりスムーズな基本泳法の習得④</b> <b>【到達目標】</b> (1)それぞれの泳法のタイムを計測する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)				<b>第14回 リズム水泳①</b> <b>【到達目標】</b> (1)音楽にあわせて水の中で体を動かすことを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)		
<b>第15回 リズム水泳②</b> <b>【到達目標】</b> (1)音楽にあわせて泳ぐことを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						



# 授業形態：実技

科目名	体操			担当者	笹本重子	
英文名	Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と作画的に交流ができるようにする。また、運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする事、自己の責任を果たすことなどや、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。自分自身はもちろん、幼児にとつての運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、それぞれ個々の課題の応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションと体気づき、体ほぐし</b> <b>【到達目標】</b> (1)体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。 (2)手軽な運動が、自身の体に変化をもたらすことを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業への取り組みの心構えをつくる。(1.0hr)			<b>第9回 手具体操：ボールを用いた体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)2人組になり、他者に応じたボールコントロールを体験する。 (2)グループでボールを操作する面白さを体感する。  <b>【授業時間外学習】</b> 他者との取り組みに対する心構えをつくる(1.0hr)			
<b>第2回 ストレッチ体操1：アライメントチェック</b> <b>【到達目標】</b> (1)体の歪みをチェックし、体操で整える方法を知る。 (2)関節の可動域を広げる方法を知り、実際に体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える(1.0hr)			<b>第10回 リズム体操：キット式のリズム体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)キットを覚え、良い動き方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 音楽のリズムと身体が発信するリズムを一致させられるようにする(1.0hr)			
<b>第3回 ストレッチ体操2：二人組のストレッチ体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。 (2)体操の効果を重視した補助の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 適切な他者への対応の仕方について考える。(1.0hr)			<b>第11回 リズム体操パターン式リズム体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)一連の流れのある動きをパターンとして覚え、良い動きを習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 音楽のリズムと身体が発信するリズムを一致させられるようにする(1.0hr)			
<b>第4回 ストレッチ体操3：音楽に合わせた一連の柔軟体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)音楽に合わせた一連のストレッチ運動を覚えて実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活にストレッチ体操をいかす具体的な方法を考える。(1.0hr)			<b>第12回 良い動きの習得：徒手体操の目的と方法</b> <b>【到達目標】</b> (1)これまで学習した体操の力を利用して良い動きの一連の体操が出来る。  <b>【授業時間外学習】</b> 一連の体操が日常生活に役立つことを知る。(1.0hr)			
<b>第5回 トレーニング体操：体ほぐし運動とレジスタンス系の体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)自体重での運動と相手の体を利用した運動でトレーニングする。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分にあった筋力アップを目指した体操について法を考える。(1.0hr)			<b>第13回 良い動きの習得：動き方のチェックと修正</b> <b>【到達目標】</b> (1)自己の動きをICTを活用して確認する。 (2)良い動きにするために動き方を修正する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の良い動きは姿勢を整えることであることに気がつく。(1.0hr)			
<b>第6回 二人組のレジスタンス系の体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)他者の体重を利用した運動でトレーニングする。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分にあった筋力アップを目指した体操について法を考える。(1.0hr)			<b>第14回 体操(良い動き)の発表</b> <b>【到達目標】</b> (1)自信をもってよいごきを発表する。 (2)他者の良い動きを見て、自己の参考にする。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の良い動きは姿勢を整えることであることに気がつく。(1.0hr)			
<b>第7回 トレーニング体操：エアロビクス系の体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)エアロビクスの原則を理解し、律動的に動きを継続する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活でエアロ系のトレーニング効果のある動作を考える。(1.0hr)			<b>第15回 体操の構成と工夫</b> <b>【到達目標】</b> (1)現在の自分に必要な体操を作って楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操が体づくり・動きづくり・仲間づくりに役立つことの楽しさに気付く。(1.0hr)			
<b>第8回 手具体操：ボールを使った体ほぐしと体操</b> <b>【到達目標】</b> (1)ボールの特性を理解して動きづくりや体づくりを行なう。 (2)ボールの動きと巧みさの関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活での巧みさを考える。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 2人組や数人のグループで学習することが多いので、互いに相手に不快感を与えないように身だしなみや態度に注意してほしい。自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方を参考に出来ない動きや不慣れな動きのコツを習得できるように工夫し、良い動き方を身につけられるように努める。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 関心・意欲・態度30%、実技テスト70%で総合的に評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ生理学			担当者	定本朋子	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 身体運動時の人のからだは、安静時にはみられないくらい種々の生理機能を変化させて、目的の運動を遂行しようとする。またスポーツや運動トレーニングによって、身体の諸機能にさまざまな適応が起こり「運動するからだ」になるといえる。このような「動くからだの生理機能」を理解することは、体育・スポーツ科学関連領域の学生にとっては基本事項であり、今後のさまざまな専門知識の基盤になる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 スポーツ生理学（運動生理学）とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ生理学（運動生理学）の定義と本講義における学習到達目標を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第9回 循環器系と運動(1) 血液、心臓、血管の働き</b> <b>【 到達目標 】</b> 血液の基本機能を理解する。 心臓および血管の構造と働きを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第2回 神経系と運動(1) 神経系の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> 神経系の解剖全般について理解を深める。 運動の発現に関わる神経系の階層的調節を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第10回 循環器系と運動(2) 運動による循環機能の適応</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動時の心拍出量の変化と血流再配分を理解する。 運動時の血圧反応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第3回 神経系と運動(2) 運動の発現と調節</b> <b>【 到達目標 】</b> 随意運動に働く仕組みを理解する。 反射の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第11回 呼吸器系と運動(1) 呼吸運動とガス交換</b> <b>【 到達目標 】</b> 呼吸運動の仕組みについて理解する。 運動時の呼吸数や一回換気量の変化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第4回 神経系と運動(3) 運動の学習とトレーニングに伴う適応</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動に伴う神経系の適応の基礎を理解する。 運動学習の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第12回 呼吸器系と運動(2) ガス交換と運動パフォーマンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 肺および組織でのガス交換の仕組みを理解する。 酸素摂取量、運動後過剰酸素消費量、無酸素性作業閾値について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第5回 骨格筋と運動(1) 筋におけるエネルギー供給</b> <b>【 到達目標 】</b> アデノシン三リン酸（ATP）とその再合成機構について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第13回 持久性トレーニングによる呼吸循環系の適応</b> <b>【 到達目標 】</b> 持久性トレーニングによる呼吸および循環系の基本的適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第6回 骨格筋と運動(2) 筋収縮の仕組みと筋収縮様式</b> <b>【 到達目標 】</b> 筋の基本的構造、筋収縮と弛緩について理解する。 筋繊維の種類と特性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第14回 運動と環境(1) 高温環境における運動</b> <b>【 到達目標 】</b> 体温調節の基本的仕組みを理解する。 暑熱環境における運動パフォーマンスの低下について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第7回 骨格筋と運動(3) 種々のトレーニングに伴う適応</b> <b>【 到達目標 】</b> 持久性トレーニングに伴う筋の適応について理解する。 瞬発性および筋力（レジスタンス）トレーニングに伴う筋の適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			<b>第15回 運動と環境(2) 寒冷環境および高所環境における運動</b> <b>【 到達目標 】</b> 寒冷に対する体温調節を理解する。 高所における酸素運搬と運動パフォーマンスについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			
<b>第8回 骨格筋と運動(4) 筋活動量低下および疲労に伴う適応変化</b> <b>【 到達目標 】</b> 筋萎縮について理解する。 筋疲労について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業は教科書とパワーポイントを用いて進める。資料は適宜配布する。また、受講生は次回の授業内容について、指定されたテキストの範囲について予習をする。毎回の授業時間では、その日に学習した事項に関する質問（プリント）を配布するので、その解答案を次回までに作成する。次回の授業時間において答え合わせをして受講生の理解度を確認する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「ステップアップ運動生理学」 和田正信編著、杏林書院（2018）を用いる。						
<b>【関連科目】</b> 生理・生化学入門						
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験期間中に試験を別途実施し、その結果に基づいて成績を評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈								
英文名	Sport Psychology												
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻							
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・必修			専門基礎・必修							
<b>【目的とねらい】</b> スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学修することが目的である。取り上げるトピックは、健康の保持増進を目的にスポーツや運動に取り組む人々やその指導者、また、幼児の運動あそびやその保育者にとって、活動の効果を高める上で有用な内容である。運動やスポーツあるいは運動あそびに取り組む人々や幼児の心理を理解し、指導実践に活用できる知識の習得とその応用力を高めることが本講義のねらいとなる。													
<b>第1回 スポーツ心理学概説</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業のまとめ)と予習課題(不安の役割を調べる)に取り組む。(4.0hr)							<b>第9回 スポーツ傷害と選手の心理</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(バーンアウト、学習性無力感について調べる)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第2回 スポーツと不安</b> <b>【到達目標】</b> (1) 不安には2つの側面(状態不安と特性不安)が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を理解し説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業のまとめ)と予習(ストレスの解説を読み自分の経験を整理)に取り組む。(4.0hr)							<b>第10回 スポーツとバーンアウト</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (3) バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(配布資料を読んで自分の引退後を考える)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第3回 スポーツとストレス</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(動機づけの解説を読みその定義を考える)に取り組む。(4.0hr)							<b>第11回 スポーツとキャリアアランジション</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第4回 スポーツと動機づけ(1)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2) 自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(資料を読みやる気高める方法を考える)に取り組む。(4.0hr)							<b>第12回 スポーツとライフスキル</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(LGBTを告白したスポーツ選手を調べる)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第5回 スポーツと動機づけ(2)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(運動技能の分類について整理する)に取り組む。(4.0hr)							<b>第13回 スポーツとジェンダー</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(リカット法、半構造化面接について調べる)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第6回 スポーツと運動学習</b> <b>【到達目標】</b> (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(ガイダンス仮説、文脈干渉効果などを調べる)に取り組む。(4.0hr)							<b>第14回 スポーツ心理学研究法(1) 調査方法について</b> <b>【到達目標】</b> (1) 質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(平均が頻繁に使用される理由を考える)に取り組む。(4.0hr)						
<b>第7回 運動学習と認知</b> <b>【到達目標】</b> (1) 認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2) 高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)							<b>第15回 スポーツ心理学研究法(2) 統計法について</b> <b>【到達目標】</b> (1) 度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)						
<b>第8回 スポーツと心理的競技能力</b> <b>【到達目標】</b> (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 復習(授業まとめ)と予習(自らを振り返りケガの要因をまとめる)に取り組む。(4.0hr)													
<b>【学習上の留意点】</b> 授業ではパワーポイントにより要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者はスライドのみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中してメモを取り、スポーツ活動に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが肝要である。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使い、復習と予習に取り組むことで知識の定着を図るよう努力する必要がある。特に復習課題については、次時の冒頭で、簡単な整理上の要点を説明するので、授業後に各自が行う復習は必須である。													
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」(著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房)を使用する。また、適宜、参考資料を配付する。													
<b>【関連科目】</b> 人間心理の理解、ジェンダー論、データ分析と統計学、精神発達、精神保健													
<b>【成績評価方法】</b> 期末テストの結果(100%：試験は別途試験期間中に実施)に基づいて評価する。													

# 授業形態：演習

科目名	身体表現			担当者	笹本重子	
英文名	Body Expression					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 子どもの身体表現の意義と発達の様子を理解し、発達段階に即した身体表現の指導と援助の方法を習得する。また、動きの特性を理解し、動きを読み取る力と自分自身の表現力を高め、動きによるコミュニケーションの技能を高めることを目的に、手遊びやリズムダンス、創造的な身体表現などを構成して発表を行い、自己・相互評価を展開する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業の進め方、評価の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業への取り組みの心構えをつくる。(4.0hr)			<b>第9回 いろいろな身体表現②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)イメージになりきって踊り、楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 他者からの視点で、自分の姿について想像してみる。(4.0hr)			
<b>第2回 からだを使った遊び①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)からだを使った遊びで(道具を使わない)、楽しく実技をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 他のからだ遊びを考える。(4.0hr)			<b>第10回 動きづくり①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども向けの体操・ダンスを創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 参考図書から調べてくる。(4.0hr)			
<b>第3回 からだを使った遊び②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)からだを使った遊びで(道具を使う)、楽しく実技をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 他のからだ遊びを考える。(4.0hr)			<b>第11回 動きづくり②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども向けの体操・ダンスを創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 参考図書から自作の作品を考察する。(4.0hr)			
<b>第4回 運動遊び①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)二人組の運動遊びで、楽しく身体を動かす。  <b>【授業時間外学習】</b> 他者への対応の仕方が適切であるように心構えをする。(4.0hr)			<b>第12回 創作作品の発表</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども向けの体操・ダンスの指導と発表を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表時のシミュレーションをする。(4.0hr)			
<b>第5回 運動遊び②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)グループ、大人数での運動遊びで、楽しく身体を動かす。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の運動遊びを考える。(4.0hr)			<b>第13回 身体表現の世界を知る(ビデオ鑑賞)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)様々な身体表現をビデオ教材で知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の修正点から、今後の活用法を検討する。(4.0hr)			
<b>第6回 いろいろな身体表現遊び①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)昔話で身体表現を楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 昔話を図書などで調べておく。(4.0hr)			<b>第14回 童謡に合わせ身体表現をする</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)童謡に合わせ即興で身体表現をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で身に付いた力を発揮できるようにイメージを膨らませる。(4.0hr)			
<b>第7回 いろいろな身体表現遊び②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)童謡で身体表現を楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの好きな童謡を調べておく。(4.0hr)			<b>第15回 身体表現とは一本授業の振り返りー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)いろいろな身体表現の学び方の確認をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを自分の言葉で発表できるように準備する。(4.0hr)			
<b>第8回 いろいろな身体表現①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)イメージになりきって踊り、楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの自由に表現をしている姿を自分の姿に重ねる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> それぞれの運動遊びを実際に行いながら、遊びのねらい、保育者の援助、環境設定、安全への配慮についても学ぶ。身体を動かすことに喜びを持って、身体を動かすことを楽しみながら積極的に授業に参加すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業時に随時紹介する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 実技テスト50%、授業の習熟度・レポート50%。						

# 授業形態：実技

科目名	ダンスムーブメント			担当者	松山善弘	
英文名	Dance Movement					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズムカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな身心の育成をはかる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業の進行についてのオリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進行について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第9回 表現練習1</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第2回 リラクゼーションの習得1</b> <b>【 到達目標 】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第10回 表現練習2</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第3回 リラクゼーションの習得2</b> <b>【 到達目標 】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第11回 表現練習3</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第4回 リラクゼーションの習得3</b> <b>【 到達目標 】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第12回 課題による身体表現1</b> <b>【 到達目標 】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第5回 身体練習とリズム練習1</b> <b>【 到達目標 】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第13回 課題による身体表現2</b> <b>【 到達目標 】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第6回 身体練習とリズム練習2</b> <b>【 到達目標 】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第14回 課題による身体表現3</b> <b>【 到達目標 】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第7回 身体練習とリズム練習3</b> <b>【 到達目標 】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			<b>第15回 課題発表と達成度の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体の確認をする事によって、ダンスに必要な要素を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の復習とまとめをする事によって、ダンスについて更に理解を深める。(1.0hr)			
<b>第8回 身体練習とリズム練習4</b> <b>【 到達目標 】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> とにかく、自分が楽しんでダンスに接する事が出来るように、積極的に取り組んで下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 時間毎のレポート60%、実技試験20%、授業内での活動の成果20%の割合で総合的に評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ原論			担当者	都 筑 真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			<b>第9回 体育の理念の変遷</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 古代のスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第10回 社会変化と今後の体育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第3回 中世のスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 近代のスポーツ①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第12回 スポーツと政治</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 近代スポーツ②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第13回 スポーツとドーピング</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 近代オリンピックの創始</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。 (2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第14回 スポーツとジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。 (2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。 (2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。						
<b>【関連科目】</b> スポーツ史						
<b>【成績評価方法】</b> 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

# 授業形態：演習

科目名	幼児理解				担当者	中道直子	
英文名	Understanding Children						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 幼児理解は、よりよい保育・教育実践のための基本となるものである。本授業では、幼児理解の意義や原理を理解した上で、附属幼稚園における幼児の生活や遊びの観察を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を習得することを目的とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション（観察者としての態度）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 幼児理解の意義を理解する。 (2) 観察と記録の意義を理解する。 (3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 面接法2 実践① 言語の発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 面接法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 面接法を用いて幼児の言語発達を調べる手法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 自然観察法1 時間見本法① 理論と技法</b> <b>【到達目標】</b> (1) 発達や学びを捉える原理を理解する。 (2) 行動観察法の種類とその手法について理解する。 (3) 時間見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 面接法3 実践② 認知の発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 面接法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 面接法を用いて幼児の認知発達を調べる手法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 自然観察法2 時間見本法② 実践とまとめ方（大人）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 時間見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 時間見本法を用いて大人の行動を観察し、記録することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 面接法4 まとめ方</b> <b>【到達目標】</b> (1) 面接法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 面接法によって得たデータを正しくまとめることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 自然観察法3 時間見本法③ 実践とまとめ方（幼児）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 時間見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 時間見本法を用いて幼児の行動を観察し、記録することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第12回 実験的観察法1 理論と技法</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実験的観察法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 自然観察法4 事象見本法① 理論と技法</b> <b>【到達目標】</b> (1) 事象見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 実験的観察法2 実践① 遊びの発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実験的観察法を用いて幼児の遊びの発達を調べる手法を習得する。 (2) 実験的観察法によって得たデータを正しくまとめることができる。 (3) 個々と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 <b>【授業時間外学習】</b> 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 自然観察法5 事象見本法② 実践とまとめ方（大人）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 事象見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 事象見本法を用いて大人の行動を観察し、記録することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第14回 実験的観察法3 実践② 社会性の発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 実験的観察法を用いて幼児の社会性の発達を調べる手法を習得する。 (2) 幼児のつまずきをもたらす要因について考察することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 自然観察法6 事象見本法③ 実践とまとめ方（幼児）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 事象見本法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 (2) 事象見本法を用いて幼児の行動を観察し、記録することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第15回 幼児理解と保護者対応</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保護者の心情と基礎的な対応方法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 面接法1 理論と技法</b> <b>【到達目標】</b> (1) 面接法の基礎的な事柄（定義と特徴、その手法や留意点）を例示できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> ① 松原校舎での授業である。附属みどり幼稚園の子どもたちを交えての演習も予定しているため、保育者を目指す学生としての節度ある言動・態度をわきまえること。 ② 観察結果に基づき複数回レポートを作成し、提出する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 市販の教科書は使用せず、適宜授業時に配布するプリント教材を使用する。 <b>《参考書》</b> ①中澤潤他編著『心理学マニュアル 観察法』北大路書房、②保坂亨他編著『心理学マニュアル 面接法』北大路書房③文部科学省『幼稚園教育要領解説』（最新版）、④文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
<b>【関連科目】</b> 保育・教育心理学、子ども家庭支援の心理学、子どもとあそび							
<b>【成績評価方法】</b> 授業時のレポートの提出状況及びその内容を100%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	発達・教育相談			担当者	角田和也	
英文名	Developmental Consultation and Educational Counseling in Preschool					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 本来、発達・教育相談の対象年齢は幅広いが、ここでは主に乳幼児に焦点を絞り、保育現場で日常的に行われている発達相談および教育相談についての知識や技術を学習する。また、実際の保育現場で保育者が乳幼児とかかわる際に生じる問題や、特別な配慮が必要となる子どもたちへのかかわり方についても、発達相談および教育相談の視点からはどのように対処していく必要があるのかを学習する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション／発達・教育相談</b> <b>【到達目標】</b> (1)発達相談、教育相談とは何かを理解する。 (2)保育現場での「相談」の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)			<b>第9回 子ども理解の方法③ 「話す」ことについて①</b> <b>【到達目標】</b> (1)子ども理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。 (2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第2回 発達・教育相談の実際</b> <b>【到達目標】</b> (1) (前回の授業を受けて) 保育者のかかわりが実際にどのような「相談」の流れの中で展開されるのか、その全体像を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)			<b>第10回 子ども理解の方法④ 「話す」ことについて②</b> <b>【到達目標】</b> (1)不快に思われない話し方について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児教育における発達・教育相談の意義</b> <b>【到達目標】</b> (1)保育者を目指す学生が発達・教育相談を学ぶ意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			<b>第11回 子ども理解の方法⑤ 「みる」ことについて①</b> <b>【到達目標】</b> (1)子ども理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。 (2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第4回 発達・教育相談の基本的事項① 実践のための基本的な理論・概念①</b> <b>【到達目標】</b> (1)発達・教育相談の実践に必要な、臨床心理学(カウンセリング)の基本理論・概念を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			<b>第12回 子ども理解の方法⑥ 「みる」ことについて②</b> <b>【到達目標】</b> (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第5回 発達・教育相談の基本的事項② 実践のための基本的な理論・概念②</b> <b>【到達目標】</b> (1)前回の授業内容を踏まえ、発達・教育相談で実践されている臨床心理学(カウンセリング)の理論・概念について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			<b>第13回 発達・教育相談の展開① 「私」が教育相談を行うために</b> <b>【到達目標】</b> (1)テーマに沿って、実際に発達・教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第6回 発達・教育相談の基本的事項③ カウンセリングマインドの必要性</b> <b>【到達目標】</b> (1)発達・教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			<b>第14回 発達・教育相談の展開② 連携の必要性について</b> <b>【到達目標】</b> (1)実際に発達・教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第7回 子ども理解の方法① 「きく」ことについて①</b> <b>【到達目標】</b> (1)子ども理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。 (2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			<b>第15回 発達・教育相談の展開③ 組織的な取り組みの必要性について</b> <b>【到達目標】</b> (1)発達・教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)			
<b>第8回 子ども理解の方法② 「きく」ことについて②</b> <b>【到達目標】</b> (1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。						
<b>【教科書・参考書など】</b> ・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用します。 《参考書》①小田豊他編著『保育臨床相談』北大路書房、②現代保育実践研究会編『保育実践事例集』第一法規、③松橋有子他編著『精神保健』北大路書房、④文部科学省『幼稚園教育要領解説』(最新版)						
<b>【関連科目】</b> 子どもの理解と援助、子育て支援						
<b>【成績評価方法】</b> ・提出物の評価……50% 期末試験の評価……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。						



# 授業形態：演習

科目名	児童文化演習			担当者	諸富満希子・望月 久也 桐川 敦子	
英文名	Seminar in Children's Culture					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・必修
<b>【目的とねらい】</b> 1～5回は児童文化を歴史から振り返り、今を生きる子どもがこれからも共有・伝承し得る、子どもを主役とする文化に触れ、総合的に理解する。10回以降は学生が協力し合い人形劇を作成する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 児童文化の概念とその領域</b> (担当：桐川敦子) <b>【 到達目標 】</b> 児童文化という名称のなりたちや、児童文化についての諸々の捉え方、および領域区分について学んだ上で、幼稚園や保育園の現場で用いられる児童文化財を中心に学修を深めていくこの授業にあり方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第9回 中間まとめ・調整</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 三班の具体的作業の中間まとめをし、合同で調整を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 日本の児童文化の歴史と伝承</b> (担当：桐川敦子) <b>【 到達目標 】</b> 児童文化の流れを昔話、わらべ唄を中心に学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 役割分担(配役等)・練習</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 全体で上演の役割を決定し、各々練習を開始する。 <b>【授業時間外学習】</b> 各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 現在の子どもの生活と文化</b> (担当：桐川敦子) <b>【 到達目標 】</b> 現在の子どもを取り巻く環境の変化を捉え、現在の子どもたちの文化について考える。情報機器及び教材の理解も深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第11回 パート毎練習</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 役割や台本の部分的な練習、修正を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)			
<b>第4回 保育の中で取り上げられる児童文化財①</b> (担当：桐川敦子) <b>【 到達目標 】</b> 遊具、玩具、おもちゃの由来と現状を理解する。 幼稚園教育要領などを確認しながら、教材としての重要性を学習していく。 また、一つ一つの児童文化財の保育における取り上げ方について、小学校との接続を考慮しながら考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第12回 全体練習</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 役割全体や台本を通して練習、修正を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)			
<b>第5回 保育の中で取り上げられる児童文化財②</b> (担当：桐川敦子) <b>【 到達目標 】</b> 絵本や人形劇の種類、紙芝居の歴史、現状を理解する。 パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターについて理解を深める。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れ、児童文化財を教材としての取り上げる際の留意点について理解し、指導計画を立てられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第13回 試演(リハーサル)・調整</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 発表本番を念頭に置いた練習の後、映像等で確認し調整する。 <b>【授業時間外学習】</b> それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)			
<b>第6回 児童劇とは何か</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 子どもを対象とする演劇の概要と特質を理解し、先行作品を映像鑑賞することで、創作の手掛かりを得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第14回 総稽古(グネプロ)</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 発表本番同様の上演をし、再度調整をする。 <b>【授業時間外学習】</b> それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)			
<b>第7回 題材の検討と選定</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 劇にする物語を選び、構成・アレンジの概略を決定する。 <b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財について研究をする。(4.0hr)			<b>第15回 作品発表(上演)・講評</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 鑑賞者の前で上演し、講評を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> それぞれの役割・仕事を、責任を持って遂行できるよう準備する。(4.0hr)			
<b>第8回 作業班分け、基本計画作成</b> (担当：望月久也・諸富満希子) <b>【 到達目標 】</b> 言葉、造形、音楽の班分けの後、基本計画を定め、調整を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財について研究をする。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 1～5回(桐川)：幼少期から、どのような文化に触れてきたのか、自らの体験・経験を基に、これからよりよい文化を生み出す子どもたちへの支援について考える。 6回以降(望月・諸富)：実習が中心になるので自律的に活動し、動きやすい服装を手掛けること。基本的な用具(文房具や消耗品等)は各自で用意する。作品制作上必要な、素材、用具(含楽器)の調達も学習の一環とするが、教員が適宜援助する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 児童文化財についてのレポート50%、および授業終了後の課題レポート50%とする。						

# 授業形態：講義

科目名	発育発達論					担当者	田中千晶
英文名	Growth and Development						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、不活動とは区別されている座位行動と健康関連指標との関係を理解し、その抑制の重要性を理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 発育発達とは、心理的特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 発育発達の概念を理解する。 (2) 身体計測の測定法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、「発育発達論」では何を学びたいのか、意見をまとめてくること。(4.0hr)				<b>第9回 日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。 (2) 日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に幼児期運動指針と健康づくりのための身体活動基準2013を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第2回 発育発達期の身体的特徴(身長) 1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 身体計測値を用いて発育過程を図解できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、自身の小学校入学以降、現在までの身長を調べてくること。(4.0hr)				<b>第10回 成長期における全身持久力の発達と老化の過程</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 全身持久力の発達と老化の過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第3回 発育発達期の身体的特徴(身長) 2, 骨成熟の評価法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 形態の発育の性差・個人差を理解する。 (2) 生物学的成熟度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、自身の身長、体重、および座高を計測してくること。(4.0hr)				<b>第11回 日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本と世界の子どもの身体特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 (2) 47都道府県の子どもの身体特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第4回 発育発達期の身体的特徴(体重・身体組成)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 肥満の弊害について理解する。 (2) やせの問題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)				<b>第12回 発育発達期の運動プログラム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。 (2) 発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第5回 中高年齢者の身体的特徴(体重・身体組成)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 身体組成の測定法について理解する。 (2) 中高年齢者の形態の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)				<b>第13回 中高年齢者とスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中高年齢者の運動プログラムの留意点を理解する。 (2) 中高年齢者の運動・スポーツの体力への効果を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 中高年齢者の運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第6回 運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義、ライフステージ別の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義を理解する。 (2) 身体活動量と座位行動のライフステージ別の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、身体活動と座位行動の計測方法を調べてくること。(4.0hr)				<b>第14回 女性とスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 女性選手の三主徴について理解する。 (2) 女性の痩せと低出生児について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、女性アスリートの指導上、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第7回 体力の定義、成長期における筋力の発達と老化の過程</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 体力の定義について理解する。 (2) スポーツ庁による体力・運動能力の測定法を理解する。 (3) 筋力の発達と老化の過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、「何故、体力を高める必要があるのか」、意見をまとめてくること。(4.0hr)				<b>第15回 運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、学校と家庭での身体活動量促進と座位行動抑制の方法をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第8回 成長期における基本的動作スキルの発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 成長期における基本的動作スキルの発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 学習成果をあげるため、教科書・参考書、講義中に配布する資料などを用いて、授業時間外学習により予習・復習をそれぞれ講義時間相当量行うことが望まれる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：2019年9月出版予定の書籍(杏林書院)を用いる予定である。参考書：高石 昌弘(監修)樋口 満, 佐竹 隆(編著)：からだの発達と加齢の科学。大修館書店, 2012, ISBN 9784469267402, 竹中晃二(編)：アクティブ・チャイルド 60 min 一子どもの身体活動ガイドライン。 (株) サンライフ企画, 2010, ISBN 4904011244							
<b>【関連科目】</b> なし							
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績90%、課題の提出10%で評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。							

# 授業形態：演習

科目名	造形表現 I			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 子どもと造形という観点に立ち、基本的な造形素材の特質および表現技法と、構成や色彩に関する理論等を、主に平面的創作を通じて学び、指導者としての基礎技能を身につけるとともに、自らの表現力と教材への応用力を養う。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 「造形表現」とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第9回 色彩の表現（調和と対比）</b> <b>【 到達目標 】</b> バランスのととり方（4色）を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第2回 観察と描写（3次元から2次元へ）</b> <b>【 到達目標 】</b> 空間を平面として表現する方法を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第10回 平面構成（分割）</b> <b>【 到達目標 】</b> 美的な分割の方法を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第3回 観察と描写（形の捉え方）</b> <b>【 到達目標 】</b> 形をしっかりと見て、描くことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第11回 平面構成（統合）</b> <b>【 到達目標 】</b> まとめ方と変化のつけ方を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第4回 観察と描写（構図と空間）</b> <b>【 到達目標 】</b> 適切な配置とバランスを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第12回 平面構成（配色）</b> <b>【 到達目標 】</b> 美的な配色の方法を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第5回 観察と描写（明暗とタッチ）</b> <b>【 到達目標 】</b> 面の変化と光との関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第13回 染色（パターン）</b> <b>【 到達目標 】</b> 効果的な染め方ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第6回 色彩について</b> <b>【 到達目標 】</b> 色とは何かを理解し、正しい色とその名称を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第14回 染色（コラーージュ）</b> <b>【 到達目標 】</b> 染めたものを作品に仕上げる。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第7回 色彩の表現（色の三要素）</b> <b>【 到達目標 】</b> 色の特質を知り、表現に生かす。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>第15回 講評</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第8回 色彩の表現（補色対比）</b> <b>【 到達目標 】</b> 適切な配色（2色）ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を手掛けること。基本的な用具（水彩絵具や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
<b>【関連科目】</b> 造形表現II、保育内容（表現B）						
<b>【成績評価方法】</b> 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	言語表現			担当者	並木真理子	
英文名	Language Expression					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 児童文化財に関する知識を身に付け、実践演習を通して技術を習得し、保育者に必要とされる言語表現技術を向上させる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス／絵本を読む観点</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。絵本を読む観点を学び、自主的に読み進める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートを作成する。(4.0hr)			<b>第9回 紙芝居実演の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 紙芝居実演の方法を学び、ペアで相互に練習し合っ、紙芝居実演のコツを掴む。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 保育者の言語表現</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育現場における保育者の言語表現について知り、言語表現を学ぶ意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第10回 紙芝居の実演</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ内で相互に紙芝居の実演を行って、子どもが楽しめる演出の方法を追求する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 物語の読みと表現</b> <b>【 到達目標 】</b> グループで物語を読み、作品理解に基づく読み方を考え、読み聞かせの基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第11回 言葉遊びを楽しむ</b> <b>【 到達目標 】</b> 言葉遊びを通して、言葉の面白さ、表現することの楽しさに触れる。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 絵本を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な絵本に触れながら、絵本の種類や特質について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第12回 児童文化財の実演発表の準備</b> <b>【 到達目標 】</b> おはなし会の形態や手法について知り、グループごとに実演の計画を立て、役割分担をする。  <b>【授業時間外学習】</b> おはなし会に向けて、練習を繰り返す。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 読み聞かせの方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 読み聞かせのポイントを学び、ペアで相互に練習し合っ、読み聞かせのコツを掴む。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第13回 児童文化財の実演発表①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに絵本・紙芝居の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。  <b>【授業時間外学習】</b> おはなし会に向けて、練習を繰り返す。(4.0hr)			
<b>第6回 読み聞かせの実演</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ内で相互に絵本の紹介と読み聞かせを行って、子どもが楽しめる読み聞かせ法を追求する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第14回 児童文化財の実演発表②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに絵本・紙芝居の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。  <b>【授業時間外学習】</b> おはなし会に向けて、練習を繰り返す。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 読み聞かせの実際</b> <b>【 到達目標 】</b> 読み聞かせ場面の映像を観て、年齢別の読み聞かせの方法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			<b>第15回 保育者と児童文化財</b> <b>【 到達目標 】</b> 児童文化財の言語表現における保育者の心構えを確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
<b>第8回 紙芝居を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な紙芝居に触れながら、紙芝居の歴史や特質、種類について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> ・授業は講義と演習を組み合わせで行う。演習には積極的に取り組み、言語表現技術の向上に努めること。なお、第13・14回には児童文化財の実演発表を行ってもらおう。 ・自主的に絵本を読み進めて、「絵本ノート」の記入を行い、児童文化財を観る目を養ってもらおう。 ・時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらおう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめられるようにすること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。						
<b>【関連科目】</b> 保育内容（言葉）、児童文化演習						
<b>【成績評価方法】</b> 児童文化財の実演発表20%、絵本ノート20%、授業の振り返り20%、試験40%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

# 授業形態：演習

科目名	ソルフェージュ（楽典）			担当者	諸 富 満 希 子	
英 文 名	Solfège (Musical Grammar)					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> 楽器の演奏、歌唱、創作等、音楽活動において欠かすことの出来ない楽典の知識を深め、読譜力を付けることを目的とする。また、聴音やリズム打ちの練習を通して、音感、リズム感を養う。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 音楽と楽譜</b> <b>【 到達目標 】</b> 音楽と楽譜の関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽譜に興味をもつとともに、授業時に出現する復習問題を解く。(4.0hr)			<b>第9回 音階①</b> <b>【 到達目標 】</b> 長音階を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ハ・ト・ヘ長調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
<b>第2回 五線と音部記号①</b> <b>【 到達目標 】</b> 五線と2種の音部記号について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 高音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)			<b>第10回 音階②</b> <b>【 到達目標 】</b> 短音階を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> イ短調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
<b>第3回 五線と音部記号②</b> <b>【 到達目標 】</b> 五線と2種の音部記号について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 低音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)			<b>第11回 移調①</b> <b>【 到達目標 】</b> 移調楽譜の作成が出来るようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 音符と休符</b> <b>【 到達目標 】</b> 音符と休符の意味と正しい書き方を覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出現する楽曲を写譜する。(4.0hr)			<b>第12回 移調②</b> <b>【 到達目標 】</b> 移調楽譜の作成が出来るようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 拍子</b> <b>【 到達目標 】</b> 拍子と拍の関係を理解し、正しく数えられるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出現する楽曲を写譜する。(4.0hr)			<b>第13回 和音とコードネーム①</b> <b>【 到達目標 】</b> 和音とコードネームを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> コードネームのついた簡単な曲を使い、自分で伴奏譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 リズム</b> <b>【 到達目標 】</b> 付点音符、連符を含めたリズムを正しく打てるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 復習テストに向け、リズム課題を練習する。(4.0hr)			<b>第14回 和音とコードネーム②</b> <b>【 到達目標 】</b> セブンスのコードなど、少し難易度の高いコードを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ポップスなどで使用されているコードを用いながら、編曲に挑戦する。(4.0hr)			
<b>第7回 音程①</b> <b>【 到達目標 】</b> 1、4、5、8度音程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出現する復習問題を解く。(4.0hr)			<b>第15回 音楽用語・記号</b> <b>【 到達目標 】</b> 頻出する音楽用語・記号を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「器楽Ⅰ」で使用している「バイエル」の中に使用されている用語を調べる。(4.0hr)			
<b>第8回 音程②</b> <b>【 到達目標 】</b> 2、3、6、7度音程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回の復習テストに向け、音程全般を復習する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 各回の授業は、それ以前の授業の内容を理解しているという前提の上で展開される。毎回ノートをチェックし、読譜・リズムなどの理解度確認テストを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントを配布する。五線のノートは各自で用意すること。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
<b>【関連科目】</b> 歌唱法、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ、音楽表現						
<b>【成績評価方法】</b> 理解度復習テスト20%、提出課題20%、楽典問題の筆記テスト（聴音を含む）60%の割合で評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	歌唱法			担当者	諸 富 満 希 子	
英 文 名	Singing					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 基礎となる正しい発声法を学ぶことによって、保育現場に立った時、疲労しにくい無理のない声で指導ができるようになることを目標とする。そして、子どもたちに音楽を通して楽しい表現活動を提供できるよう、現場に直結した「歌う」「動く」などの力を養う。また、独唱・合唱などの様々な歌唱形態を体験し、授業内での発表を通して、人前で豊かに表現することを学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 声の出るしくみ</b> <b>【 到達目標 】</b> 声の出るしくみを理解し、声を大切にすることを学ぶ。			<b>第9回 子どものうた④</b> <b>【 到達目標 】</b> 秋を題材にしたうたを学習する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 毎日発声練習を行う。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
<b>第2回 発声法の訓練</b> <b>【 到達目標 】</b> 基本的な発声練習に慣れる。			<b>第10回 子どものうた⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 冬を題材にしたうたを学習する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 毎日発声練習を行う。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
<b>第3回 子どものうた①</b> <b>【 到達目標 】</b> 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。			<b>第11回 イタリア歌曲を歌う①</b> <b>【 到達目標 】</b> イタリア語の発音に挑戦し、明るい声の響きをめざす。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
<b>第4回 子どものうた②</b> <b>【 到達目標 】</b> 春を題材にしたうたを学習する。			<b>第12回 イタリア歌曲を歌う②</b> <b>【 到達目標 】</b> イタリア語の発音に慣れ、歌曲を仕上げる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> プロの音楽家が歌ったイタリア歌曲を鑑賞する。(1.0hr)			
<b>第5回 子どものうた③</b> <b>【 到達目標 】</b> 夏を題材にしたうたを学習する。			<b>第13回 女声2部合唱①</b> <b>【 到達目標 】</b> 声の重なり合う美しさを感じるとともに、正確な音程を保つことができるよう心掛ける。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
<b>第6回 わらべうた</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本に伝承されているわらべうたを遊びながら覚える。			<b>第14回 女声2部合唱②</b> <b>【 到達目標 】</b> 他のパートを聴きながら歌うことができるようになる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業で習った以外のわらべうたを探す。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
<b>第7回 動きを伴ううた①</b> <b>【 到達目標 】</b> 手遊びや身体を使いながら歌ううたを実践しながら覚える。			<b>第15回 発表会</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表会における自分の役割を確実に果たす。音楽的な演奏ができるよう心掛ける。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 学習したうたを子どもの前でも歌えるように復習する。(1.0hr)			
<b>第8回 動きを伴ううた②</b> <b>【 到達目標 】</b> 手遊びや身体を使いながら歌ううたを創作する。						
<b>【授業時間外学習】</b> いろいろな遊びうたを探す。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 発声・音楽的な基礎練習は毎回行う。この授業はアクティブラーニングなので、積極的に声を出し歌うことが必要である。2年次の「保育内容の研究（表現A）」で、幼稚園に行き園児といっしょに歌うので、1年次のうちにしっかり声を出し、子どものうたに慣れ親しむこと。一定の水準になるまで繰り返し学習を継続するため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）、その他適宜楽譜を配布する。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
<b>【関連科目】</b> 音楽表現、保育内容の研究（表現A）、ソルフェージュ（楽典）						
<b>【成績評価方法】</b> 子どものうた・イタリア歌曲・2部合唱などの実技演奏能力60%、授業内課題・発表会への取り組み方40%で評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	器楽 I			担当者	諸富満希子・森 立子 辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music I					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> ピアノ演奏技能の基礎を学びながら、高い感性を培うことを目標とする。 少人数のグループレッスンの形態でスタートし、経験度、到達度に応じた個人レッスンも交えて指導する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ピアノ演奏のための基本的事項について</b> <b>【到達目標】</b> 楽譜と鍵盤の関係、指番号などピアノ演奏の基本的事項を理解する。			<b>第9回 バイエル78番</b> <b>【到達目標】</b> 3声部構造を理解して弾く。			
<b>【授業時間外学習】</b> 読譜の練習をする。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 左手の5の指の音を保持する場合と保持しない場合を区別して練習する。(1.0hr)			
<b>第2回 バイエル14番・31番</b> <b>【到達目標】</b> 1の指から5の指の動きを、いろいろなパターンでマスターする。			<b>第10回 バイエル80番</b> <b>【到達目標】</b> 二長調の音階を理解し、軽快な3拍子で演奏する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 音をしっかりと読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 装飾音や臨時記号の音を正確に読む。(1.0hr)			
<b>第3回 バイエル87番・94番</b> <b>【到達目標】</b> 連弾の楽しさを味わう。他の演奏者と呼吸を合わせて弾くことを学ぶ。			<b>第11回 バイエル88番</b> <b>【到達目標】</b> ト長調の音階を理解するとともに、付点のリズムをレガートに弾く。			
<b>【授業時間外学習】</b> 連弾なので、止まらずに演奏できるように練習する。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> ト長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
<b>第4回 バイエル68番</b> <b>【到達目標】</b> 右手のメロディーを強めに弾くとともに、左手の伴奏を柔らかく演奏する。			<b>第12回 バイエル90番</b> <b>【到達目標】</b> 8分の6拍子を理解して弾く。重音のときにメロディーがつかないように演奏する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 左手の伴奏型を繰り返し練習する。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 同音を連打するときの指使いを正確にし、音のバランスが取れるように練習する。(1.0hr)			
<b>第5回 バイエル62番</b> <b>【到達目標】</b> 8分の6拍子を理解して弾く。			<b>第13回 バイエル93番</b> <b>【到達目標】</b> 一時的な平行調への転調を意識して演奏する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 6拍子にならず、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> イ短調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
<b>第6回 バイエル66番</b> <b>【到達目標】</b> 8分の6拍子を理解して弾く。			<b>第14回 バイエル100番</b> <b>【到達目標】</b> 3部形式とコーダを理解して演奏する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 前回に引き続き、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> ヘ長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
<b>第7回 バイエル65番</b> <b>【到達目標】</b> ハ長調の音階の指使いを理解する。			<b>第15回 発表会</b> <b>【到達目標】</b> 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。			
<b>【授業時間外学習】</b> ハ長調のスケールを練習する。(1.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
<b>第8回 バイエル73番</b> <b>【到達目標】</b> 臨時記号を理解し、メロディーをレガートに演奏する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 強弱記号にも注意を払い、演奏に生かす。(1.0hr)						
<b>【授業時間外学習】</b> 毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。 個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。 教員が認めた場合、ブルクミュラーなどに進む場合もある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「バイエル」(全音楽譜出版)、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
<b>【関連科目】</b> 歌唱法、ソルフェージュ(楽典)、音楽表現、器楽Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	バレーボール			担当者	ヨコ・カリン・セッター・レント	
英文名	Volleyball					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営についても学ぶことも目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 バレーボールの歴史と発展</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなったルール等について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第10回 ゲーム実践Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなったゲームについて振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているいろいろな方向へコントロールできる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第11回 ゲーム実践Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなったゲームについて振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった内容について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった内容について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった技能・戦術について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第14回 ゲーム実践Ⅲ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなったゲームについて振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
<b>第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった戦術について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			<b>第15回 ゲーム実践Ⅳ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で身につけた技能や知識を実際の指導場面に活かせるよう準備する。(1.0hr)			
<b>第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業でおこなった戦術について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。授業でおこなう個人の技能が効率よく身につくように、タブレット端末や映像遅延装置を用いたフィードバックをおこなう。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。						



# 授業形態：実習

科目名	スキー			担当者	森田陽子	
英文名	Skiing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> スキー未経験者や初級者レベルを主な対象として、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを学習し、整地されたグレンデで安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、習得した技術をさらに積み重ね、生涯スポーツの一つとして自然のなかで大いに楽しむことができる基礎作りとなることをねらいとしている。 授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 スキー用具の取り扱い方、基本的な動作、操作</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) スキー用具の取り扱い方法を理解する。 (2) スキー用具の装着方法を理解する。 (3) スキーを装着しての距離感覚を理解する。			<b>第9回 ブルークボーゲン、シュテムターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。			
<b>第2回 方向変換、歩行、滑走</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 踏み替えによる方向変換法を理解する。 (2) 平地歩行感覚を理解する。 (3) 平地滑走感覚を理解する。 (4) 正しい転び方、立ち方を理解する。			<b>第10回 シュテムターン、パラレルターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
<b>第3回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			<b>第11回 シュテムターン、パラレルターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
<b>第4回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			<b>第12回 パラレルターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
<b>第5回 ブルーク、ブルークボーゲン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 直滑降→ブルークの連続押し出しを理解する。 (2) 直滑降→ブルークの交互押し出しを理解する。 (3) ブルークの山まわりで加重配分を理解する。 (4) 左右スキーへの荷重移動で浅い連続回転を理解する。 (5) 浅い連続回転でブルークボーゲンの初歩で滑る。			<b>第13回 パラレルターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
<b>第6回 ブルークボーゲン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			<b>第14回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
<b>第7回 ブルークボーゲン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			<b>第15回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
<b>第8回 ブルークボーゲン、シュテムターン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。						
<b>【授業時間外学習】</b> 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道参加者¥85,000）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、日本女子体育大学の学生として相応しい行動をすることを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかけられないように心配りをする。実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 野外教育論						
<b>【成績評価方法】</b> レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。						

# 授業形態：実習

科目名	スケート			担当者	湯 田 淳	
英文名	Skating					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 グループスケーティング（学外実習8） 【 到達目標 】 2～3人のグループで滑走できるようにする。			
第3回 リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。			第13回 グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習11） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。			
第6回 基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4） 【 到達目標 】 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。			
第7回 基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5） 【 到達目標 】 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。			第15回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。			
第8回 基礎技術（ターン滑走）（学外実習6） 【 到達目標 】 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。						
<b>【授業時間外学習】</b> 自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 実技試験の達成度を40%、演技発表の完成度を40%、実習レポートの達成度を20%の割合として評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	救急処置法			担当者	夏井 裕 明		
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択	専門・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本体育協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				<b>第9回 B：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）Ⅱ：体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部）Ⅲ：学校生活における感染症対策</b> <b>【 到達目標 】</b> B：膝のスポーツ外傷・障害について理解する。 K：頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：学校感染症の種類と特徴を学び、出席停止期間の根拠を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61、90 を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 B：女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）K：外傷総論Y：女性とスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> B：女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 K：外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 Y：女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。(4.0hr)				<b>第10回 B：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）Ⅲ：体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（頸部から骨盤）Ⅳ：循環器・腎疾患・代謝性疾患と学校生活管理</b> <b>【 到達目標 】</b> B：大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 K：腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：循環器疾患、腎疾患を理解し、学校生活管理指導票を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。(4.0hr)			
<b>第3回 B：女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）K：応急処置総論Y：成長・発達的一般原則</b> <b>【 到達目標 】</b> B：女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 K：RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 Y：Scamionの発育曲線を学び、成長・発達的一般原則を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)				<b>第11回 B：内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）Ⅱ：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷）Ⅲ：呼吸器疾患に対する応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。 K：膝のスポーツ外傷について理解する。 Y：気管支喘息、運動誘発性喘息を理解し、喘息発作に対する応急処置を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 B：応急処置総論K：頭部のスポーツ外傷Y：外傷総論</b> <b>【 到達目標 】</b> B：RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 K：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 Y：外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39、55 - 58、157 - 160 を読む。(4.0hr)				<b>第12回 B：内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）Ⅲ：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の外傷、大腿節）Ⅳ：アナフィラキシーに対する応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：貧血と主な感染症について理解する。 K：膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 Y：食物アレルギーを理解し、アナフィラキシー・ショックに対する応急処置を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。(4.0hr)			
<b>第5回 B：頭部のスポーツ外傷K：顔面のスポーツ外傷Y：応急処置総論</b> <b>【 到達目標 】</b> B：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 K：顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 Y：RICE処置の内容・方法・効果および止血法について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。(4.0hr)				<b>第13回 B：内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）K：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部）Ⅳ：熱中症の応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 K：大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105、123 - 139 を読む。(4.0hr)			
<b>第6回 B：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（肩から肩関節）Ⅱ：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（肩から肩関節）Ⅲ：頭部外傷に対する応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 K：鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)				<b>第14回 心肺蘇生法の理論</b> <b>【 到達目標 】</b> 心肺蘇生法の理論について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)			
<b>第7回 B：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）Ⅲ：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕）Ⅳ：上肢の外傷に対する応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 K：上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：発育発達期に起こりやすい上肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。(4.0hr)				<b>第15回 心肺蘇生法実習</b> <b>【 到達目標 】</b> 心肺蘇生法実習を通じて、BLS (Basic Life Support) ができるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)			
<b>第8回 B：体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）Ⅲ：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指）Ⅳ：下肢の外傷に対する応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> B：頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 K：手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 Y：発育発達期に起こりやすい下肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 本科目は選択科目ではあるが、教員免許（B・K）、健康運動指導士（K）、健康運動実践指導者（K）、日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目（K）、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）（K）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学（K）」も併せて履修することが望ましい。 講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本体育協会							
<b>【関連科目】</b> 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学、スポーツ医学							
<b>【成績評価方法】</b> 試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

# 授業形態：演習

科目名	造形表現Ⅱ			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 1年次の造形表現Ⅰで培った基本的な技能や理論を展開させ、主に立体的、空間的創作を通じて、各種造形素材の特質や複合的な表現技法等を学び、指導者としての基礎技能を発展させるとともに、自らの表現力と教材への応用力を高める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 造形表現と時間</b> <b>【 到達目標 】</b> 視覚芸術と時間との関係を知る。			<b>第9回 立体表現（デザイン）</b> <b>【 到達目標 】</b> 粘土の特性と立体の構造を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第2回 平面表現から立体表現へ</b> <b>【 到達目標 】</b> 2次元から3次元へ展開する方法を理解する。			<b>第10回 立体表現（粘土1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 構造を考え正しい手順で作業できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第3回 半立体表現（デザイン）</b> <b>【 到達目標 】</b> 浮き彫り、機能と装飾の関係を理解する。			<b>第11回 立体表現（粘土2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 可塑性を生かした効果的な表現ができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第4回 半立体表現（木彫1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 木材の特性と道具の使い方を理解する。			<b>第12回 立体表現（粘土3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体と細部を調整しながら仕上げる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第5回 半立体表現（木彫2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 正しく安全な道具の使い方ができる。			<b>第13回 立体表現（プラスチック）</b> <b>【 到達目標 】</b> プラスチックの特性を知り、表現に生かす。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第6回 半立体表現（木彫3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 美的で効果的な彫りができる。			<b>第14回 光と立体（ミクスト・メディア）</b> <b>【 到達目標 】</b> 発光と立体を調和させた表現を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第7回 半立体表現（着色と仕上げ1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 美的で効果的な着色ができる。			<b>第15回 講評</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。			
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第8回 半立体表現（着色と仕上げ2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 塗装の意義を理解し、適切に仕上げる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を手掛けること。基本的な用具（水彩絵具や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
<b>【関連科目】</b> 造形表現Ⅰ、保育内容（表現B）						
<b>【成績評価方法】</b> 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	運動あそび			担当者	桐川 敦子・森田 陽子	
英文名	Plays and Games for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 設定された運動あそびのテーマについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し事前指導を受ける。作成した指導案に基づき附属みどり幼稚園の園児とともに運動あそびを実践する。実践の後にディスカッションを行うことで、次週への課題を得るという演習形式で授業を展開する。事前、実践、事後の指導を通して、子どもを主体にした運動あそびはどのように行われるべきか、子どもがあそびを発見し創造し発展させていく活動の中で保育者がどのように準備し、どのように見守り、どのように関わればよいのかについて学ぶことを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)オリエンテーションを受け、授業の進行について理解する。 (2)指導案の作成の仕方を理解する。 (3)ディスカッションの観点、評価の仕方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導案立案の準備をする。(4.0hr)			<b>第9回 功技台を使ってあそぶ…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 リーダーの決定、遊具の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)計画表に基づき指導担当を決め、原案を検討する。 (2)施設や遊具について確認し、環境構成について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導案立案の準備をする。(4.0hr)			<b>第10回 マットを使ってあそぶ…年中児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 ボールを使ってあそぶ…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			<b>第11回 功技台を使ってあそぶ…年中児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 手具を使ってあそぶ…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			<b>第12回 遊具を使わないあそび…年少児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 運動能力測定を実施する…全園児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。 (2)担当した種目の測定を実施する。 (3)子どもの様子を観察し、ノートに記録する。 (4)測定結果のデータを整理する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として授業内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			<b>第13回 遊具を使わないあそび…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 ボールを使ってあそぶ…年中児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			<b>第14回 人気の遊具を使ってあそぶ…年中児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 手具を使ってあそぶ…年中児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			<b>第15回 人気の遊具を使ってあそぶ…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 マットを使ってあそぶ…年長児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 子どもと直接関わる授業なので、学生としてというよりも、教員としてふさわしい服装、髪型で出席すること。毎週2・3人のリーダーがあそびを展開していくことになるので十分に検討して指導案を作成し、事前指導を受けること。実践では内容や言葉かけが年齢に合っていたか、安全面の配慮はなされていたか、子どもが主体で楽しんでたかなどについて記録する。毎回記録に基づきディスカッションをする。ディスカッションによって得られた課題を次週に活かしていく。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「保育の中の運動あそび」石井美晴・菊地秀範編著(萌文書林)						
<b>【関連科目】</b> 子どもとあそび、子どもの運動発達、幼児体育						
<b>【成績評価方法】</b> 実践指導70%(指導案作成、指導の実践、ディスカッション、実践後提出された指導案)、提出されたノートの内容を30%、を目安に評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	バスケットボール				担当者	佐々木直基	
英文名	Basketball						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。また習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業のねらいと進め方</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 (2) 導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールに必要なコーディネーション能力について調べる。(1.0hr)				<b>第9回 基礎的な個人技術 フリースロー①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。 (2) フリースローの技術を習得する。 (3) ゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> フリースローの重要性について調べる。(1.0hr)			
<b>第2回 基礎的な個人技術 コントロール</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。 (2) ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。 (3) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールに必要なボディコントロールについて調べる。(1.0hr)				<b>第10回 グループ戦術 パス&amp;ラン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解する。 (2) パス&ランのグループ戦術を習得する。 (3) ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールのグループ戦術の種類について調べる。(1.0hr)			
<b>第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールのワンハンドシュートについて調べる。(1.0hr)				<b>第11回 チーム戦術 ドライブ&amp;合わせ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。 (2) ドライブ&合わせのグループ戦術を習得する。 (3) ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールのあわせる動きについて調べる。(1.0hr)			
<b>第4回 基礎的な個人技術 セットシュートとジャンプシュート</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。 (2) セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。 (3) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> シュートを用いたミニゲーム、ドリルについて調べる。(1.0hr)				<b>第12回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2) いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。 (3) ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールのシュートの種類について調べる。(1.0hr)			
<b>第5回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ボールキャッチの技術を習得する。 (2) いろいろなパスの技術を習得する。 (3) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールに必要なキャッチング能力について調べる。(1.0hr)				<b>第13回 基礎的な個人技術 レイアップシュート②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2) いろいろなレイアップシュート（バックシュート系・ステップの変化）の技術を実践する。 (3) ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。  <b>【授業時間外学習】</b> レイアップシュートの使い分けについて調べる。(1.0hr)			
<b>第6回 基礎的な個人技術 レイアップシュート①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> レイアップシュートについて調べる。(1.0hr)				<b>第14回 基礎的な個人技術 フリースロー②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) フリースローの技術を習得する。 (2) ゲームの状況下でのフリースローを実践する。 (3) ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。  <b>【授業時間外学習】</b> フリースローを獲得する場面について調べる。(1.0hr)			
<b>第7回 基礎的な個人技術 ドリブル</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ドリブルのチェンジ・オブ・ディレクションの技術を習得する。 (2) ドリブルのチェンジ・オブ・ペースの技術を習得する。 (3) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> バスケットボールのドリブルの種類について調べる。(1.0hr)				<b>第15回 スキルの総合的検証</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。   <b>【授業時間外学習】</b> 本授業で扱った技術について整理する。(1.0hr)			
<b>第8回 基礎的な個人技術 リバウンド</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) オフェンスリバウンドの技術を習得する。 (2) ミニゲームを実践する。  <b>【授業時間外学習】</b> オフェンスリバウンドの効果について調べる。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はグループ学習を中心に行うので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。							

# 授業形態：実技

科目名	陸上競技			担当者	大橋 祐二	
英文名	Track and Field					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> 陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う競技である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業内容の説明（採点表）</b> <b>【 到達目標 】</b> 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。また、単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 陸上競技の種目およびルールを調べる。(1.0hr)			<b>第9回 走り幅跳び：全助走跳躍</b> <b>【 到達目標 】</b> 踏切版に足が合う正確な助走距離を見つけ出す。  <b>【授業時間外学習】</b> フォールをしないためには、どのようなことを意識して助走すれば良いかと定める。(1.0hr)			
<b>第2回 100m走：中間疾走</b> <b>【 到達目標 】</b> 短距離走の走り方として、中間疾走の支持局面を意識して実践してみる。  <b>【授業時間外学習】</b> 中間疾走の技術を高めるためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)			<b>第10回 走り幅跳び：記録測定①</b> <b>【 到達目標 】</b> 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 走り幅跳びの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
<b>第3回 100m走：クラウチングスタート</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分に合ったクラウチングスタートの方法を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> スターティングブロックに上手く力を加える方法を考えまとめる。(1.0hr)			<b>第11回 走り幅跳び：記録測定②</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回の記録を更新するための改善点を見つけ出し、より高いレベルにチャレンジする。  <b>【授業時間外学習】</b> 前回は比べ改善できた点をまとめ、さらに記録を更新するために必要なことを考察する。(1.0hr)			
<b>第4回 100m走：スタート～加速</b> <b>【 到達目標 】</b> クラウチングスタートから最高速度に到達するまでの加速局面で、問題点を把握し、その改善を図る。  <b>【授業時間外学習】</b> スムーズに加速するためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)			<b>第12回 砲丸投げ：基本技術とルール</b> <b>【 到達目標 】</b> 砲丸投げの基本技術である突き出し動作のドリルを実習する。また、砲丸投げのルールを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 突き出し動作を強くする練習方法を調べる。(1.0hr)			
<b>第5回 100m走：スタート～中間疾走</b> <b>【 到達目標 】</b> 100m走記録測定の準備として、100mという距離を体感する。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを感じ、特に後半の走り方をイメージできるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 100m後半の減速を最小限に抑えるためにはどのような意識が大切かと定める。(1.0hr)			<b>第13回 砲丸投げ：メディシンボールでの突き出し</b> <b>【 到達目標 】</b> メディシンボールでの突き出し、砲丸での突き出しを繰り返し行うことによって、合理的な突き出し動作を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 合理的な突き出し動作をするために意識することをまとめる。(1.0hr)			
<b>第6回 100m走記録測定</b> <b>【 到達目標 】</b> 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 100m走の内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			<b>第14回 砲丸投げ：ホップ、グライドからの投げ</b> <b>【 到達目標 】</b> 突き出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。  <b>【授業時間外学習】</b> 助走のスピードをうまく砲丸に伝えるために意識することをまとめる。(1.0hr)			
<b>第7回 走り幅跳び：基本技術とルール</b> <b>【 到達目標 】</b> 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術およびルールを身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 基本技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)			<b>第15回 砲丸投げ記録測定</b> <b>【 到達目標 】</b> 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 砲丸投げの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
<b>第8回 走り幅跳び：短助走跳躍</b> <b>【 到達目標 】</b> 短助走跳躍を実践する中で、自分に合った効果的な踏切技術を探り当てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 踏切技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 過去の運動経験を活かし、より高いレベルの記録を達成するようにしてほしい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を活かすようにすることが必要である。各種目の記録測定は、各々に役割を与えグループ毎に行う。適宜、ルール等に関する小テストを実施する。そのテスト結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度やルール等に関するテストによる評価を30%として評価する。						

# 授業形態：実習

科目名	野外活動			担当者	森田陽子	
英文名	Outdoor Activities					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門基礎・選択	専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 野外スポーツの内容は非常に多岐にわたる。この授業は自然を活用しておこなうキャンプ（3泊4日）を実施する。キャンプでの体験学習を通して、キャンプに必要な基礎的スキルを習得することや、自然を利用した諸活動を体験することを目的としている。また、自然とヒトとの関わりなどを学ぶことで、自然について深く考えることができるようになることをねらいとしている。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 キャンプ授業の概要</b> 【 到達目標 】 (1) 授業の目的や意義について理解する。 (2) 自然との関わりについて理解する。			<b>第9回 登山</b> 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
<b>第2回 グループ編成と役割</b> 【 到達目標 】 (1) グループ活動の意義を理解する。 (2) グループ編成をする。 (3) 各役割の内容を理解する。 (4) 最適な役割を担う。			<b>第10回 登山</b> 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
<b>第3回 テントの設営・撤収法</b> 【 到達目標 】 (1) テント設営場所の選び方を理解する。 (2) テントの設営作業手順を理解する。 (3) テントの撤収手順を理解する。 (4) グループでテント設営、撤収をする。 (5) グループでテント宿泊をする。			<b>第11回 ハンドクラフト</b> 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
<b>第4回 野外炊事</b> 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			<b>第12回 ハンドクラフト</b> 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
<b>第5回 野外炊事</b> 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			<b>第13回 天文観察</b> 【 到達目標 】 (1) 夏の星座を理解する。 (2) 天体望遠鏡で確認する。 (3) 各自で興味あることについて質問をする。			
<b>第6回 ハイキング</b> 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			<b>第14回 キャンプファイヤー</b> 【 到達目標 】 (1) キャンプファイヤーの意義を理解する。 (2) キャンプファイヤー係を中心に実施する。			
<b>第7回 ハイキング</b> 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			<b>第16回 地域交流</b> 【 到達目標 】 (1) 郷土料理法を地元の方から指導を受ける。			
<b>第8回 ハイキング</b> 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。						
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 事前・事後指導に参加し、9月に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、日本女子体育大学の学生として相応しい行動を心がける。 キャンプ中はグループ毎に活動することが非常に多いので、積極的にグループに貢献するようにし、各自に役割があるのでリーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 野外教育論						
<b>【成績評価方法】</b> レポート40%、野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度30%、グループへの貢献度30%。						



# 授業形態：講義

科目名	子ども家庭支援論			担当者	石川 円	
英文名	Theory of Child and Family Support					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> この授業の目的とねらいは次のとおりである。(1) 家族の意義と役割について理解する。(2) 家族の諸相と社会状況の変化について理解する。(3) 子育て支援体制の変遷と多様化について理解する。(4) 保育士による家族支援の意義と内容について理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 家族を支援するということ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「家族」の定義を理解する。 (2) 保育士養成課程における本科目の位置づけを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前にシラバスの内容を確認しておく。(4.0hr)			<b>第9回 海外における家庭支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 海外の子育て支援について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第2回 日本の家庭の変化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会の変化と家族に与えた影響について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			<b>第10回 発達に応じた親子関係と支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの発達に対応した家庭支援を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第9回 保育士による家庭支援の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 家庭支援における保育士の役割を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			<b>第11回 特別なニーズのある子どもと家族</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 障害や慢性疾患など、特別なニーズがある子どもとその家族への支援を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもから見た生活</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの視点から家族や人間関係、地域社会を捉える。  <b>【授業時間外学習】</b> テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)			<b>第12回 家族のかかえる問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 家族がかかえる問題に注目し、その対処について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第5回 親になるということ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 親に「なる」とはどういうことか、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)			<b>第13回 虐待と家庭支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 虐待を受けている子どもとその家族への対策について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)			
<b>第6回 子育てへの社会的支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子育て支援の変遷や内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の暮らす地域の子育て支援について調べる。(4.0hr)			<b>第14回 家族への個別的な支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育者によるソーシャルワークの展開の具体例を参考に、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第7回 保育所における家族支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育所におけるソーシャルワークについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			<b>第15回 家族支援の課題と今後の展望</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 家族支援の課題と今後の展望について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。(4.0hr)			
<b>第8回 地域の子育て家庭への支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 地域における保育所の役割と地域の子育て家庭への支援を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 普段から家族や子育てなどに関する事例に興味を持ち、授業に参加してほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 加藤邦子他編著『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版、2015年						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の課題を30%、期末レポートを70%として評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択			専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織の人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 スポーツマネジメントの発展</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) スポーツの様々な捉え方について理解する。 (2) スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)			<b>第9回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント I</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) モチベーションの内容論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)			
<b>第2回 マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) マネジメントの誕生（科学的管理法）について理解する。 (2) スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)			<b>第10回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント II</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。 (2) 身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。  <b>【授業時間外学習】</b> どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)			
<b>第3回 スポーツビジネス（企業）の目的と責任</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 企業の目的について理解する。 (2) マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)			<b>第11回 スポーツ組織におけるリーダーシップ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) リーダーシップの役割、機能について理解する。 (2) リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論）を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 優れたリーダーはどのような特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)			
<b>第4回 スポーツマーケティングの意義と役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) マーケティングとセリングの違いを理解する。 (2) マーケティングにおける市場細分化とターゲティングを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)			<b>第12回 組織変革とリーダーシップ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 変革型リーダーシップについて理解する。 (2) 組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
<b>第5回 マーケティング戦略とスポーツプロダクト</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。 (2) スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)			<b>第13回 チーム作りとチームビルディング</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) チームビルディングの手法について理解する。 (2) チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
<b>第6回 スポーツ事業の経営戦略</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 代表的な環境分析の手法を理解する。 (2) 基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)			<b>第14回 スポーツ施設の運営と管理</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 我が国のスポーツ施設の現状を理解する。 (2) スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)			
<b>第7回 スポーツ組織のマネジメント</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 組織とは何かを理解する。 (2) 組織成立の要件を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)			<b>第15回 スポーツ施設のデザインとユーザビリティ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。 (2) ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)			
<b>第8回 スポーツ組織の人間の（情緒的）側面</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 経営管理における人間関係を理解する。 (2) 人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> パワーポイントを使用して講義をおこなう。また、必要に応じて関連資料やVTR等の補助教材を用い、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は積極的に講義に参加するとともに自主的な予習・復習や情報収集に努めること。特に、講義で学んだ視点や理論、知識を身近な組織（部活動やアルバイト）に当てはめて考える、応用すること。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニツペーパー（レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題レポートも課し、評価コメントを付して受講生にフィードバックする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に定めない。 <参考書>「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。 ※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。						
<b>【関連科目】</b> スポーツサービス論、スポーツ施設管理論、スポーツ調査法、スポーツ産業論など						
<b>【成績評価方法】</b> 課題レポート（講義内での小レポート含む）を40%、定期試験の結果を60%として総合評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 健康と公衆衛生</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)			<b>第9回 感染症対策</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)			
<b>第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)			<b>第10回 環境保健</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			
<b>第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			<b>第11回 産業保健</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
<b>第4回 ヘルスプロモーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)			<b>第12回 メンタルヘルス対策</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)精神疾患の現状とその対策について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)			
<b>第5回 世界と日本の健康戦略</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。(4.0hr)			<b>第13回 親子保健</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
<b>第6回 健康の社会的決定要因</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)			<b>第14回 地域保健</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
<b>第7回 生活の場と健康</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)			<b>第15回 災害時の公衆衛生</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 がん対策</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体共有する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『学生のための現代公衆衛生 第7版』 野中浩一編著 南山堂 このほかに適宜資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 健康科学論、学校保健、精神保健						
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

# 授業形態：演習

科目名	子どものスポーツプログラミング			担当者	森田陽子	
英文名	Sports Programing for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 子どもの発育・発達に応じて、運動や将来のスポーツ活動や健康な日常生活の基本となる「動き」の習得を促すために、将来、幼稚園教諭や保育士、子どものスポーツ指導を目指す者等がどのように関与すべきかを理解する。具体的には、様々な年代の子ども達に対して、どのような遊びや動きを通してスポーツの基礎となるものを習得させていくのか、積極的に運動に取り組む習慣を身につけさせるにはどうすればよいかについての方法を考案し、実践する。						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【到達目標】</b> ガイダンスでこの授業の必要性やこの授業によって獲得してほしい能力について理解する。また、実際に身体を動かしながら、体得し実践できる力を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第9回 子どもの体力向上を目指す遊び③</b> <b>【到達目標】</b> 「投動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの運動遊びの実際①</b> <b>【到達目標】</b> 「歩く」「走る」「跳ぶ」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第10回 子どもの体力向上を目指す遊びの指導</b> <b>【到達目標】</b> 7・8・9回の学びから、現代社会の問題点である「子どもの体力向上」を目指し、幼稚園や保育園でできる運動遊びについて、その指導案を考案する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの運動遊びの実際②</b> <b>【到達目標】</b> 「道具を使わない運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第11回 発表・グループワーク</b> <b>【到達目標】</b> 「体力向上のための」遊びや運動の指導を実際に行い、それぞれの考え方やその問題点を検討し、よりよいものを完成させる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの運動遊びの実際③</b> <b>【到達目標】</b> 「道具を使った運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第12回 総合的実践指導①</b> <b>【到達目標】</b> 幼稚園や保育園で親子のコミュニケーションをとりながら、どちらも運動を楽しめるような「親子で運動」という観点で、どのような運動ができるか、その遊びを紹介する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの運動遊びの指導</b> <b>【到達目標】</b> 2・3・4回の授業で行った、「子どもの運動遊び」の学びから、その指導案を考案する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第13回 総合的実践指導の創作</b> <b>【到達目標】</b> これまでの授業の学びの中から、子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を考案する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第6回 発表・グループワーク</b> <b>【到達目標】</b> 実際に指導を行い、それぞれの良い点、修正点を検討し、よりよいものを完成させる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第14回 発表・グループワーク</b> <b>【到達目標】</b> 各自が考案した指導案を実際に発表する。他者の指導案と比較検討し、自分の目指すもの、今後の自分の考え方の参考とする。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもの体力向上を目指す遊び①</b> <b>【到達目標】</b> 「走動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			<b>第15回 総合的実践指導②</b> <b>【到達目標】</b> これまでのそれぞれの課題に対して学んできた「動き」「遊び」に対して、子どもの発育発達段階を考慮しながら、どのように子ども自身が積極的に運動に取り組む習慣を身につけるかをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだ内容についてレポートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもの体力向上を目指す遊び②</b> <b>【到達目標】</b> 「跳動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 基本的に実技を伴う授業なので、必ず運動できる服装に着替えること。自分たちが考案した指導案を実行するなかで、運動が発生する感覚を、子どもが実際に身につけられるかを検証しながら考えることが大切である。また他の班の考案した指導案を実施し、お互いに意見を出しながら各自の指導案を完成させる。完成した指導案を全員が共有し、各々が現場で実践できるように学習する必要がある。尚、本授業は実際に園児が参加する場合もあることから、服装、シューズ等には留意すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に随時紹介する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業の習熟度、積極性・理解度50%、指導案・実技指導50%で評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	器楽Ⅱ			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 器楽Ⅰ（1年次）で学んだピアノ演奏の基礎をふまえ、さらに演奏技術の向上をめざす。 レベルに応じた個人レッスンをおこなうが、各自が演奏技術だけでなく、豊かで自然な表現力を持って演奏することができることを目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 バイエル</b> の復習 <b>【 到達目標 】</b> 器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、基礎を再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 1年次の最後に弾いた曲を復習する。(1.0hr)			<b>第9回 ブルクミュラー10・15・18番</b> <b>【 到達目標 】</b> 10番・15番・18番のいずれかの曲を暗譜して弾くことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			
<b>第2回 ブルクミュラー2番</b> <b>【 到達目標 】</b> 一定の速さの中で、16分音符が均等に弾けるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 音をしっかりと読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)			<b>第10回 ブルクミュラー19番</b> <b>【 到達目標 】</b> レガート奏法を学ぶとともに、ペダルの踏み方を再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「アヴェ・マリア」という曲の意味を調べ、同名の他の作品を鑑賞してみる。(1.0hr)			
<b>第3回 ブルクミュラー9番</b> <b>【 到達目標 】</b> 音楽的表現を試みるとともに、ペダルの踏み方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)			<b>第11回 ブルクミュラー23番</b> <b>【 到達目標 】</b> 主旋律がどこにあるのかを確認し、メロディーラインをきれいに歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 和音を揃えて弾くことができるようにする。(1.0hr)			
<b>第4回 ブルクミュラー5番</b> <b>【 到達目標 】</b> 滑らかな運指を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、へ長調の音階を練習する。(1.0hr)			<b>第12回 ブルクミュラー25番</b> <b>【 到達目標 】</b> 情景を思い浮かべ、音楽的に演奏する。3連符、16分音符などの速さを正確に演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)			
<b>第5回 ブルクミュラー2・3・5番</b> <b>【 到達目標 】</b> 2番・3番・5番のいずれかの曲を暗譜して弾くことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			<b>第13回 クレメンティ (op. 36-1) 1楽章</b> <b>【 到達目標 】</b> ソナタ形式を理解して演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> クレメンティという作曲家について、また彼が生きた時代の音楽について調べる。(1.0hr)			
<b>第6回 ブルクミュラー10番</b> <b>【 到達目標 】</b> 二長調に慣れる。ゆっくりした速さの中で、音楽的に表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、二長調の音階を練習する。(1.0hr)			<b>第14回 ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ (op. 36-1) 1楽章</b> <b>【 到達目標 】</b> ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ 1楽章の中から1曲暗譜して弾くことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			
<b>第7回 ブルクミュラー15番</b> <b>【 到達目標 】</b> 左手のメロディーを生かしながら、緊迫感のある演奏をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 同主調への転調を感じ取り、その変化を言語化して説明ができるようにする。(1.0hr)			<b>第15回 発表会</b> <b>【 到達目標 】</b> 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。  <b>【授業時間外学習】</b> 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
<b>第8回 ブルクミュラー18番</b> <b>【 到達目標 】</b> 右手の16分音符を休みととらえず、メロディーがつながっていくような演奏を心掛ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、ホ短調の音階を練習する。平行調への転調を意識する。(1.0hr)						
<b>【授業時間外学習】</b> 読譜を正確におこなったうえで、毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。 個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。初心者は指定されたブルクミュラーの中から5曲弾けることを目指す。また上級者はこれらの曲が終了したのち、「学習者のためのピアノ名曲選」に進み、ロマン派を中心とした作曲家の作品に触れていく。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「ブルクミュラー25の練習曲」（全音楽譜出版）、「ソナチネアルバム」（全音楽譜出版）、「学習者のためのピアノ名曲選」（ドレミ出版）						
<b>【関連科目】</b> 器楽Ⅰ、ソルフェージュ（楽典）、音楽表現						
<b>【成績評価方法】</b> 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

# 授業形態：実技

科目名	器械運動			担当者	佐藤麻衣子・中村 剛	
英文名	Apparatus Exercise					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 マット運動の基礎技能</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第9回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)④</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ハンドスプリングの技能テスト  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第2回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 倒立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第10回 とび箱運動(反転系の技の基礎技能)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第3回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 倒立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第11回 とび箱運動(反転系の技・開脚とび)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第4回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)③</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 倒立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第12回 とび箱運動(反転系の技・開脚とび)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第5回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)④</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 倒立前転の技能テスト。 (2) 伸膝後転の技能テスト。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第13回 鉄棒運動(支持回転系の技)①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第6回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第14回 鉄棒運動(支持回転系の技)②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第7回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 側方倒立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			<b>第15回 課題の達成度と身体知</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第8回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)③</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 側方倒立回転の技能テスト。 (2) ハンドスプリングの技能を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。						
<b>【教科書・参考書など】</b> <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 課題技の達成度 100%						

# 授業形態：実技

科目名	サッカー			担当者	玉井 朗	
英文名	Soccer					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> サッカーの基本的な技術を習得することが本授業の目的である。そのために、ボールに触れる機会がサッカーより断然多いフットサルのゲームをサッカーの練習と並行して行っていく。①フットサルの基本技術をドリルし、スキルとして習得できるよう努力する。②チーム構成員同士が勝利を目指し、協力し合う態度を学ぶ。③ゲームを楽しむためには相手チームの選手やレフェリーを尊重しなければならないという現実を認識し、フェアな態度や他者への思いやり等を学ぶ。 以上のことを目的として本授業を展開する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ボールコントロールとキックのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第9回 3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)3人目のプレーヤーを使うタイミング、使われるタイミングを理解し、実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第2回 ボールコントロールとヘディングのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第10回 ボールを奪うトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)タックルのタイミングと方法を理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第3回 ボールコントロールとドリブルのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)技術のコツを理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第11回 守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)チャレンジとカバーについて理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第4回 コミュニケーションのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)コミュニケーションのタイミングを理解し実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第12回 クロスボールからの攻撃パターンのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)クロスボールからシュートまでのパターンを3種類実践しシュートまでつながるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第5回 視野の確保のトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)良いボディシェイブを確保するステップワークを学び実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第13回 チーム毎でのウォームアップとゲーム①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行いその後ゲームを行えるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第6回 攻撃のサポートのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)サポートの角度とタイミング、そして距離を理解し、実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第14回 チーム毎でのウォームアップとゲーム②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行いその後ゲームを行えるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第7回 3対1のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)サポートの動きと良い視野を保つことを理解し、実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			<b>第15回 レクリエーションゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
<b>第8回 4対2のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)クサビのパスのタイミングを理解し、実践できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。 アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。 前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 以下の割合にて評価し、点数化する。①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点（実技テスト）10%、③知識点（理論テスト）10%、④準備点（服装・ゼッケン等の準備）20%。						

# 授業形態：講義

科目名	ことばの研究			担当者	並木真理子	
英文名	Language Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育書籍のレビューや実習経験の振り返りをもとに、子どもの言葉を育て、保護者との信頼関係を築く保育のあり方について理解を深める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の概要と進め方を知り、学習の心構えを形成する。発表の準備の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。(4.0hr)			<b>第9回 保育者の言葉遣い</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育現場における言葉遣いや話し方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもを育てる言葉かけ</b> <b>【 到達目標 】</b> 場面に応じた言葉かけや言葉の選び方について学び、子どもを育む言葉かけのポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。自らの実習経験を振り返る。(4.0hr)			<b>第10回 連絡帳の書き方①</b> <b>【 到達目標 】</b> 連絡帳の意義や書き方を学び、目的に応じた文面を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。連絡帳の文面を考える。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもに語るおはなし</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育現場におけるおはなしについて学び、子どもに伝わるおはなしのポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。年中行事のおはなしを作成する。(4.0hr)			<b>第11回 連絡帳の書き方②</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の場面を想定して実践的に学び、連絡帳の書き方のポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。連絡帳の文面を考える。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの話し合いとその支援</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの話し合いと保育者の関わりを学び、一緒に活動する力を養う保育について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。子どもの話し合いの支援について考える。(4.0hr)			<b>第12回 保育文書の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育文書の書式や書き方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。保護者向け連絡文書の文面を考える。(4.0hr)			
<b>第5回 絵本を活用した保育</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵本を活用した保育について学び、絵本から始まる保育活動を計画・実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本から始まる保育活動を考える。(4.0hr)			<b>第13回 クラスだよりの書き方①</b> <b>【 到達目標 】</b> クラスだよりの種類や書き方を学び、目的に応じた文面を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。クラスだよりの文面を考える。(4.0hr)			
<b>第6回 文字に親しむ保育</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの書字の実態を知り、子どもの文字習得とその支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。文字に親しむ保育を考える。(4.0hr)			<b>第14回 クラスだよりの書き方②</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の場面を想定して実践的に学び、クラスだよりの書き方のポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。クラスだよりの文面を考える。(4.0hr)			
<b>第7回 小学校との連続性</b> <b>【 到達目標 】</b> 小学1年生の国語学習について学び、小学校生活・学習につながることばの力を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。1時間分の国語の授業を構想してみる。(4.0hr)			<b>第15回 保育実務における保育者のことば</b> <b>【 到達目標 】</b> 保護者との信頼関係を築く保育とは何かを考え、今後の保育への心構えを形成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料とノートを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
<b>第8回 子どものことばを育む保育</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの言葉を育む保育とは何かを考え、今後の保育への心構えを形成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 指定されたテーマについて、保育書籍の要点をまとめ、発表を行ってもらう。そのうえで、担当者が解説を行ったり、創作・討論活動を行ったりする形で授業を進める。毎時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめるようにすること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。						
<b>【関連科目】</b> 保育内容（言葉）						
<b>【成績評価方法】</b> 個人発表10%、授業の振り返り40%、試験50%として総合的に評価する。						



# 授業形態：講義

科目名	生活科			担当者	鈴木 信 夫	
英文名	Life Environment Studies					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 小学校低学年に設置されている生活科は、体験や野外の活動・遊び等を重視しており、幼稚園教育と小学校教育との一貫性を図る意味をもっている。この生活科の具体的な内容を学習していく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「生活科」の授業の概要とねらいを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)			<b>第9回 リサイクルおもちゃ(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> おもちゃを作り、それで遊ぶことによって、遊びを工夫したり、周囲と協力する能力を向上させることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リサイクルおもちゃの作り方についてインターネットで調べること。(4.0hr)			
<b>第2回 生活科とは</b> <b>【 到達目標 】</b> 「生活科」が小学校低学年に設置されるようになった背景を知り、「生活科」の意義と目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)			<b>第10回 リサイクルおもちゃ(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 普段はゴミとして捨ててしまうような素材を利用して、実際にリサイクルおもちゃを作成し、遊び方の例を示す(課題)。  <b>【授業時間外学習】</b> リサイクルおもちゃを作って、発表できるよう準備をすること。(4.0hr)			
<b>第3回 昆虫の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> 小さい子ども達が興味を示す生き物として、昆虫を取り上げ、その特徴や生態の基礎を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで昆虫の特徴について調べ、授業の理解をさらに深めること。(4.0hr)			<b>第11回 いきものがし(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 冬になると多くの生き物は姿を消してしまうが、それぞれの方法で春を待っていることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでミノムシについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第4回 動物の飼育と観察</b> <b>【 到達目標 】</b> 小動物を飼育することの意義を理解する。また、その一例としてモンシロチョウの飼育と観察の要点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺の畑でモンシロチョウの産卵を観察すること。(4.0hr)			<b>第12回 いきものがし(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 生き物を積極的に呼び戻す方法として、エコアップの技術を理解する。また、ピオトープの例としてトンボ池の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでピオトープの作り方を調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第5回 野鳥観察</b> <b>【 到達目標 】</b> 校庭や公園で見られる都市鳥を覚えることで、野鳥観察の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺や自宅周辺で、授業で習った都市鳥を探すこと。(4.0hr)			<b>第13回 成長の記録(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「成長の記録」を作成する意義と目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 生活科の単元、「成長の記録」について意義と問題点について考察すること。(4.0hr)			
<b>第6回 植物の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> 植物、特に顕花植物の分類体系の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺や自宅周辺のセイヨウタンポポカカントウタンポポを調べること。(4.0hr)			<b>第14回 成長の記録(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際に、「成長の記録」を作成し、発表する(課題)。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の「成長の記録」を作成し、授業で発表できるよう準備すること。(4.0hr)			
<b>第7回 植物の栽培と観察(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 小学校低学年でよくおこなわれている、アサガオの栽培の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでアサガオの栽培について調べ、理解をさらに深めること。(4.0hr)			<b>第15回 記録する道具</b> <b>【 到達目標 】</b> 子ども達の様々な活動を記録する道具として、カメラの仕組みと撮影方法の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでデジタルカメラの仕組みについて調べること。(4.0hr)			
<b>第8回 植物の栽培と観察(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 冬季における植物の栽培例として、チューリップやヒアシンスの栽培の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで球根植物について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「リサイクルおもちゃ」と「成長の記録」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。ほぼ毎時間、授業の終わりに講義内容等に関するレスポンスカードを書いてもらい、多かった疑問・質問等について、次回の授業の初めに説明する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。						
<b>【関連科目】</b> 保育内容(環境)						
<b>【成績評価方法】</b> 課題を30%、テストを70%として評価する。 試験は試験期間中に別途実施。						

# 授業形態：講義

科目名	子どもの健康と運動			担当者	森田陽子	
英文名	Health and Physical Education for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 乳幼児が自ら積極的に体を動かして活動に取り組み、心身ともに健康な生活を営むためには、どのような援助が必要なのかを理解する。様々な観点からの知識を得ることは、適時に適切な援助ができることに繋がることを学習する。保育者を目指す者として、乳幼児期の発育・発達の基礎を理解し、さまざまな事例を知ること、実践で役立つ力を身につける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業内容や評価方法について知る。 (2)実習期間の授業について計画を立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> この授業での目的とねらいを確認し、各自の学習目標をレポートする。(4.0hr)			<b>第9回 幼児の運動能力についてーその1ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日本の体力測定の歴史と現状について知る。 (2)日本の子どもの運動能力測定について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼児の運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 妊婦と運動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)妊娠中の母体の変化を知る。 (2)妊婦と運動について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 妊婦と運動についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第10回 幼児の運動能力についてーその2ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)全国で行われている幼児の運動能力の調査結果を知る。 (2)附属みどり幼稚園の測定計画をたてる。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼児の運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 赤ちゃん体操</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)赤ちゃん体操の歴史・実際を知る。 (2)ベビーマッサージについて知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 赤ちゃん体操についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第11回 子どもとスポーツーその1ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)運動能力と運動指導との関係を知る。 (2)現場における運動指導の問題点を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもとスポーツについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 発育発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)出生前の発育・発達について知る。 (2)出生後の発育・発達について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 発育発達についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第12回 子どもとスポーツーその2ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)運動指導の問題点を改善するためにはどのような対策が必要か考えてみる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもとスポーツについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 脳と運動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)脳の発達と運動との関係について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 脳と運動についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第13回 親と子の運動あそびーその1ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スキンシップを楽しむあそびの必要性を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 運動発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)運動動作の発達について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動発達についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第14回 親と子の運動あそびーその2ー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)身近にあるものや誰でも知っている曲に合わせて親子で楽しめるあそびを考えてみる。  <b>【授業時間外学習】</b> 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 発達段階と事故</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子どもの発達段階と事故発生との関係を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 発達段階と事故発生についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第15回 保育現場で実践されている様々な取り組みについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)実習先で、近隣の施設で取り組んでいる特徴ある活動について報告し、感想や意見を述べ合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育現場で実践されている様々な取り組みについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 年齢と性差</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)年齢と性による発育・発達の違いを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 年齢と性差についての学びをレポートする。(4.0hr)			*実習などの関係で変更することがある。			
<b>【学習上の留意点】</b> 単元に応じた資料を基に講義を行う。さらに内容に即した映像を使ってより理解が深められるように授業を展開していく。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 子どもの運動発達、幼児体育、運動あそび、保育内容（健康）						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回のレポート30%、提出された課題70%。						

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ社会学				担当者	溝口紀子	
英文名	Introduction to Sociology of Sport						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス (授業の進め方 スポーツ権)</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)				<b>第9回 1964年東京オリンピック</b> <b>【 到達目標 】</b> 1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 1964年の東京五輪について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			
<b>第2回 遊びとスポーツ -「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く-</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> eスポーツについて調べる。(4.0hr)				<b>第10回 スポーツの文化触変</b> <b>【 到達目標 】</b> 1964年の東京五輪がその後日本人の生活にどのような影響を及ぼしたかを議論する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。(4.0hr)			
<b>第3回 スポーツの近代化と武道の誕生</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する(小レポートを実施)。 <b>【授業時間外学習】</b> 武道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)				<b>第11回 スポーツとジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> 女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする(小レポート実施)。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)			
<b>第4回 スポーツとナショナリズム</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)				<b>第12回 メディアスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> メディアスポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> メディアスポーツとは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。(4.0hr)			
<b>第5回 スポーツと体育</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツと教育の関係性について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施)。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)				<b>第13回 スポーツと倫理ードーピングの問題性とスポーツの本質</b> <b>【 到達目標 】</b> ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)			
<b>第6回 冷戦とスポーツ五輪とボイコット</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。 <b>【授業時間外学習】</b> 五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)				<b>第14回 スポーツと体罰</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツと社会的逸脱の関係性について、ドーピング問題、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。 <b>【授業時間外学習】</b> 体罰の問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 スポーツと映像文化について</b> <b>【 到達目標 】</b> 民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。 <b>【授業時間外学習】</b> 「民族の祭典、美の祭典」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)				<b>第15回 これからの社会とスポーツの使命・可能性</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会学的観点から独自の議論を展開できるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ社会学のパースペクティブについて理解し、整理する。(4.0hr)			
<b>第8回 スポーツと事故リスク、安全配慮について</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施)。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 1. 個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。 2. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。 3. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。 4. 静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。 参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著(大修館書店)2006、「性と柔一女子柔道史から問うー」溝口紀子著(河出書房新社)2013、「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著(ミネルヴァ書房)2012、「日本の柔道 フランスのJUDO」溝口紀子著(高文研)2015							
<b>【関連科目】</b> 生涯スポーツ論、スポーツ原論、スポーツ政策論、スポーツ産業論、日常生活の社会学、ジェンダー論							
<b>【成績評価方法】</b> 1. 試験：60% (試験は試験期間中に別途実施。持込不可) 2. 授業中の小レポート(3回)及びリアクションペーパーへの記述内容：40% 3. 良好な出席状況は、当然の前提である。							

# 授業形態：講義

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。			<b>第9回 近代の戦争と体育・スポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 スポーツ史を学ぶ意義</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。			<b>第10回 オリンピックムーブメントと世界平和</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第3回 スポーツのルーツへのまなざし</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。			<b>第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 各時代の社会におけるスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。			<b>第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 スポーツ種目の誕生と変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。			<b>第13回 女性スポーツの展開と現在</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 欧米スポーツの日本への移入</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。			<b>第14回 スポーツとメディア</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 体操、身体教育、スポーツ教育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。			<b>第15回 スポーツと環境問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榎原浩晃編著、道和書院）を講義の参考書として利用すること。						
<b>【関連科目】</b> スポーツ原論						
<b>【成績評価方法】</b> 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	保育者論			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Theory of Nursery Teacher					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解するとともに、保育者の役割と倫理についての認識を深め、子どもの前に立つ者としての自覚と責任を促していく。また、保育の仕事は、保育者間で連携を図りながら協働していくことが必要である。さらに今日では、子育て支援を担う役割が保育者に求められており、園外の専門職や地域の関係機関との連携を推し進めていくことが大切である。こうしたことを踏まえ、乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解を深めていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 保育者の現在 (いま)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者を志す者としての自覚と責任を持つ。 (2)保育者の仕事と置かれている状況等について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「保育者になりたい」自分を振り返る。(4.0hr)			<b>第9回 保育園・幼稚園の一日</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)写真や資料を通して保育園の一日について理解する。 (2)写真や資料を通して幼稚園の一日について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 写真や資料を通して園生活及び保育者の仕事の全体像を把握する。(4.0hr)			
<b>第2回 保育者の制度的位置づけ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育の法的根拠を理解する。 (2)保育者の仕事と資格・要件等について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 児童福祉法、学校教育法、認定こども園法の該当箇所を読む。(4.0hr)			<b>第10回 園での協働</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育における職員間の連携、協働について理解する。 (2)保育の場の運営（チームとしての園のあり方、チーム学校運営）について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保護者への保育の情報提供の方法について考えて書き記す。(4.0hr)			
<b>第3回 保育士と幼稚園教諭</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育士の制度的位置づけや職務内容について理解する。 (2)幼稚園教諭の制度的位置づけや職務内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者の職務内容を書き記す。(4.0hr)			<b>第11回 専門機関との連携</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)療育機関との連携について理解する。 (2)教育機関との連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育現場と小学校との連携について考えて書き記す。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者の役割と責務</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者の役割について理解する。 (2)保育者の責務について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者の役割について、テキストで確認する。(4.0hr)			<b>第12回 保護者支援を担う保育者</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保護者支援の必要性について理解する。 (2)保護者支援の方法と内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育現場における保護者支援に関する取組を調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 保育者の倫理</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者の倫理について考察する。 (2)守秘義務や社会的責任について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者の倫理について資料を見て確認する。(4.0hr)			<b>第13回 地域社会との連携</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育所等の社会的役割について理解する。 (2)地域の関係機関等との連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育現場における地域交流の場面を写真などで見る。(4.0hr)			
<b>第6回 保育者の専門性①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者の資質・能力について理解する。 (2)保育者に求められる知識・技術について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストを読む。(4.0hr)			<b>第14回 保育者の専門的成長</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)専門性の発達について理解する。 (2)他職種との連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育の専門性について考えるところを書き記す。(4.0hr)			
<b>第7回 保育者の専門性②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子どもの保育に関する専門性について理解する。 (2)保護者支援に関する専門性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者の専門性について、他の職種との違いを考える。(4.0hr)			<b>第15回 生涯発達とキャリア形成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者としてのキャリアアップについて考察する。 (2)保育者のライフサイクルについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者として成長していくために必要なことを考える。(4.0hr)			
<b>第8回 保育者の一日</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者の一日について理解する。 (2)保育者の援助について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育者のタイムスケジュール表を作成し、保育（子どもとかかわる）以外の仕事を考えてみる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 保育者を志す者としての自覚と責任をもち、保育者の専門性とは何かを常に問いながら意欲的に学んでほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 井上孝之・山崎敦子編『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』株式会社みらい 村上千つら作・百瀬ユカリ監修『新人保育者物語・さくら』小学館、天野珠路監修『保育者論』基本保育シリーズ・中央法規 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』（最新版）、文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、 厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート等提出物60%、理解度確認のための試験結果を40%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

# 授業形態：講義

科目名	教育原論			担当者	青木純一	
英文名	Theory of Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 「教育とは何か」というテーマについて考えることは、教職を志す上で不可欠の作業である。また今日の日本は深刻な教育問題を抱えており、こうした問題の解決を考えるためには幅広い教育的素養が求められる。本科目においては、以上の課題について、基本的な知識を身につけるとともに、いくつかの側面から考察を加え、教育に関する洞察を深めることを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 教育とは何か</b> <b>【到達目標】</b> 本授業で学習する内容の概要を理解し、学習への意欲を高める。			<b>第9回 諸外国の保育制度</b> <b>【到達目標】</b> アメリカ、中国、オランダなど諸外国の保育制度の特徴を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 幼児における教育の役割とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 諸外国の幼児教育の実態を知るとともに、その特徴を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第2回 幼児教育を築いた人々(1) ルソーの思想</b> <b>【到達目標】</b> ルソーの思想を中心に近代の教育思想を理解する。			<b>第10回 教育課程・保育課程</b> <b>【到達目標】</b> 教育課程や保育課程の全体的、基本的な事項について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> ルソー『エミール』を読む中で、近代教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 幼児教育の教育計画の理念、作成方法、留意点などを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児教育を築いた人々(2) ペスタロッチ、フレーベルの思想</b> <b>【到達目標】</b> ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育を中心にその思想を理解する。			<b>第11回 子どもの発達の特徴と遊び</b> <b>【到達目標】</b> 子どもの発達にとって遊びが重要な役割を果たしていることを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 子どもが発達する上で遊びが重要であることを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第4回 我が国の幼児教育と保育の歴史(1) 戦前の幼児教育・保育</b> <b>【到達目標】</b> 戦前・戦中日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。			<b>第12回 特別支援教育とは</b> <b>【到達目標】</b> 日本の障害児教育の歴史を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 日本で幼児教育が生まれる背景やその内容を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 障害児の特性と特別支援教育の理念について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第5回 我が国の幼児教育と保育の歴史(2) 戦後の幼児教育・保育</b> <b>【到達目標】</b> 戦後日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。			<b>第13回 障害児に対する支援</b> <b>【到達目標】</b> 特殊教育から特別支援教育に変わって障害児への支援の仕方が変化したことを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 戦後日本において、幼稚園や保育園における学習内容を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 障害の特性に応じた指導方法について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもの発達と教育</b> <b>【到達目標】</b> ピアジェの発達論を中心にその意義を理解する。			<b>第14回 生涯学習社会における幼児教育と保育</b> <b>【到達目標】</b> 生涯学習社会における幼児教育や保育のもつ意味について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> ピアジェの発達論を通して人の環境に対する認識方法を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 生涯学習社会において幼児教育を知ることの意味について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第7回 教育と児童福祉における目的と目標</b> <b>【到達目標】</b> 教育基本法やその他の法規から、幼稚園・保育所の目的や役割を理解する。			<b>第15回 幼児教育とはなにか</b> <b>【到達目標】</b> 幼児教育とはなにか、学生一人一人が自分の基本的な考え方をまとめる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 幼児教育に関する基本的な法令を学ぶ。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 幼児にとって教育の意味とはなにか、その基本を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第8回 日本の幼児教育・保育の制度</b> <b>【到達目標】</b> 日本の幼児教育・保育制度について、その目的や課題を理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園と保育園の二元体制が生まれた背景と、幼保一元化にむけた動きを学ぶ。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義に加え、グループワークやディスカッション、授業内でのレポートの作成などを課す予定である。学生諸君には、積極的に授業に参加することを求める。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書を使用するので、各自、用意をすること。 <b>【教科書名】</b> 古橋和夫編著『子どもの教育の原理』萌文書林						
<b>【関連科目】</b> 保育・教育課程論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内小レポート(30%)、試験(70%)から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

# 授業形態：演習

科目名	幼児体育				担当者	森田陽子	
英文名	Physical Education for Preschool Children						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 幼児期になぜ運動あそびが必要なのか、幼児期の運動プログラム、運動あそび指導の実践例などについて、実技とともに大きな単元ごとに講義を行う。この授業で保育実践に必要な教材・教具・遊具の特性について理解し、実際の保育において適切な援助や補助、環境構成ができるようになることを目的とする。 実際に幼稚園児・保育園児とかかわりながらさらにその理解を深める。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション・コミュニケーションゲームなど</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業の予定を知り、授業を受けるためのルールを理解する。 (2)オリエンテーションゲームで、五感の大切さを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> この授業における各自の目標、コミュニケーションゲームでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 固定遊具を使ってのあそび①鉄棒を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)固定遊具に関する知識を得る。 (2)鉄棒の基本動作と逆上がりの段階的な指導法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 小さな遊具を使ってのあそび①ボールを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ボールの特性を考えたり、大きさや感触の違いを感じる。 (2)身近にあるものを使ってあそぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> ボールを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 固定遊具を使ってのあそび②鉄棒を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)基本動作を実践する。 (2)逆上がりを実践する、補助の仕方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント、補助のポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 小さな遊具を使ってのあそび②縄を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)縄の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)一人・二人・大人数で、どんな跳び方ができるか挑戦する。  <b>【授業時間外学習】</b> 縄を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 大きな遊具を使ってのあそび①跳び箱を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)跳び箱運動に必要な感覚を養うあそびを体験する。(跳び箱を使用しない)  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を跳ぶことにつなげる遊び、跳び箱の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 小さな遊具を使ってのあそび③フープを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フープの特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)回す、転がす、投げる、受ける、くぐるなどに挑戦する。  <b>【授業時間外学習】</b> フープを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 大きな遊具を使ってのあそび②跳び箱を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)またぎ越し、踏み越し、とび上がり降りを楽しむ。(低い跳び箱を使って)  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 小さな遊具を使ってのあそび④棒を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)棒の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)バランスをとったり、リズムに合わせてあそぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 大きな遊具を使ってのあそび③跳び箱を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)いろいろな馬跳びを楽しむ。 (2)開脚跳び越しを楽しむ。(好きな跳び箱を使って)  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を使った遊びでの学び、開脚跳びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 大きな遊具を使ってのあそび①マットを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)マットの特性を知る。 (2)前転のバリエーションを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、前転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 表現あそび…布やパラバルーンを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)いろいろな大きさの布を使って表現遊びを楽しむ。 (2)パラバルーンの基本技術を体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 布やパラバルーンを使った表現遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 大きな遊具を使ってのあそび②マットを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)側転のバリエーションを体験する。 (2)補助の仕方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、側転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 調整力を高めるあそび…いろいろな遊具を使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)バランス感覚を養うあそびを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> いろいろな遊具を使った遊びでの学び、指導ポイント、この授業のまとめ等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 大きな遊具を使ってのあそび③マットを使って</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)マットを使ったあそびを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、マットの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 指導者として子どもの前に立つ場面を想定して身支度を整えて授業に臨むこと。 各単元の到達目標を達成できるよう努力するとともに、授業内容を振り返りレポートにまとめる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 幼児体育研究会編『保育者のための幼児の運動遊び指導』不昧堂、岩崎洋子『保育と幼児期の運動あそび』萌文書林、前橋 明『0から5歳児の運動あそび指導百科』ひかりのくに、文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
<b>【関連科目】</b> 子どもの運動発達、陸上競技、運動あそび							
<b>【成績評価方法】</b> 単元ごとの実技テスト80%、レポートおよび授業内の提出物の内容20%。							

# 授業形態：講義

科目名	保育・教育課程論			担当者	青木 純一	
英文名	Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 保育園、幼稚園における保育や教育の目標達成をめざし、どのように保育・教育を進めていくのか。その内容を明らかにするために編成されるのが保育課程・教育課程である。そういった意味で保育所や幼稚園の根幹をなすものである。本科目では保育・教育課程の編成、指導計画の実際、評価と改善の過程を理解することがねらいである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 保育・教育課程と保育士の仕事</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育教育課程が社会において果たす役割や機能を理解する。また、教育課程編成の基本原則を理解する。その上で、保育者の一日の仕事を理解し、記録はすべて一律に必要なものではなく、各園の実情に合わせて柔軟に使われるべきことを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育園や幼稚園における「記録」の種類やその意味を学ぶ。(4.0hr)			<b>第9回 援助計画の種類と書き方②-3～5歳児を対象に</b> <b>【 到達目標 】</b> 3～5歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 3歳～5歳児の指導計画を作成する際の留意点を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第2回 保育者にとっての保育・教育課程</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育者にとって保育・教育課程はなぜ必要なのかを理解する。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。とくに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園や保育園において保育・教育計画がなぜ必要なのか、その理由を学ぶ。(4.0hr)			<b>第10回 環境設定の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児の主体性を引き出す環境はどのように構成されるべきか、その方法を理解する。とくに、環境設定をする際には教育課程の編成の基本原則を理解するとともに、教育課程や指導計画を検討する際には幼児・児童の実態を踏まえる重要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼児の主体性を引き出すための保育環境とはどうあるべきか学ぶ。(4.0hr)			
<b>第3回 保育・教育課程とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育・教育課程とは何か、その目的と計画の手順を理解する。とくに、幼稚園教育要領や保育所保育指針の性格及び位置付け並びに保育・教育課程編成の目的を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 実際に保育計画を作成する際の手順や留意点について学ぶ。(4.0hr)			<b>第11回 保育・教育実践計画</b> <b>【 到達目標 】</b> 「設定保育」の意味を知り、縦割り保育や延長保育、預かり保育など、様々な保育方法の意図や課題を理解する。とくに、単元、学期、学年をまたいだ長期的視野から、教育課程や指導計画を検討することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 「設定保育」の意味を知り、様々な保育制度や保育方法について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの遊びの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育・教育課程の編成を理解する一歩として、まず子どもの遊びを理解する方法を学ぶ。とくに、子どもの遊びを発達段階別に分けて援助方法と環境設定の在り方を理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園や保育園における幼児の遊びの意味を学ぶ。(4.0hr)			<b>第12回 実践に応じた保育・教育課程の工夫</b> <b>【 到達目標 】</b> 地域・家庭との連携など、新たな課題に応じた保育・教育課程の作成方法を理解する。とくに幼保一元化を取り入れる際の課題や小学校の連携を深める際の課題を理解する。また子どもの実態に沿ったカリキュラム・マネジメントの必要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 最近の幼児教育における諸課題について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの発達と個性</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの発達を理解し、併せて発達に応じた教育とはどうあるべきかを理解する。とくに、配慮すべき点として、子供の発達は一律ではなくそれぞれ個別に違うことを理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼児の発達の特性についてこれまでの発達論が示した内容を学ぶ。(4.0hr)			<b>第13回 実践の向上を図る記録のあり方</b> <b>【 到達目標 】</b> カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、保育・教育課程作成のための記録の必要性を知り、様々な記録方法があることを理解する。併せて記録がカリキュラム評価の重要な資料となることを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育・教育課程を作成する際の「記録」の活用の仕方について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第6回 幼稚園教育要領とはなにか</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園教育要領とはなにか、その変遷の歴史を理解する。とくに、教育要領は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかという問いの中から生まれてくるものである。その意味でカリキュラム・マネジメントの在り方を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園教育要領とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)			<b>第14回 保育実践の向上とこれからの保育・教育課程</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実践における個性、多様性、偶発性の意味を理解し、これからの保育・教育課程に必要な課題を理解する。とくに、幼児・児童や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育実践の個性、多様性、偶発性といった特徴を事例を通して学ぶ。(4.0hr)			
<b>第7回 保育所保育指針とはなにか</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所保育指針とはなにか、その性格、位置づけ及び教育課程編成上の目的を理解する。内容と歴史を理解する。とくに、保育指針は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかを考えて生まれることから、カリキュラム・マネジメントの在り方も理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)			<b>第15回 保育の専門性の向上をめざして</b> <b>【 到達目標 】</b> この講義で重要だと思われる事項を再度確認し、あらためて幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育・教育課程論の全体像を理解し、かつ重要事項をあらためて振り返る。(4.0hr)			
<b>第8回 援助計画の種類と書き方①-0～2歳児を対象に</b> <b>【 到達目標 】</b> 0～2歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 0～2歳児を対象とする指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に保育・教育課程を作成する活動を通して諸理論や課題についての理解を深めること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書を使用するので、各自、用意をすること。 <b>【教科書名】</b> 北野幸子編著『乳幼児の教育保育課程論』建帛社 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）						
<b>【関連科目】</b> 教育社会学						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の小レポート（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						



# 授業形態：講義

科目名	保育指導法				担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Methods of Guidance for Child Care						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 保育現場においては、「環境を通して」保育することや「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことが求められる。こうした乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解を深め、その指導法について学ぶことを本科目の目的とする。特に、子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法について保育現場の写真や映像を通して具体的に学んでいく。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 保育における指導</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育の全体構造及び保育者の役割について理解する。 (2) 子どもの育ちを支える保育環境の重要性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育と指導の違いまたは共通点について考えて記す。(4.0hr)				<b>第9回 人間関係の領域にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 役割遊び、ごっこ遊び、けんかの場面について理解する。 (2) 視聴覚教材を活用しながら、遊びやけんかの場面への対応・指導法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ごっこ遊びのリスト（必要な遊具や用具等も含めて）を作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 環境を通して行う保育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育のねらい及び内容について理解する。 (2) 視聴覚教材を活用しながら保育の環境構成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 環境構成と指導の関係について考えて記す。(4.0hr)				<b>第10回 環境の領域にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 自然との関わりや自然を活かした保育について考察する。 (2) 文字や記号など認識力に関する指導法について、小学校へのつながりと共に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自然に関わる遊びや活動のリストを作成する。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの発達過程に応じた保育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 乳幼児期の発達過程と適切な対応（指導、援助）について理解を深める。 (2) 個別支援が必要な子どもの援助・指導について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発達の課題や支援の方法について調べて記す。(4.0hr)				<b>第11回 言葉の領域にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 話す、聴く、言葉の感覚を養うための指導法について、小学校のつながりとともに理解する。 (2) 絵本やお話を活用した指導法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 絵本のリストを作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 保育における個と集団の指導</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 個の成長に寄り添い援助・指導することを学ぶ。 (2) 集団としての成長の過程に寄り添い指導することを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼児期の集団活動や集団遊びを考えて書く。(4.0hr)				<b>第12回 表現の領域にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 絵画・造形に関する指導法について理解する。 (2) 音楽・身体表現に関する指導法について理解し、教材研究をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 絵画造形に関する素材や道具等のリストを作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 生活にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 生活習慣の習得に関する指導の方法を理解する。 (2) 生活技術の習得及び社会生活に関する指導の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 必要な生活習慣を考えて書く。(4.0hr)				<b>第13回 保育実践に向けて①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 指導計画案の作成と保育の展開について理解する。 (2) 指導計画案の理解と指導の多様性について理解し、教材研究をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画を作成し、何通りかの実践を考える。(4.0hr)			
<b>第6回 遊びにかかわる援助・指導の方法①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 遊びの意義及び遊具の種類や果たす役割について理解する。 (2) 遊びに必要な教材について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遊具のリストを作成する。(4.0hr)				<b>第14回 保育実践に向けて②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 模擬保育を行う。 (2) 模擬保育の振り返りをして、保育の改善点を探す。  <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画を改善する。(4.0hr)			
<b>第7回 遊びにかかわる援助・指導の方法②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 遊びの導入・内容について理解する。 (2) 遊びの発展・展開について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遊びのリストを作成する。(4.0hr)				<b>第15回 保育の総合性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 遊びの連続性、総合性を踏まえた保育実践について理解する。 (2) 養護と教育の一体性を踏まえた指導法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育における指導と何かを再考する。(4.0hr)			
<b>第8回 健康の領域にかかわる援助・指導の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 園庭の環境やその遊びについて考察する。 (2) 運動遊びの指導法について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動遊びのリストを作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 具体的な保育場面を想定した多岐にわたる保育の方法、指導の内容を主体的に学んでいく。これまでの体験、子どもとのかかわり、そして、授業や教科書、資料などから得たことをもとに、保育実践の礎を築いてほしい。この授業のノートは今後の実習や実践の場面で必ず活かされるので、しっかりノートを取り確認し自分のものにしてほしい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 百瀬ユカリ著『実習に役立つ保育技術』創成社 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他、資料プリントを配布する。							
<b>【関連科目】</b> 保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現A）、保育内容（表現B）、子どもとあそび							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内テスト結果を40%として総合的に評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（健康）			担当者	森田陽子	
英文名	Child Care Studies (Child Health)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解し、健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 近年の子どもの状況</b> <b>【到達目標】</b> (1) 近年の子どもの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2) 幼児期とはどのような時期なのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 近年の子どもの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第9回 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助</b> <b>【到達目標】</b> (1) 気になる子、障がい児、肥満児等に応じた援助の仕方を理解する。 (2) 家庭経験、性格特性に応じた援助の仕方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 保育における「健康」とは</b> <b>【到達目標】</b> (1) 要領および指針の意義と改訂の趣旨を理解する。 (2) 領域「健康」の位置づけと意味を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針、幼稚園教育要領「健康」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第10回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 様々な運動遊びを知る。 (2) 運動遊びを中心とした具体的な指導の在り方を理解する。 (3) 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。  <b>【授業時間外学習】</b> いろいろな運動遊びについて、その指導の在り方をレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 健康管理と安全能力を育む援助</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもの生活とケガや事故について理解する。 (2) 安全生活の習慣や態度の形成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第11回 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究2）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保育における運動遊びの実際をビデオで確認する。 (2) 空間や遊具の配置等運動遊びにおける環境構成を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動遊びの指導案を立案する。(4.0hr)			
<b>第4回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 基本的な生活習慣の概要、その形成を理解する。 (2) 安全生活の習慣や態度の形成について理解する。 (3) 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。  <b>【授業時間外学習】</b> 健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第12回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 指導案の実践。 (2) 情報機器の活用法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビデオを見ながら、模擬保育を振り返りレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 健康指導の実際を知る。 (2) 安全指導の実際を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育の中の健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)			<b>第13回 健康な心と体を育む保育の評価と改善2</b> <b>【到達目標】</b> (1) 模擬保育の実践を評価する。 (2) 模擬保育の実践を反省する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬保育の評価と反省から指導案の再構成を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1）</b> <b>【到達目標】</b> (1) 健康指導の指導案の立案をする。 (2) 安全指導の指導案の立案をする。 (3) 幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導・安全指導の在り方を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 健康指導・安全指導の指導上の留意点についてレポートする。(4.0hr)			<b>第14回 幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力</b> <b>【到達目標】</b> (1) 幼児期の体や運動発達における発達課題と小学校における運動発達との関係性を確認する。 (2) 小学校の教科等とのつながりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 健康な心と体を育む保育の評価と改善1</b> <b>【到達目標】</b> (1) 健康な心と体を育む保育の評価方法について理解する。 (2) 健康な心と体を育む保育の改善方法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 立案した指導案を評価し、改善点をレポートする。(4.0hr)			<b>第15回 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践</b> <b>【到達目標】</b> (1) 幼児を取り巻く現代的課題を確認する。 (2) 領域「健康」の指導の方向性を考察し、保育実践の動向をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 多様な動きの経験を促す援助</b> <b>【到達目標】</b> (1) 遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成について理解する。 (2) 遊びや生活の中の動きの経験を促す援助の仕方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 多様な動きの経験を促す援助方法についての学びをレポートする。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。						
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト：前橋明編著『乳幼児の健康』大学教育出版（2018年） 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）						
<b>【関連科目】</b> 保育内容（人間関係）、保育内容（言葉）、保育内容（表現）、保育内容（環境）						
<b>【成績評価方法】</b> ①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②指導計画の立案、模擬保育の実践（40%）、③講義内容に対する課題レポート作成（20%）						

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（環境）				担当者	鈴木 信 夫	
英文名	Child Care Studies (Environment)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 幼児は日常生活の中で自然を直接肌で感じ、さまざまな事象に興味や関心をもちながら成長していく。この授業では、領域「環境」の目的と意義を理解し、幼児になじみの深い動植物の飼育栽培の基本や、自然観察の方法を学ぶ。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の概要とねらいを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				<b>第9回 秋の自然(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 近くの公園に行って、ドングリのなる木を実際に観察し、雑木林の特徴を理解する。木の実など、自然の教材を利用する方法を、実際に教材として研究することにより理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで雑木林について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第2回 領域「環境」</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園教育要領および保育所保育指針における、「環境」の意義と目的を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>第10回 冬の自然</b> <b>【 到達目標 】</b> 冬の典型的な気圧配置を理解する。また、冬に日本海側に大雪が降るメカニズムを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットで、キーワード「過冷却」と「雪の結晶ができるまで」を検索し、動画を見ること。次回の授業のために指導案を準備すること。(4.0hr)			
<b>第3回 小動物の飼育・ウサギ</b> <b>【 到達目標 】</b> 動物の飼育例としてウサギを取り上げる。ウサギの飼育の基本とウサギの生物学的な特徴を理解する。 幼稚園・保育所での小動物の飼育の実践例を通して、動物介在教育の意義を再確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでカイウサギについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第11回 おもちゃ作り</b> <b>【 到達目標 】</b> ドングリや木の実、落ち葉など、自然の素材を利用しておもちゃを作成し、準備した指導案をもとにおもちゃを使った模擬授業を行う。課題を通して、実際に自然教材の扱い方を理解するとともに、生活科の内容にある、「身近な自然を利用し、みんなで遊びを楽しむことができる」こととの関連を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自然の素材を使っておもちゃを作成すること。指導案を作成し、模擬授業ができるよう準備をすること。(4.0hr)			
<b>第4回 水槽で飼う生き物(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> メダカや金魚など、水槽で飼育する生き物の飼育の基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ペットショップに行って、水槽の種類や観賞魚を実際に観察すること。(4.0hr)				<b>第12回 植物の栽培と観察(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 花壇作りの基本を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 身の回りにある花壇が、どのような種類の花壇で、どんな花が植えてあるか観察すること。(4.0hr)			
<b>第5回 水槽で飼う生き物(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> オタマジャクシやザリガニ等の生き物の基本を理解する。また、幼稚園等で動物を飼育することの意義を理解する。 小動物の飼育をテーマに、実際に指導案を作成することで、作成方法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> インターネット等でアメリカザリガニの飼育について調べ、授業の理解を深めること。指導案の作成方法を確認すること。(4.0hr)				<b>第13回 植物の栽培と観察(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> トマトやキュウリなどの野菜栽培の基礎を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ホームセンターに行って、野菜の苗を実際に見て、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
<b>第6回 春の自然</b> <b>【 到達目標 】</b> 春の野原に一斉に咲き出す、草花たちの繁殖戦略を理解する。 生活科の目標の一つである、「自然のすばらしさに気付く」ことへの関連を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで、「スプリングエフェメラル」について調べること。(4.0hr)				<b>第14回 園外活動(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 園外活動の意義を理解するとともに、園外活動の一例として、動物園を取り上げ、飼育されている代表的な動物の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットで東京にある代表的な動物園を調べ、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
<b>第7回 夏の自然</b> <b>【 到達目標 】</b> 夏の行事、七夕祭りに関連して、星座や星の一生について理解を深める。 スマートフォンのアプリを利用して、星座や天体の見つけ方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで夏の星座について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第15回 園外活動(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 潮干狩りに関連して、潮の満ち引きが起きるメカニズムを理解する。また、潮間帯に生息する生き物についての理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで潮の満ち引きを調べ、今月の大潮の日を知ること。(4.0hr)			
<b>第8回 秋の自然(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 紅葉のメカニズムを理解する。また、ドングリを取り巻く生き物達について、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドングリのなる木について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「おもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版） 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）							
<b>【関連科目】</b> 生活科							
<b>【成績評価方法】</b> 課題を20%、テストを80%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（言葉）				担当者	並木真理子	
英文名	Child Care Studies (Language)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 言葉の機能や言語獲得のメカニズム、子どもの言葉の発達の流れを理解し、子どもの言葉の育ちを支える保育者の援助のあり方について理解する。また、子どもの言葉を豊かにする言語文化財の実践について理解を深めるとともに、子どもの言葉に関する様々な課題とそれを踏まえた支援について理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス／領域「言葉」とは</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。 幼稚園教育要領・保育所保育要領 領域「言葉」のねらいと内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第9回 子どもの言葉を育てる保育者の支援（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 相手に伝わる言葉で表現する力、生活に必要な言葉の力を育む保育について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 言葉の機能と獲得</b> <b>【 到達目標 】</b> 言葉の機能と子どもの言語獲得のメカニズムについて理解し、子どもの言葉の育ちにおける保育者の支援の重要性を認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第10回 絵本・紙芝居を用いた保育（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵本・紙芝居を活用した保育の効用とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの言葉とその支援（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 視聴覚教材を視聴しながら乳児期の言葉の発達について理解し、子どもの言葉を育てる支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第11回 絵本・紙芝居を用いた保育（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> インターネットを用いて保育指導案を収集し、保育指導案の構想を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの言葉とその支援（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期前期の言葉の発達について理解し、子どもの言葉を育てる支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第12回 絵本・紙芝居を用いた保育（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵本を活用した保育を模擬的に実践し、情報機器を用いてグループ内で検討してより良い実践に向けた改善点を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの言葉とその支援（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期中期の言葉の発達について理解し、子どもの言葉を育てる支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第13回 言葉に親しむ保育教材</b> <b>【 到達目標 】</b> 言葉の面白さを感じられる保育教材の実際を理解し、教材を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもの言葉とその支援（4）</b> <b>【 到達目標 】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期後期の言葉の発達について理解し、子どもの言葉を育てる支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第14回 言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援</b> <b>【 到達目標 】</b> 発達上の課題を抱える子どもや多様なルーツを持つ子どもに対する言葉の支援を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもの言葉とその支援（5）</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の書き言葉の発達について理解し、小学校国語との連携について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)				<b>第15回 子どもを取り巻く言語環境と言葉の保育</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの言葉を取り巻く現代的な課題について理解し、その課題を踏まえた言葉の保育について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもの言葉を育てる保育者の支援（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもを育てる言葉かけ、自分なりの言葉で表現する力を育む保育について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 毎時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめられるようにすること。なお、事例の考察やグループ討論も取り入れていく。積極的に取り組み、自分の考えを持ち、伝えられるようにしていくこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（最新版） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（最新版） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）							
<b>【関連科目】</b> 言語表現、保育内容（総合）、ことばの研究							
<b>【成績評価方法】</b> 授業の課題・振り返り40%、試験60%として総合的に評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（人間関係）			担当者	角 田 和 也	
英 文 名	Child Care Studies (Social Relation of Nursery School and Kindergarten Teacher)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	ダンス学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。発達過程に即した子どもの人間関係の変化を様々な視点から概観するとともに、子どもの状況に応じた援助の仕方について検討する。また、保育者同士および保護者や地域とのかかわりについても理解を深める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション／領域「人間関係」における保育および教育の目標</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間関係を取り巻く現代社会の状況を理解する。 (2)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育の基本および目標を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第9回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅲ—自己主張・葛藤・育ち合い—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)事例を基に、子どもたちの「自己主張」「葛藤」「育ち合い」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第2回 領域「人間関係」におけるねらいと内容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育のねらいおよび内容を理解する。 (2)「評価」の考え方を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第10回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅳ—共同的遊び—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)事例を基に、子どもたちの「共同的遊び」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第3回 身近な人とのかかわりと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間関係の発達の指標となる発達課題について具体的に学ぶ。 (2)それぞれの発達課題が、その後の人間関係の成長にどのような影響を与えていくのかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第11回 人とのかかわりが難しい子どもへの支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)事例を基に、「人とのかかわりが難しい子ども」を支援する方策について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者に求められている人間関係Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)乳児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (2)幼児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (3)情報機器を活用した人とのかかわりを支援する方策について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第12回 領域相互の関連性と保育展開Ⅰ—指導計画の意義・作成実践例（0～2歳児）—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)未満児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第5回 保育者に求められている人間関係Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者同士のかかわりについて理解する。 (2)保育者と保護者のかかわりについて理解する。 (3)情報機器を活用した関係づくりの方策について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第13回 領域相互の関連性と保育展開Ⅱ—指導計画の意義・作成実践例（3歳児）—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)3歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第6回 仲間とのかかわりと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)自己調整力に育ちについて理解する。 (2)道徳性と規範意識の芽生えについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第14回 領域相互の関連性と保育展開Ⅲ—指導計画の意義・作成実践例（4歳児）—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)4歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第7回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅰ —イメージの共有—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)事例を基に、子どもたちの「イメージの共有」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			<b>第15回 領域相互の関連性と保育展開Ⅳ—指導計画の意義・作成実践例（5歳児）—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)5歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第8回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅱ —試行錯誤の過程—</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)事例を基に、子どもたちの「試行錯誤の過程」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題への取り組み。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題の作成を、授業時間外学習で課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定アドレスに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用します。 参考書：①田代和美他編著『演習保育内容人間関係』建帛社、②無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容2〈領域〉人間関係』萌文書林、 ③寺見陽子編著『子どもの心の育ちと人間関係』保育出版社、④田村美由紀・室井佑美著『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林、 ⑤文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、⑥文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、⑦厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> ・提出物の評価……50％ 期末試験の評価……50％ ・試験は試験期間中に別途実施します。						

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（表現A）				担当者	諸 富 満 希 子	
英文名	Child Care Studies (Expression A)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し子どもたちの発達を踏まえた上で、表現領域の一分野である音楽の楽しさを子どもたちに伝え、また子どもたちからさまざまな表現を引き出すことのできる指導法を身につける。1年次の「歌唱法」で取り扱ってきた教材を、実際に子どもたちと歌ったり、楽器で演奏したり、音楽に合わせて動いたりしながら、子どもの「表現」を実際に感じ取る。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 領域「表現」のねらい及び内容の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい・内容について理解する。表現活動について、3・4・5歳を中心に、育みたい資質・能力について具体的に考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 「発育発達論」や「保育・教育心理学」など、1年次に学習してきたことを復習する。(4.0hr)				<b>第9回 年中児の指導（歌と動きを中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> 映像や音声の効果的な使用方法を実践的に学ぶとともに、「静」の環境を整える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自らが「静」の環境を味わい、身の回りにある音に対しての感覚を磨く。(4.0hr)			
<b>第2回 指導の進め方・教材研究（対象：年長児）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年長児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)				<b>第10回 グループ③による体験授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ③を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
<b>第3回 年長児の指導（歌と動きを中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年長児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 年長児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)				<b>第11回 グループ④による体験授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ④を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
<b>第4回 年長児の指導（歌と動きを中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> ダルクローズなど海外の音楽メソッドの特色を理解し、実践の場で活用してみる。  <b>【授業時間外学習】</b> 国内外における音楽メソッドについて、どのようなものがあるか調べる。(4.0hr)				<b>第12回 指導の進め方・教材研究（対象：年少児）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年少児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 年少児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)			
<b>第5回 グループ①による体験授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ①を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)				<b>第13回 年少児の指導（あそび歌を中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年少児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 年少児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)			
<b>第6回 グループ②による体験授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ②を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)				<b>第14回 グループ⑤による体験授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ⑤を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
<b>第7回 指導の進め方・教材研究（対象：年中児）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年中児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 年中児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)				<b>第15回 お楽しみ会を開こう</b> <b>【 到達目標 】</b> 卒園を間近に控えた年長児たちと共に、子どもたちが喜ぶ表現活動を考える。小学校の教科とのつながりを意識し、音楽だけでなく、造形・動きも取り入れた活動をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 「内容が年齢に合っているか」「ことば掛けは適切か」などの観点をもち、活動を工夫する。(4.0hr)			
<b>第8回 年中児の指導（歌と動きを中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> 年中児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 年中児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 教材や指導方法など万全の準備を怠らない努力が必要であるが、それとともに実際の子どもを扱うので、子どもの様子を観察し臨機応変に対応していく柔軟性が求められる。そのため、日頃から、ボランティアなどで子どもと接する機会があることが好ましい。園側の都合により、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『子どものうた140選』ドレミ楽譜出版社、および1年次「歌唱法」の授業時に配ったプリント。 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他、適宜楽譜を配布する。							
<b>【関連科目】</b> 歌唱法、音楽表現、造形表現Ⅰ・Ⅱ、身体表現							
<b>【成績評価方法】</b> 「指導の記録」およびレポート50%、グループ発表ならびに毎授業時における子どもとのコミュニケーション能力50%で評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（表現B）			担当者	望月久也	
英文名	Child Care Studies (Expression B)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 幼児期における表現活動の意義と特質、子どもの姿や発達を促す要因について造形表現を中心に学び、幼児の感性や創造性を豊かにする基本的教材について、素材、技法、ねらいや環境構成、指導上の留意点、評価方法等に関する専門的事項について実践的に理解する。また他の表現活動も視野に入れ、幼児の総合的な表現の可能性を考察する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 領域「表現」について（造形を中心に）</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの表現活動を広く理解し、領域「表現」の位置づけについて説明できる。			<b>第9回 立体素材と技法 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 土粘土づくりとそれを用いた造形活動を実践し、その特性と楽しさを理解する。（また幼児用の油粘土との比較を行い、触感、可塑性の違いについて体感する。）			
<b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。（4.0hr）			<b>【授業時間外学習】</b> 制作進度の遅れを補う。（4.0hr）			
<b>第2回 幼児の平面表現 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の平面表現の特質と発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を映像教材を参考にしながら身につける。			<b>第10回 立体素材と技法 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 紙粘土をはじめとする、固まる可塑性（含プラスチック、焼物）についてそれらの特性と楽しさを理解し、幼児の活動に活かす基礎を培う。			
<b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。（4.0hr）			<b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。（4.0hr）			
<b>第3回 幼児の平面表現 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の平面表現について、発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを情報機器を用いて理解する。			<b>第11回 立体素材と技法 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 紙粘土と厚紙、水彩絵具を併用した総合的立体造形の教材を各自考案し、指導案の素案を作成することができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。			<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）			
<b>第4回 描画材と技法 1</b> <b>【 到達目標 】</b> クレヨンを中心とする幼児の描画材の特質と楽しく使用する方法を実践的に理解する。			<b>第12回 総合的造形表現 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回の授業成果に基づき、教材研究として制作を開始し、指導案の導入部分を明確化するとともに、自らの表現力を高めることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 制作進度の遅れを補う。（4.0hr）			<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）			
<b>第5回 描画材と技法 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児の描画材の使用法の幅を広げて捉え、技法遊び等、子どもの興味を増すような展開を実践的に理解する。			<b>第13回 総合的造形表現 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 教材研究としての制作をすすめるなかで、子どもの活動の展開の可能性や環境設定を明確化するとともに、自らの表現力を高めることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 制作進度の遅れを補う。（4.0hr）			<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）			
<b>第6回 描画材と技法 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 非描画的な画材の使い方を数名のグループに分かれてPC等で検索、考案の上、実際に作品を制作して情報機器を用いたプレゼンテーションを行い、表現活動を構想する方法を身につける。			<b>第14回 総合的造形表現 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 教材研究としての制作を完成させ、指導案をさらに練ってまとめることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）			<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）			
<b>第7回 幼児の立体表現 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 各種粘土の特質と造形的発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を実材の比較映像教材を参考に身につける。			<b>第15回 プレゼンテーション（模擬授業）・まとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> 各自が教材研究作品と指導案をもとに情報機器等を用いたプレゼンテーションを行い、子どもの活動のシミュレーションを明確に伝えることができる。（プレゼンテーションの内容は映像として各自にフィードバックする。） <b>【授業時間外学習】</b> 全員のプレゼンテーションが終了しない場合は補講を行い、フィードバックされた映像について各自レポートを提出する。（4.0hr）			
<b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。（4.0hr）						
<b>第8回 幼児の立体表現 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 小麦粉粘土づくりとそれを用いた造形活動を実践し、その特性と楽しさを理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 制作進度の遅れを補う。（4.0hr）						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』（最新版） 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
<b>【関連科目】</b> 造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	音楽表現			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Music for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 子どもの「表現」の育ちを支えるためには、保育者には音楽的な技術が必要である。子どもの発達に応じたあそびうた・生活のうた・季節のうたなどを、保育の現場でピアノを弾きながら歌って指導できるよう、歌唱法およびピアノ演奏法を学習する。「ソルフェージュ（楽典）」「歌唱法」「器楽Ⅰ」など1年次に習得した音楽の知識をより実践的かつ統合的に学ぶ。少人数に分かれ、グルーブレッスンをおこなう。ここで得た技術を基盤として、子どもの豊かな感性や表現力を引き出すことのできる保育者をめざす。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 弾き歌いの基本的注意事項</b> <b>【 到達目標 】</b> 領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。「子どものうたに合わせて伴奏する」という目標を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 1年生で使用した「パーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。(4.0hr)			<b>第9回 季節のうたの弾き歌い②</b> <b>【 到達目標 】</b> 秋・冬のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「歌唱法」で習った秋・冬のうたを復習する。（「どんぐりころころ」「お正月」など）(4.0hr)			
<b>第2回 ハ長調のうたの弾き歌い</b> <b>【 到達目標 】</b> 平易な曲で、歌いながら弾くことに慣れる。「子どもの豊かな感性を引き出すような伴奏とはどういうものか」を考えながら弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 1年生で使用した「パーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。(4.0hr)			<b>第10回 歌唱と伴奏のバランスの理解①</b> <b>【 到達目標 】</b> うたに合った伴奏の音量や表現を理解する。また、音響機器や映像機器の活用および注意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
<b>第3回 和音で伴奏する4拍子曲</b> <b>【 到達目標 】</b> 簡単な和音進行を理解し、マーチを弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。(4.0hr)			<b>第11回 歌唱と伴奏のバランスの理解②</b> <b>【 到達目標 】</b> うたに合った伴奏の音量、またペダルの使用について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 適宜ペダルを踏みながらピアノを弾く練習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 園生活のうたの弾き歌い①</b> <b>【 到達目標 】</b> 「おはようのうた」「おべんとう」を正確に弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「おはようのうた」「おべんとう」のうたを覚える。(4.0hr)			<b>第12回 ハ長調・ニ長調の曲の弾き歌い</b> <b>【 到達目標 】</b> 調号の#やbに注意しながら弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「ソルフェージュ（楽典）」で習った調性について復習する。(4.0hr)			
<b>第5回 園生活のうたの弾き歌い②</b> <b>【 到達目標 】</b> 「おかえりのうた」を正確に弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「おかえりのうた」を覚える。(4.0hr)			<b>第13回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い①</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
<b>第6回 マーチ・ランニング・スキップのリズム①</b> <b>【 到達目標 】</b> ひとつの楽曲を速度やリズムを変えて弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「歩く」「走る」「スキップする」というそれぞれのリズムを手でたたき、身体覚える。(4.0hr)			<b>第14回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い②</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
<b>第7回 マーチ・ランニング・スキップのリズム②</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムを変えたり、調を移調したりして弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「ソルフェージュ（楽典）」で学習した移調のやり方を復習する。(4.0hr)			<b>第15回 発表会</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもたちがいることを想定し、うたと伴奏のバランスを考えながら人前で演奏する。また自身の演奏が子どもの感性を呼び覚ますものとなるよう、表現を工夫する。  <b>【授業時間外学習】</b> うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
<b>第8回 季節のうたの弾き歌い①</b> <b>【 到達目標 】</b> 春・夏のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。  <b>【授業時間外学習】</b> 「歌唱法」で習った春・夏のうたを復習する。（「先生とおともだち」「うみ」など）(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。ピアノだけに力を注ぐのではなく、うたの部分をきれいに歌うことが肝心である。 個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社） 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他適宜楽譜を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 歌唱法、器楽Ⅰ、ソルフェージュ（楽典）						
<b>【成績評価方法】</b> 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						



# 授業形態：演習

科目名	特別支援教育・障害児保育			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Special Support Education・ Childcare for Children with Disabilities					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 障害のある子ども、その他の特別な配慮を要する子どもを理解し、個別のニーズに対応するために必要な基礎的知識と支援方法を習得することを目的とする。 障害児保育・特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について学び、個々の特性や心身の発達に応じた支援の方法や配慮について具体的に理解する。さらに、家庭への支援、関係機関との連携・協働、障害児保育（特別支援教育を含む）の現状と課題を理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 障害児保育・特別支援教育を支える理念</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)障害の概念、障害児保育・特別支援教育の歴史の変遷について理解する。 (2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。 (3)合理的配慮の考え方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第9回 障害児保育の実際(2) 環境づくり、子ども同士の育ち合い</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)個々の発達を促す生活や遊びの環境・体制の整備方法を具体的に理解する。 (2)子ども同士の関わりと育ち合いについて理解する。 (3)障害児保育における子どもの健康と安全について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第2回 障害のある子どもの理解と支援(1) 視覚・聴覚・言語障害</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。 (2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第10回 障害児保育の実際(3) 職員間の連携・協働</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)クラス内の人的配置、保育所・幼稚園内の連携体制を理解する。 (2)情報の共有と守秘義務について理解する。 (3)特別な保育ニーズをもつ子どもへの保育者の専門性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第3回 障害のある子どもの理解と支援(2) 肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第11回 家庭への理解と支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。 (2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。 (3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第4回 障害のある子どもの理解と支援(3) 知的障害</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第12回 関係機関との連携</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育機関と児童発達支援センター・医療機関等との連携について理解する。 (2)保育機関と地域の小学校、教育委員会との連携について理解する。 (3)特別支援教育コーディネーターの役割について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 障害のある子どもの理解と支援(4) 発達障害</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (3)ASD-自閉症スペクトラム障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第13回 特別のニーズのある子どもの現状と課題(1) 保健・医療</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保健をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2)医療をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第6回 障害のある子どもの運動発達支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)DCD-発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)障害のある子どもの発達を支援する運動あそびの理論と実際を理解する。 (3)支援課題に結び付けた環境設定(遊具等)の方法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)			<b>第14回 特別のニーズのある子どもの現状と課題(2) 福祉・教育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)福祉をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2)教育をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第7回 障害はないが特別な支援ニーズのある幼児の把握や支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)母国語の違い、LGBT、貧困、虐待、DV、社会的養護等、特別な支援を必要とする子どもの、学習上または生活上の困難について理解する。 (2)多様な特別支援ニーズをもつ子どもへの、組織的な対応の必要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			<b>第15回 特別のニーズのある子どもの現状と課題(3) 地域</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)地域における支援の場の広がりやつながりを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第8回 障害児保育の実際(1) 記録・評価、個別の指導計画・支援計画</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)行動観察、成育歴、検査等による発達の記録と評価について理解する。 (2)保育所保育指針および特別支援教育課程の趣旨に基づき、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 障害のある子どもを保育するときも、一人ひとりの育ちを支援していくという保育の本質は変わらない。実際に児童発達支援や特別支援学校の児童とかかわる機会をもちながら学習することで、理論と実際を結び付け、適切な支援を行うための基礎的知識と実践的な技術を身につけていくことが重要である。家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など、子どもの育ちの支援について幅広い視点を学習し、自らが主体的に保育にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 子ども家庭福祉、子育て支援						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 学期末に試験を行う。						

# 授業形態：演習

科目名	幼児リトミック				担当者	森田陽子	
英文名	Rhythmic Dance for Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2					専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> リトミックは、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。また、心で感じたものを、からだを使って自分なりに表現することで心とからだの協調・調和を作り出そうとするものである。授業では、天野式リトミックを基本に現在の保育の現場にあったリトミックを模索することで、保育者自身に必要な基礎的能力を養う。また、保育現場でのリトミックの取り入れ方を実践的に学び、応用する力をつける。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> オリエンテーション：リトミックについてリトミックの特性について認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第9回 音楽反応②</b> <b>【 到達目標 】</b> 手足のコントロール、その他の音楽反応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 基礎リズム①</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムとは何かを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第10回 体育遊び①</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児テクニックを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 基礎リズム②</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体や教具を用いて、基礎リズムを表現することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第11回 体育遊び②</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児体操を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 リズムパターン①</b> <b>【 到達目標 】</b> 記憶したリズムパターンを身体表現することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第12回 年齢別カリキュラム①</b> <b>【 到達目標 】</b> 1歳児と2歳児のカリキュラムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 リズムパターン②</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムパターンを作成し、教具で表現できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第13回 年齢別カリキュラム②</b> <b>【 到達目標 】</b> 3歳児のカリキュラムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 拍子①</b> <b>【 到達目標 】</b> 拍子の種類、各拍の役割について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第14回 年齢別カリキュラム③</b> <b>【 到達目標 】</b> 4歳児のカリキュラムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 拍子②</b> <b>【 到達目標 】</b> 各拍子に合わせた動作を表現することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第15回 年齢別カリキュラム④</b> <b>【 到達目標 】</b> 5歳児のカリキュラムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 音楽反応①</b> <b>【 到達目標 】</b> 和音遊び、拍子練習、音符の表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 本授業は毎回実技なので、動きやすい服装、素足で行う。授業で経験した活動、幼児のための指導については必ずノートを取り、気付いたことなど書きとめておくようにすること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 天野式「幼児リトミック」第1集 永倉栄子編（チャイルド本社） 天野式「幼児リトミック」第2集 永倉栄子編（チャイルド本社）							
<b>【関連科目】</b> 身体表現、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ、音楽表現							
<b>【成績評価方法】</b> 授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価50%、単元ごとの実技試験50%。							

# 授業形態：講義

科目名	教育社会学			担当者	青木 純一	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 学校や児童生徒に関する社会的かつ具体的問題について考える。その上で様々な教育問題は学校だけで解決できるものではなく、ひろく家庭、地域、社会との連携が必要であることを理解することが本科目の目的である。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 日本の学校と教育の在り方について考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の学校を支える理念とはなにかを理解する。とくに、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解する。併せて近年の学校をめぐる様々な変化について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本の学校と教育の特徴について学ぶ。(4.0hr)			<b>第9回 いじめ問題の歴史とその特徴を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> いじめが学校問題として登場した背景とその特徴について理解する。とくに近年の子どもの変化を踏まえ、指導上の課題を探る。また諸外国の教育事情や教育改革の動向と関連させて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> いじめの歴史について、とくにいじめが学校問題となった経緯や背景を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第2回 教師の指導力を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校における体罰を例に教師の指導力とはなにかを理解する。併せて教師をめぐる教育関連法規法を理解するとともに、指導力を高める際に必要な学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教員や幼稚園教諭、保育士の体罰から指導力について学ぶ。(4.0hr)			<b>第10回 いじめ対策の在り方考える</b> <b>【 到達目標 】</b> いじめ対策の一例として長野県の取り組みを中心にその具体策を探る。いじめ対策は地域との連携を基とする開かれた学校づくりが大切であることを理解する。また、公教育制度を構成する教育関連法規と関連させていじめ対策に取組む必要性や学級経営上の留意点等を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> いじめ対策は学校だけでなく、家庭、地域が一体になる必要性を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第3回 小学校における最近の児童の実態を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 小学校高学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、具体的な事例などを参考にしながら、その問題点を理解する。とくに子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルなど効果的な指導方法も併せて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 小学校高学年の実態を学級崩壊の実態から学ぶ。(4.0hr)			<b>第11回 子どもの病気や怪我を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 不幸にして病気や事故で大きなハンディを負う子どもがいる。そこで、学校の管理下で起こる事件、事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> いじめによる自殺者や病気・事故による子どもの死から大人の果たすべき役割を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第4回 中学校における最近の生徒の実態を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校における荒れの実態を知るとともに、どのような生徒指導が必要か、その在り方を探る。とくに、最近の子どもの変化、社会の変化と関連させ、教職員が協同して取組む必要性を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルの重要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 中学校における生徒の実態を荒れる実際から学ぶ。(4.0hr)			<b>第12回 世界の中の日本の子どもを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 各種の統計・実態調査を使って、諸外国の教育事情と教育政策の動向と比較して理解する。とくに、教育制度を支える教育理念の違いや教育制度をめぐる諸課題を日本と比較して理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本の子どもの実態について世界と比較しながら学ぶ。(4.0hr)			
<b>第5回 幼小の連携の在り方考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児教育と小学校とのスムーズな連携を図るために、どのような取組が必要かを理解する。とくに近年の教育政策の動向を理解し、小1プロブレムのような問題を起こさないためにスタートカリキュラム等の実践例を挙げて、その特徴を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育所、幼稚園と小学校の連携のあり方について学ぶ。(4.0hr)			<b>第13回 子どもの貧困とその対策を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の子どもの貧困について理解する。とくに、子ども食堂など、ボランティアによる支援など、子どもの貧困問題の解決には地域との連携・協力が欠かせないことを理解する。こうした子どもへ配慮する、効果的な学級経営の方法や指導法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 貧困に関する日本や世界の実態を統計から学ぶ。(4.0hr)			
<b>第6回 不登校の歴史とその特徴を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 登校拒否から不登校に至る歴史とその特徴について理解する。その際には社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響と不登校を生み出す学校制度をめぐる諸課題についても理解する。併せて、子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 不登校の歴史的経過や最近の実態について学ぶ。(4.0hr)			<b>第14回 子どもの健康・安全について考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの健康や安全の視点から、学校は地域とどのように連携・協力すべきか、その具体的な対策について考える。とくに学校事故を未然に防ぐための安全管理、安全教育の両面から具体的な取組を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本における子どもの健康の実態とその対策の歴史を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第7回 インクルーシブなカリキュラムを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 不登校や障害者問題を契機に学校におけるインクルーシブ教育の在り方を理解する。とくに、地域との連携をもとに開かれた学校づくりの観点から障がい者と健常者が一体となった学びの在り方を理解するとともに、最近の特別支援教育の動向も理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 多文化共生社会にあって、どのようなカリキュラムが必要になるかを学ぶ。(4.0hr)			<b>第15回 これからの学校・教育の在り方考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 第1回～第14回の講義を踏まえ、これからの学校や教育の在り方を探る。とくに公教育の原理及び理念を理解する。また、学校を巡る近年の様々な状況の変化も併せて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> これからの学校に必要なものとはなにか、教師に必要な資質とはなにかを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第8回 学校外の教育活動について考える。</b> <b>【 到達目標 】</b> フリースクールや学習塾など、学校外で教育を保障する活動を理解する。具体的にはフリースクールや予備校、塾などの果たす役割を公教育の原理及び理念と絡めて理解する。また、諸外国の教育事情と、関連させながら理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 学校教育以外の教育活動の実態とその特徴を学ぶ。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 最近の教育問題について新聞、雑誌などに目を通しておくことが大切である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』（最新版）、その他の参考書は随時紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 教育原論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内小レポート（30%）、グループ発表（20%）、試験（50%）から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

# 授業形態：講義

科目名	教育方法学			担当者	望月久也	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育について広く捉え、教育者としての素養と実践へとつながる基礎として、適切な教育方法及び技術、教材や情報機器等の活用の仕方に関する知識・技能を身につける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 教育方法とは</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育方法の基礎的な理論を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 「教育原論」等で学習した内容を復習する。(4.0hr)			<b>第9回 模擬授業1</b> <b>【 到達目標 】</b> 数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業（活動）を行い、互いに講評しあうアクティブラーニングを通じて、話を始めとする保育を行う上での基礎的な指導技術を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業に向けての教材、教具等の準備を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 教育方法の実践</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育方法の実践の基本を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 自らの経験から教育方法に関する具体例をまとめる。(4.0hr)			<b>第10回 模擬授業2</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回残された学生が同様に模擬授業（活動）を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 前回と同様。(4.0hr)			
<b>第3回 開発主義的教育方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 古代と近代における、主に対話的、開発主義的な教育方法の考え方を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 地理歴史、公民の一部内容を復習する。(4.0hr)			<b>第11回 工学的教育的活用</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育工学からICT教育に至る流れと、各種機器の教育的特性を理解している。各種機器の教育的特性を活かし、子どもの情報活用能力を育成する指導法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 現代的教育方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 20世紀以降の児童中心主義的な、子どもの資質・能力を育成するための教育方法の在り方を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 「教育原論」の復習を行う。(4.0hr)			<b>第12回 情報機器等の活用1</b> <b>【 到達目標 】</b> 情報機器等を活用した授業（活動）や振り返り（フィードバック）について数グループに分かれてディスカッションを行いその結果を発表することで、教材作成や活用の基礎的な能力を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 前回と同様。(4.0hr)			
<b>第5回 学校について（幼稚園）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学級・幼児・教員・保育室・教材など保育活動を構成する基礎的な要件を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			<b>第13回 情報機器等の活用2</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業以外での情報機器等の活用（記録、連絡、事務的使用等）について数グループに分かれてディスカッションを行いその結果を発表することで、教師、子ども、保護者を含めた利点と問題点、モラルやマナーについて理解している。 <b>【授業時間外学習】</b> インターネットを使用した犯罪や日頃の自らの使用法について考える。(4.0hr)			
<b>第6回 学習指導について</b> <b>【 到達目標 】</b> 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた授業（活動）の目標とその導入・展開・まとめ・評価に対する基礎的な考え方を理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 先輩が作成したものや公開されている学習指導案について調べる。(4.0hr)			<b>第14回 これからの教育方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 従来の形式から脱し、情報機器活用も念頭に子どもの主体的活動から学べる教育方法や学校の在り方について理解している。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回のプレゼンテーションに向けて準備をする。(4.0hr)			
<b>第7回 教材研究・学習指導案作成1</b> <b>【 到達目標 】</b> 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究と学習指導案作成の不足を補う。(4.0hr)			<b>第15回 考察・プレゼンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業全体を通じて学んだ内容について各自が要点をまとめ、分かりやすく発表する。  <b>【授業時間外学習】</b> ノート、資料等を整理し、教育方法について自らの考えをまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 教材研究・学習指導案作成2</b> <b>【 到達目標 】</b> 基礎的な学習指導理論を踏まえ、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた上で、さらに幼児理解に基づいた活動をイメージした学習指導案を完成することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 前回と同様。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 適宜小レポート、発表を課すので、授業内容について教育実践を念頭において、考えをまとめる習慣をつけておく。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』（最新版）、その他の参考文献、教育関連の法令等は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
<b>【関連科目】</b> 教育原論、保育・教育課程論、教育実習（事前・事後指導を含む）						
<b>【成績評価方法】</b> 小レポートと学習指導案の合計を50%、授業内における各発表の合計を50%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	保育内容（総合）				担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Child Care Studies (Seminar)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 保育内容として、教育の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）があり、各領域ごとの科目が設定されている。本科目ではそれらの領域及び養護に関する保育の内容が、関連性をもって総合的に展開されることを具体的な保育実践につなげて理解することを目的とする。特に、多様な要素を含む子どもの遊びの内容や、その展開を助けるための環境構成に関する知識・技術について写真や映像を通して、具体的に学んでいく。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 保育の内容について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育内容とは何かを理解する。 (2)保育内容の今日的課題について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育内容について知っていることを書き記す。(4.0hr)			<b>第9回 保育の実践</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)指導計画に沿って模擬保育を行う。 (2)模擬保育を振り返り、保育を改善するための視点を持つ。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬保育の後に、指導計画案を修正する。(4.0hr)				
<b>第2回 養護に関する保育の内容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)養護に関する保育内容について理解する。 (2)養護に関する保育実践について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「養護」と名のつくものを書き記す。(4.0hr)			<b>第10回 保育環境の構成と再構成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)環境構成の重要性やその意図について理解を深める。 (2)環境の再構成について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育の事例を調べ、環境構成の重要性を理解する。(4.0hr)				
<b>第3回 教育に関する保育の内容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)教育に関する保育内容について理解する。 (2)教育に関する保育実践について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「教育」と名のつくものを書き記す。(4.0hr)			<b>第11回 遊びの導入と展開①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)遊びの導入の方法について理解する。 (2)視聴覚教材を活用しながら遊びの展開の方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 導入－展開に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)				
<b>第4回 養護と教育の一体性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)養護と教育の一体性について理解する。 (2)養護と教育の一体性に関する保育実践について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 養護と教育の一体的展開に関する保育実践例（教科書）を読む。(4.0hr)			<b>第12回 遊びの導入と展開②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)遊びの導入と展開を具体的に理解する。 (2)遊びの導入と展開を考察し、適切な教材について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 映像や写真から遊びの導入と展開を予測したり考えたりする。(4.0hr)				
<b>第5回 子どもの発達過程と保育内容①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)3歳未満児の発達過程について理解する。 (2)3歳未満児の発達に応じた保育内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 3歳未満児の写真及び資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)			<b>第13回 遊びと保育内容①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)遊びをみる視点と保育者の援助について理解する。 (2)「物とのかかわり」「人とのかかわり」について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遊びをみる視点に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)				
<b>第6回 子どもの発達過程と保育内容②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)3歳以上児の発達過程について理解する。 (2)3歳以上児の発達に応じた保育内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 3歳～5歳児の写真及び資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)			<b>第14回 遊びと保育内容②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)5領域の特性に応じた保育実践と総合的指導について理解する。 (2)視聴覚教材を活用しながら遊びの援助の実際を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> “○○ごっこ”を5領域の観点から分析してみる。(4.0hr)				
<b>第7回 保育の計画①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育課程と指導計画について理解する。 (2)指導計画の内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育課程及び指導計画に関する教科書の該当箇所を読み、理解を深める。(4.0hr)			<b>第15回 保育内容の更なる充実をめざして</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)接続期（年長～小1）のカリキュラムについて理解する。 (2)小学校の学習内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 小学校の学習指導要領やアプローチカリキュラムについての資料を読む。(4.0hr)				
<b>第8回 保育の計画②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)指導計画に基づく保育実践を理解する。 (2)指導計画案を具体的に作成し、必要な教材研究を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育現場の指導計画を参考に、指導計画案を作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 保育内容を総合的に理解するために、様々な科目と関連づけて学ばなければならない。5領域に関する「保育内容の研究」の授業はもとより、保育原理、保育指導法などの学習とつながらながら保育実践の基盤をつくってほしい。今後の保育実習や実践に活かすべく、しっかりとノートを取り、具体的な保育場面を想定しながら学びを深めてほしい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：太田悦生編 百瀬ユカリ他著『新・保育内容総論[第2版]』株式会社みらい 参考書：天野珠路著『保育が織りなす豊かな世界』ひかりのくに、文部科学省『幼稚園教育要領解説書』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針解説書』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（最新版）（フレーベル館）							
<b>【関連科目】</b> 保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容（環境）、保育内容（言葉）、保育内容（表現A）、保育内容（表現B）、子どもとあそび、保育指導法							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内テスト結果を40%として総合的に評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育指導法演習			担当者	桐川 敦子	
英文名	Seminar in Method of Child Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修
<b>【目的とねらい】</b> 幼稚園の保育は基本的に次のような考え方によって行われる。「幼児の主体的な生活を中心に展開される。」「環境を通して行う。」「幼児一人ひとりの特徴や発達に応じて行う。」「あそびを通して総合的な指導によって行われる。」 子どもが主体的につくるあそびに保育者はどのようにかかわっていったらよいのか。どのように援助し、働きかけていくべきか。保育の中で指導とは何か。子どもと共にある保育者の姿勢とは。これらを、具体的な実践の場を設定し、学んでいく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 本授業におけるオリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園教育要領や保育所保育指針で述べられている保育の基本的な考え方について確認し、授業目的について、附属幼稚園の子どもたちとかわりながら「おみせやさんごっこ」を展開するといった具体的な実践の場で学んでいくというこの授業の在り方を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料の確認をする。(4.0hr)			<b>第9回 保育活動の実践2</b> <b>【 到達目標 】</b> 4歳児、5歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第2回 保育と指導</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育の形態について学び、自分たちが行おうとする保育活動の位置づけを明らかにする。グループごとに保育活動のねらいとテーマを考える。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れて保育活動を構想する。情報機器及び教材の活用なども考慮し、保育の構想に役立てる。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育の形態についての復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 保育活動の実践3</b> <b>【 到達目標 】</b> 4歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第3回 保育活動の指導計画作成</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに保育活動の指導計画を立て、発表する。指導案立案に際しては、ねらい及び内容について考慮し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解しながら行う。子ども達への働きかけ、かわり方等十分に検討する。子どもと共にある保育者としてどのようにあるべきか検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画の立案をする。(4.0hr)			<b>第11回 保育活動の実践4</b> <b>【 到達目標 】</b> 3歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第4回 教材研究</b> <b>【 到達目標 】</b> 教材などについて検討し、グループごとに発表する。安全面、子どもの年齢、発展性など様々な角度から検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)			<b>第12回 保育活動の実践5</b> <b>【 到達目標 】</b> 3歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第5回 保育活動の準備1</b> <b>【 到達目標 】</b> 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。途中、中間報告会を設ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)			<b>第13回 実践の振り返り1</b> <b>【 到達目標 】</b> 実践で学んだことを、様々な思想、学問と照らし合わせる。理論と実践を融合させながら考察し、保育について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 保育活動の準備2</b> <b>【 到達目標 】</b> 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)			<b>第14回 実践の振り返り2</b> <b>【 到達目標 】</b> 反省点などをまとめ、資料を整理する。学習した事柄を記録として残す。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 環境構成</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもたちにとって良い環境構成とは何かを考える。安全面など様々な角度から検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)			<b>第15回 実践の振り返り3</b> <b>【 到達目標 】</b> 活動中の映像を見ながら総合的に振り返り、保育と指導、あそびと援助について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 保育活動の実践1</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育活動を行う。(5歳児)子どもと関わる回においては、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を確実に身に付けようとする。5歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。5歳児については小学校との接続を考慮しながら援助を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 附属幼稚園の子どもたちとかわる授業なので、保育者を目指す学生の真剣な取り組みを期待する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）						
<b>【関連科目】</b> 保育指導法						
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の発表50% レポート50%						

# 授業形態：講義

科目名	子どもの保健			担当者	沢田真喜子	
英文名	Child Health					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 子どもの心身の健康増進を目指す保健活動の意義を理解し、子どもの発育発達過程や心身の健康状態とその把握方法、子どもに多い病気や事故の実態、子どもを取りまく健康問題と小児保健政策や母子保健政策などを学び、集団保育の場で行う子どもの健康管理と安全管理に必要な知識を身につけることを目的とする。子どもの心身の健康を守り適確な対応や望ましい援助を行い、子どもが自らの健康について関心をもてるようはたらきかける保育者として必要な保健管理・保健教育の資質・能力の修得を目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 保健活動の意義と目的</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの健康に保健活動は、どのように役立ってきたかを理解する。 ・子どもの保健活動で扱う範囲を知る。 ・子どもの保健の知識を子どもの保育でどのように役立てるかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p1-13) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第9回 感染症の予防および適切な対応</b> <b>【 到達目標 】</b> ・感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 ・予防接種について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p74-80) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの出生と母子保健の意義</b> <b>【 到達目標 】</b> ・胎児の発育と出生の過程を知る。 ・胎児の発育と出生に影響する因子および新生児の特徴を理解する。 ・母子保健が子どもの健康を守るために果たしている意義について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p14-19) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第10回 救急疾患の特徴と適切な対応</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの救急疾患の特徴とその対応を理解する。 ・重症児の判断と子どもの心肺蘇生法を理解する。 ・救急疾患が重症化しないようにするにはどうしたらよいかと理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p81-90) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第3回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</b> <b>【 到達目標 】</b> ・わが国の出生と子どもの死亡に関する統計から、子どもの健康に関する現状を知る。 ・子どもの健康に関する時代の推移を理解し、現代社会における現状と課題を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p20-27) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第11回 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応</b> <b>【 到達目標 】</b> ・新生児特有の病気と対応を知る。 ・早産児や低出生体重児の定義と対応を知る。 ・新生児期にわかる主な先天性の病気と対応を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p91-97) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの身体発育と運動機能の発達</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 ・わが国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 ・子どもの身体発育や発達に影響するものを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p28-41) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第12回 アレルギー疾患の特徴と適切な対応</b> <b>【 到達目標 】</b> ・アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 ・集団生活におけるアレルギー疾患児の対応を知る。 ・アレルギーを抱える子どもの発達をどのように見守るか考える。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p98-105) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第5回 生理機能の発達と生活習慣</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもと大人の生理機能の違いを理解する。 ・子どもの生理機能の評価の仕方を理解する。 ・生理機能の発達に応じた生活習慣を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p42-50) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第13回 慢性疾患の特徴と適切な対応</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの主な慢性疾患の種類とそれぞれの症状、対応を理解する。 ・慢性疾患を抱えている子どもの支援について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p106-118) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第6回 地域における保健活動と子どもの虐待防止</b> <b>【 到達目標 】</b> ・地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行っているかを理解する。 ・子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p51-59) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第14回 保護者との情報共有と家族の支援</b> <b>【 到達目標 】</b> ・保護者との情報共有は、具体的にどのように行うかを理解する。 ・様々な子どもたちの健康状況と支援や情報共有にはどのようなことがあるか理解する。 ・子どもを育てるための家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p119-128) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの健康状態の把握の方法について理解する。 ・子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p60-64) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			<b>第15回 子どもの健康診断と関連機関との連携</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもに関連する健康診断の内容と意義を理解する。 ・健康診断を通じた関係機関との連携の実際と意義を理解する。 ・健康診断を通じた子育て支援を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p129-138) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもの免疫の発達と感染症の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> ・子どもの免疫の発達について理解する。 ・感染症の種類と感染経路を知る。 ・子どもがかかりやすい感染症の特徴を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所 (p65-73) を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書を中心に授業を進めるが、必要に応じてレジュメや資料等を提供するため、あわせて理解を深めるようにして欲しい。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったこと等はフィードバックし、学習者全体の理解が深まるよう主体的・積極的にかかわって欲しい。 子どもの健康や病気、事件や事故に関する書籍やニュース等、日頃からチェックする習慣を身につけて授業に臨んで欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は、第1回授業前に掲示にて示す。参考書については、第1回授業時に紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 子どもの健康と安全、乳児保育Ⅰ・Ⅱ、保育内容（健康）、救急処置法						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内容の習得度（10％）、課題レポート（20％）、小テスト（40％）、試験（30％）の加重平均にて総合的に評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	子ども家庭福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child and Family Welfare					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 子どもや家庭を取り巻く社会的環境は、子どもの育ちという側面からみても、子育てという側面からみても、昨今非常に厳しいものがある。本講義では、子どもの育ちや子育てを社会的に支える仕組みや制度について、基礎的事項を学ぶことを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 子ども家庭福祉の理念・概念</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 現代社会における子ども家庭福祉の理念を理解する。 (2) 現代社会における子ども家庭福祉の概念について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第9回 母子保健と子どもの健全育成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 母子保健施策の現状と課題を理解する。 (2) 子どもの健全育成施策の現状と課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 子ども家庭福祉の歴史の変遷</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 (2) 欧米の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第10回 障がいのある子どもとその家族への支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 障がいのある子どもと家族について現状と課題を理解する。 (2) 障がいのある子どもと家族を支援する制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 現代の養育環境</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容を理解する。 (2) 現代社会の子ども家庭をめぐる多様な問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第11回 社会的養護・少年非行等と家族への支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会的養護について、現状と課題を理解する。 (2) 非行児童とその家族を支援する制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの人権擁護</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷を理解する。 (2) 児童の権利に関する条約について理解する。 (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第12回 児童虐待防止への取り組み</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 児童虐待の定義、現状と課題について説明できる。 (2) 子どもを虐待から保護する仕組みについて説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第5回 子ども家庭福祉の法体系</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 児童福祉法をはじめとする児童福祉六法について説明できる。 (2) その他の子ども家庭福祉関連法の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第13回 ドメスティックバイオレンスへの対応</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ドメスティックバイオレンスの現状と課題を理解する。 (2) ドメスティックバイオレンスへの対応について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 子ども家庭福祉の実施体制、行財政、専門職</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子ども家庭福祉行政の実施機関、児童福祉施設について説明できる。 (2) 子ども家庭福祉の財政、専門職について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第14回 現代的課題への対応</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。 (2) 地域における連携・協働とネットワークについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 少子化と地域子育て支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 少子化と子育て支援・次世代育成支援施策の動向を理解する。 (2) 地域における子育て支援サービスの概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第15回 諸外国の動向</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 諸外国の子ども家庭福祉の動向を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 多様な保育ニーズへの対応</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育制度と保育施策の現状と課題について説明できる。 (2) 多様な保育ニーズに対応するサービスについて説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 現代社会に実際に起こっている子どもの育ち、子育てをめぐる問題を、新聞やTVのニュース報道より適宜取り上げる。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチし、多様な視点から思考できる力を養っておくことが大切である。子ども家庭福祉をめぐる課題について、自身の子ども時代と結びつけながら、あるいは親になったときのことを思いながら、具体的に考えてみると理解が深まるであろう。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 社会福祉、社会的養護、特別支援教育・障害児保育						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。試験は、授業内での中間試験と、試験期間中に期末試験を行う。						



# 授業形態：講義

科目名	乳児保育 I			担当者	沢田真喜子	
英文名	Early Child Care I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 乳児保育の理念と歴史の変遷及び社会的役割等について学び、多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。特に、3歳未満児の心身の発育・発達過程について理解を深め、各年齢・月齢の発達の特徴や環境とのかかわりを理解する。また、健康、安全及び保健衛生面についての配慮や運営体制、胎児期からの保護者支援の重要性について具体的な事例を通して学び、地域との交流、関係機関との連携の重要性など、現代における保護者支援と乳児保育の役割について理解を深める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 乳児保育の意義</b> <b>【到達目標】</b> 乳児保育の考え方、子ども子育て支援制度における乳児保育、社会的養護としての乳児院について理解し、乳児保育の意義について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 母性神話や三歳児神話とはどのような考え方だったのか調べとめる。(4.0hr)			<b>第9回 乳児期の特性と乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 0～3歳児（低年齢児）の発達の特徴と発達過程、自我の芽生えと人格形成について理解し、低年齢児の自己主張の具体例をもとに関わり方や保護者支援について考えることができる。低年齢児の自己主張の具体例をもとに関わり方や保護者支援について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 現代における子育て支援と乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 社会から求められる乳児保育、保護者の就業状況について整理し、乳児保育の理念と役割について理解する。産前産後休暇、育児休暇の取得と働き方・育て方について、保護者の立場に立ち、考えることができる。得と働き方・育て方について、保護者の立場に立ち、考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 指定した資料を調べ、保育を必要とする事由についてまとめる。(4.0hr)			<b>第10回 生活環境づくりと保育者の援助</b> <b>【到達目標】</b> 運動機能の発達と保育の役割としての生活環境づくりと遊びについて、理解する。低年齢児の自己主張の具体例をもとに関わり方や保護者支援について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第3回 保育所における乳児保育①</b> <b>【到達目標】</b> 乳児保育をめぐる現状と保育所の役割、保育所における地域の子育て支援事業、物的環境、人的環境を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所における子育て支援事業について調べる。(4.0hr)			<b>第11回 基本的な生活習慣の獲得と保育</b> <b>【到達目標】</b> 乳児期の食事・排泄行動の整理と発達、睡眠と午睡について理解し、発育・発達をふまえた保育者の援助やかかわりについてまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 保育所における乳児保育②</b> <b>【到達目標】</b> 保育所の生活、0、1、2歳児における保育の配慮事項について理解した上で、演習課題に取り組み、保育所で行われているプログラムから保育内容について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第12回 対人関係の発達と保育</b> <b>【到達目標】</b> ことばの発達や対人関係の発達について理解し、保育者の援助や配慮事項についてまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 認定こども園における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 認定こども園の法的位置づけ、幼保連携型認定こども園の生活とデイリープログラムについて、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第13回 乳児保育と保育の計画・評価①</b> <b>【到達目標】</b> 生活リズムと保育園の日課、保育日誌と家庭との連絡の実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第6回 乳児院における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 近年の乳児院の状況と運営、乳児院における養育の基本と内容について理解し、乳児院における生活や養育の原則、早期の家庭復帰支援について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第14回 乳児保育と保育の計画・評価②</b> <b>【到達目標】</b> 乳児のための指導計画作成の視点を学び、年間指導計画、月間指導計画、週案・日案の作成方法と評価方法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第7回 家庭的保育等における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 家庭的保育事業の法規定と保育の特徴について理解し、家庭的保育室の実際について調べた資料をもとに、家庭的保育者の資質向上について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第15回 乳児保育における連携とパートナーシップ</b> <b>【到達目標】</b> 職員間および保護者との連携のあり方について、乳児の養育環境及び保育の課題をふまえて理解することができる。保護者支援については、自治体や地域の関係機関等との連携・協働の実例から理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題をもとに地域の関連専門機関の役割についてまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 乳児保育が行われる様々な場と保育事業</b> <b>【到達目標】</b> 子ども・子育て支援新制度における保育内容の位置づけ、地域型保育事業の概要、小規模保育事業、居宅訪問型保育事業、事業所内保育事業について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 配布資料や参考書を用いて授業を進めるが、ノートを作成し授業のポイントや資料等を整理して欲しい。乳児保育は、3歳以上児の保育の基盤となるものであり、社会的ニーズが高く、保護者支援を含めた取り組みが期待されていることを自覚し、総合的に学ぶことが重要になる。また、様々な機会に、主体的に積極的に乳児や1・2歳児に接する機会をつくって欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 保育原理、子どもの保健、子どもの健康と安全、子どもの食と栄養、保育者論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内容の習得度（20％）、課題レポート（40％）、授業内小テスト（40％）の加重平均にて総合的に評価する。						

# 授業形態：講義

科目名	子ども家庭支援の心理学			担当者	中道直子	
英文名	Psychology for child and family support					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 1年次に履修する「保育・教育心理学」で学んだ内容を基に、乳幼児の発達や学習を支えうる保育者になるために必要な心理学的知識を深めることを目的とする。具体的には、乳幼児期の発達や学習の特徴、それを支える家庭環境や教育環境、また初期経験の重要性について講義する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 人はいかに学ぶか</b> <b>【到達目標】</b> (1) 受け手の学習観と有能な学び手の学習観の違いについて説明できる。			<b>第9回 養育方略と子どもの発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 親の養育方略が子どもの発達や学びに与える影響を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 現実的必要や知的好奇心から学ぶ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 現実的必要感や知的好奇心が、いかに学ぶ意欲を高めるかを理解する。			<b>第10回 親や仲間から「食べる」を学ぶ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもの食事行動の発達を理解する。 (2) 子どもが親や仲間からいかに「食べる」を学ぶかを説明できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 ほめと子どもの能力</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもの能力を伸ばすほめ方とその理由を説明できる。			<b>第11回 子育て家庭を取り巻く社会状況</b> <b>【到達目標】</b> (1) 家庭の経済状況が子どもの発達に与える影響を理解する。 (2) 睡眠の重要性を説明できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 他者から学ぶ：概念の構築</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもが他者との相互作用の中で、どのように概念を構築するかを理解する。			<b>第12回 夫婦関係と子どもの発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 夫婦関係が子どもの発達に与える影響について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 文化の中の隠れた教育</b> <b>【到達目標】</b> (1) 文化の中の隠れた教育によって学習が容易かつ効果的に行われることを理解する。			<b>第13回 父親の役割</b> <b>【到達目標】</b> (1) 父親の役割やその発達促進機能について説明できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 家庭の意義と機能</b> <b>【到達目標】</b> (1) 家庭の意義と機能を理解する。			<b>第14回 初期経験の影響</b> <b>【到達目標】</b> (1) ルーマニアの孤児研究から、初期経験が人の発達に与える長期的影響について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 親子の愛着</b> <b>【到達目標】</b> (1) 親子の間で安定した愛着が形成されるためのメカニズムを説明できる。			<b>第15回 子どもの精神保健</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子ども心の健康に関わる諸問題について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 育児不安</b> <b>【到達目標】</b> (1) 育児不安やそのメカニズムを理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを使用する。教科書に掲載されていない講義内容については、適宜資料を配布する。毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> なし						
<b>【関連科目】</b> 保育・教育心理学						
<b>【成績評価方法】</b> 試験の結果を100%として評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Early Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 3歳未満児の発育・発達過程や特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護および教育の一体性をふまえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に理解し、乳児保育における配慮の実際について学びを深めることをねらいとする。						
<b>第1回 乳児保育の基本</b> <b>【到達目標】</b> 乳児期の発達特性と周囲からの影響について理解し、乳児の生きていく力を育む保育や保護者支援について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第9回 個々の発達を促す生活と遊びの環境</b> <b>【到達目標】</b> 子どもの発育・発達の特徴を踏まえた遊びの方法、遊びの導入や持続について理解しグループ学習や資料等をもとに演習課題に取り組み多角的な視点から分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 0～3か月児の育ちと保育</b> <b>【到達目標】</b> 胎児期と母体の健康、新生児期の特徴と母親を中心とした家族への支援について理解する。新生児期以降の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。産前産後休暇、育児休暇の取得と働き方・育て方について、保護者の立場に立ち、考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第10回 感染症と乳児保育の実際</b> <b>【到達目標】</b> 乳児期の子どもの健康観察と保健的な対応について理解し、感染症予防のための衛生管理と嘱託医・看護師及び保護者との連携の実際について演習課題に取り組み理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第3回 4～6か月児の育ちと保育</b> <b>【到達目標】</b> 4～6か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。最善の利益と家庭との連携、養護と教育の一体性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第11回 乳児保育と安全管理</b> <b>【到達目標】</b> 発達を促す環境と事故防止に努めた安全管理について理解し、保育所で具体的に使用されているものや環境としての人、子どもが思わず関わりたくなるような事柄や雰囲気について演習課題に取り組み理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 7か月～9か月児の育ちと保育</b> <b>【到達目標】</b> 7～9か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。て、演習課題に取り組み理解する。幼保連携型認定こども園については、その特徴や設置の背景についても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第12回 情緒の安定や自発的な活動の尊重</b> <b>【到達目標】</b> 子どもが安心感、安定感を得て、身近な環境に自ら働きかけ、好きな遊びに熱中し、やりたいことを繰り返し行うといった、主体的に生きていく上での基盤となる保育者のかかわりについて演習課題に取り組み理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 10か月～1歳未満児の育ちと保育</b> <b>【到達目標】</b> 10か月～1歳児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。1歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、栄養摂取、排泄、衣服や着替えの保育内容を踏まえ、安全を確保した遊びを考えディスカッションを通して、留意点や工夫点について理解を深める。別対策と一般化の流れについて、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第13回 乳児保育における計画の実際①</b> <b>【到達目標】</b> 発達の過程における個人差の大きな時期に配慮を必要とする点や対応等を職員間で連携することの意義について理解し、保護者との連携のあり方をふまえた保育計画について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第6回 1歳～1歳6か月未満児の発育・発達の特徴</b> <b>【到達目標】</b> 1歳3か月～1歳6か月未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。習課題に取り組み理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第14回 乳児保育における計画の実際②</b> <b>【到達目標】</b> 長期的な指導計画と短期的な指導計画の例示をもとに環境構成・保育者の援助を比較し、計画を立案する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第7回 1歳6か月～2歳未満児の子どもの育ちと保育内容②</b> <b>【到達目標】</b> 1歳6か月～2歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。支援について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			<b>第15回 乳児保育における計画の実際③</b> <b>【到達目標】</b> 乳児のための指導計画作成の視点を理解し、個別の指導計画と集団の指導計画を比較し、その特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
<b>第8回 2歳児の子どもの育ちと保育内容</b> <b>【到達目標】</b> 2歳～2歳6か月、2歳6か月～3歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 配布資料や参考書等を用いて進めていくが、ノートを作成し授業のポイントや資料等を整理して欲しい。乳児保育は、3歳以上児の保育の基盤となるものであり、社会的ニーズが高く、保護者支援を含めた取り組みが期待されていることを自覚し、総合的に学ぶことが重要になる。また、様々な機会に、主体的に積極的に乳児や1・2歳児に接する機会をつくって欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 乳児保育Ⅰ、保育原理、子どもの保健、子どもの健康と安全、子どもの食と栄養、保育者論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内容の習得度（10％）、課題レポート（30％）、プレゼンテーション（30％）、小テスト（30％）の加重平均にて総合的に評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	子どもの健康と安全			担当者	沢田真喜子	
英文名	Child Health and Safety					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 「子どもの保健」で学んだ知識を基に、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や子どもに多い疾病への対応、事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組と対策、救急処置及び救急蘇生法、災害への備えと危機管理について具体的に学ぶ。子どもの発育発達の特徴について実習を通して理解を深め、子どもの心身の健康について評価し、集団保育において保育者が行うべき健康・安全管理とともに、子どもたちが自ら率先して健康的な生活を送ることができるようになるための支援や保護者支援についても実践的に学ぶことをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 子どもの健康と保育環境</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの環境を整えるための保育環境整備について、関連法規・ガイドラインに基づく基準を理解する。子どもの健康と安全管理について、個別対応と集団管理の実際を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p72-75）を読み、指示した資料を調べ整理する。（4.0hr）			<b>第9回 感染症の予防と対策②</b> <b>【 到達目標 】</b> 感染症の集団発生の予防と感染症対策について、事例をもとに適切な対応方法をふまえた計画を立案することができる。凍母乳の取扱いと調乳方法について、適切な方法で実施することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p107-109）を読み、立案した計画を修正する。（4.0hr）			
<b>第2回 保育現場における衛生管理</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境衛生の基準について、関連法規・ガイドラインを基に理解し、室内外の衛生管理の方法を習得する。子どもの事故の実際を資料に基づき理解し、室内外での予防対策及び組織体制について事例をもとに計画を立案することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p76-83）を読み、指示した資料を調べ整理する。（4.0hr）			<b>第10回 保育所における保健的対応①</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所における保健的対応の基本的な考え方を理解し、3歳未満児に必要な技術について、観察項目や手順を理解できる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p110-117）を読み、不明な点を調べ観察の要点をまとめる。（4.0hr）			
<b>第3回 災害への備えと危機管理</b> <b>【 到達目標 】</b> 災害対策計画の整備及び対応マニュアルの作成の必要性を理解し、関連法規・ガイドラインを計画を立案することができる。子どもや保護者への安全教育と災害時及び災害後の対応方法について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p84-86）を読み、指示した資料を調べ整理する。（4.0hr）			<b>第11回 保育所における保健的対応②</b> <b>【 到達目標 】</b> 3歳未満児への対応に必要な技術について、適切な実践方法を修得できる。携の可能性を考慮した対応方法について、留意点を説明し適切に実施することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p110-117）を読み、不明な点を調べ整理し練習を行う。（4.0hr）			
<b>第4回 子どもの体調不良等への対応</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの主な症状への対応と意義、応急処置の方法について理解する。応急処置に必要な技術について、観察項目や手順を理解する。児童虐待のリスク要因と観察の要点について理解し、日常の健康観察による早期発見の重要性と早期対応について説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p87-89）を読み、不明な点を調べ整理する。（4.0hr）			<b>第12回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応①</b> <b>【 到達目標 】</b> 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」等の最新の資料を参照し、アレルギー疾患の特徴と適切な対応方法について理解する。異物誤嚥を行さないための安全管理対策と保護者等への受け渡しまでのケアを適切に実施することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p118-125）を読み、指示した資料を調べ整理する。（4.0hr）			
<b>第5回 子どもの主な症状と応急処置</b> <b>【 到達目標 】</b> 打撲、骨折、熱傷、出血、誤嚥・窒息等の事例をもとに、適切な応急処置を修得する。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p90-97）を読み、不明な点を調べ整理し練習を行う。（4.0hr）			<b>第13回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応②</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの主な慢性疾患の特徴と対応方法について理解し、主治医や保護者と連携した保育のあり方について修得する。断および保護者受け渡しまでの対応方法について実践することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p125-129）を読み、不明な点を調べ整理する。（4.0hr）			
<b>第6回 救急処置と救急蘇生法①</b> <b>【 到達目標 】</b> 救急処置法の意義を理解し、事例をもとに救急処置の手順と観察項目について理解する。発育・発達に適した方法を説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p98-105）を読み、不明な点を調べ整理する。（4.0hr）			<b>第14回 障害のある子どもへの対応</b> <b>【 到達目標 】</b> 障害の種類と保育を行う上での配慮について理解する。医療的ケアを必要とする子どもへの配慮と保健医療福祉の専門職との連携や保護者を含めた支援の方法について事例をもとに理解を深めることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p130-146）を読み、多職種との連携を含めた支援方法をまとめる。（4.0hr）			
<b>第7回 救急処置と救急蘇生法②</b> <b>【 到達目標 】</b> 事例をもとに救急処置法の適切な対応を修得する。子どもの健康、衣服による事故と防止について理解し、子どもの発育・発達に適した方法を説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p98-105）を読み、不明な点を調べ整理し練習を行う。（4.0hr）			<b>第15回 健康・安全への取り組みに必要な体制整備</b> <b>【 到達目標 】</b> 組織的取り組みの必要性と方法、母子保健・地域保健における自治体との連携や過程、専門機関、地域の関係機関等との連携について既習内容と照らし合わせて理解する。保育における保健活動の計画立案および評価方法を理解し立案することができる。事例をもとに理解し、危機管理対策としての非常用物品及び情報伝達方法について説明できる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p147-172）を読み、関係機関との連携のあり方をまとめる。（4.0hr）			
<b>第8回 感染症の予防と対策①</b> <b>【 到達目標 】</b> 「保育所における感染症対策ガイドライン」等の最新の資料を参照し、感染症対策において理解すべき乳幼児の特徴、保育所における乳幼児の生活と行動の特徴から感染症対策の基本的事項について理解する。理解し、発達に応じた実施方法について説明することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当箇所（p106-109）を読み、指示した資料を調べ整理する。（4.0hr）						
<b>【学習上の留意点】</b> 限られた時間内で演習を行うため、教科書や配付資料を事前によく読む等の準備を行った上で、主体的かつ積極的に取り組み、使用備品は丁寧に扱うよう留意して欲しい。なお、既習科目の学習内容を踏まえた実践的な内容となるため、不明な部分は復習したり自主的に調べたりして授業に取り組むことを期待する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は、第1回目の授業開始前に指示し、参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 子どもの保健、乳児保育Ⅰ・Ⅱ、救急処置法						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内容の習得度（20%）、授業内小テスト（20%）、課題レポート（30%）、実技試験（30%）の加重平均にて総合的に評価する。						

# 授業形態：演習

科目名	子どもとあそび			担当者	桐川 敦子・中道 直子	
英文名	Children's play					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 子どものあそびに対する理解を深め、その意義を学ぶ。子どものあそびに対する保育者の援助、指導について学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 あそびの意義</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもにとってあそびとは何かを考え、その重要性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第9回 子どもがあそぶ環境</b> <b>【 到達目標 】</b> 近年の子どもを取り巻く環境の変化やあそびの実態を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 身体的あそびと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムあそび、運動あそび、取っ組み合いあそびにおける発達とその意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 子どものあそびと保育者の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育者として子どものあそびにどのようにかかわっていくべきか理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第9回 ごっこあそびと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> ごっこあそびにおける発達とその意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第11回 伝承あそびなどの実践</b> <b>【 到達目標 】</b> 伝承あそびなどを理解し、体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 構成あそびと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> 積み木やブロックなど物を構成するあそびの発達とその意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第12回 季節のあそび</b> <b>【 到達目標 】</b> 四季折々のあそびについて理解し、体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 ルールのあるあそびと発達</b> <b>【 到達目標 】</b> 鬼ごっこ、ドッチボールなどルールのあるあそびの発達とその意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第13回 手作りのおもちゃ</b> <b>【 到達目標 】</b> 手作りのものを使うあそびについて理解し、製作に取り組む。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 乳幼児期のあそびにおける親の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> 乳幼児のあそびを親がどのようにサポートしているのか、また親のサポートの効果や意義について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第14回 親子のあそび</b> <b>【 到達目標 】</b> 子育て支援の現場における親子のあそびの実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 あそびとメディア</b> <b>【 到達目標 】</b> あそびに対するテレビやゲームなどの影響について説明できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 文献を読み、レポートを作成する。(4.0hr)			<b>第15回 保育者のあそびごころ</b> <b>【 到達目標 】</b> ワークショップを通し、あそびの楽しさを体験する。あそびごころについて考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究とレポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 あそびを中心とした保育</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園、保育園における子どものあそびについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 全ての授業に対し積極的にかつ自主的に学習すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。あそびの体験や教材研究の回においても、子どもの視座に立ち受講することが求められる。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「保育園・幼稚園のわくわく運動遊び」 桐川敦子監修（成美堂出版） その他、適宜、参考資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 幼児理解、運動あそび、保育指導法演習						
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の発表50% レポート50%						

# 授業形態：講義

科目名	社会的養護			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child Care and Protection					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。本講義では、社会的養育の基礎的事項を理解することを目的とする。特に、現代の社会的養育において、施設養護中心から家庭養護へと大きな政策転換が推進されていることを理解することが重要である。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 現代社会における社会的養護の意義</b> <b>【到達目標】</b> (1)子どもの養育問題の現状と社会的養護の必要性を理解する。 (2)社会的養護の理念と概念を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第9回 家庭養護と施設養護</b> <b>【到達目標】</b> (1)家庭養護と施設養護の実際について理解する。 (2)施設の小規模化、里親委託等の推進について、具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 社会的養護の歴史の変遷</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護の歴史の変遷について理解する。 (2)社会的養護にかかわる先駆者の取り組みについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第10回 社会的養護に関わる専門職</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護において求められている職員の資質・専門性について理解する。 (2)社会的養護に関わる専門職について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの人権擁護と社会的養護</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護における子どもの権利の捉え方について理解する。 (2)社会的養護における子どもの権利擁護とその課題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第11回 社会的養護に関する社会的状況</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護問題と家庭・地域・社会的状況との関連について理解する。 (2)家庭支援の重要性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 社会的養護の基本原則</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護の理念に基づく基本原則を理解する。 (2)運営指針と第三者評価について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第12回 施設等の運営管理</b> <b>【到達目標】</b> (1)施設等の運営管理にかかわる法制度、基準、利用類型、財源等について理解する。 (2)施設等の運営管理の現状と課題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 社会的養護における保育士等の倫理と責務</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護におけるケアと倫理について理解する。 (2)専門職の倫理としての職業倫理について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第13回 被措置児童等の虐待防止</b> <b>【到達目標】</b> (1)被措置児童等虐待防止の経緯と現状について理解する。 (2)被措置児童等虐待の発生要因と虐待防止の課題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 社会的養護の制度と法体系</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護の制度の根幹としての「措置制度」について理解する。 (2)社会的養護の基本法とさまざまな関連法の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第14回 社会的養護と地域福祉</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護関係の施設と地域とのかかわりについて理解する。 (2)社会的養護関係の施設の地域貢献のあり方、諸機関との連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 社会的養護の仕組みと実施体系</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護の基本的な仕組みを理解する。 (2)社会的養護に関する実施体系の現状と課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第15回 社会的養護の今後の課題</b> <b>【到達目標】</b> (1)施設養護中心から家庭養護への大きな政策転換とその推進について理解する。 (2)社会的養護の今後の課題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 社会的養護の対象</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会的養護の対象となる子どもの特徴と背景について理解する。 (2)社会的養護の対象となる子どもの家庭、親子関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> ここでの学びは、施設実習の前に習得しておくべき基礎的事項である。入所型児童福祉施設の状況については具体的にイメージしにくいという問題がある。ビデオ教材や事例を多く提示して多面的な理解を促していくが、実習以外でもボランティア活動等を通じて体験的に理解していくことが望まれる。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 社会的養護内容、子ども家庭福祉						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 試験は、授業内での中間試験と、試験期間中に期末試験を行う。						

# 授業形態：演習

科目名	社会的養護内容				担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Practice in Care and Protection of Children						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護の基礎的事項を具体的に理解し、子どもとその家庭の理解を踏まえ、援助にあたり必要となる実践力を習得することを目的とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 社会的養護の視点</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会的養護の基本理念と原理について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第9回 施設ごとの支援の実際(4) 児童自立支援施設</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)児童自立支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)自立支援、リビングケア、アフターケアについて具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第2回 社会的養護が必要な子どもと家庭の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子どもの貧困・家庭の孤立など、子どもと家庭を取り巻く現状と課題を理解する。 (2)被虐待児、障害のある子ども等、社会的養護における子どもの理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第10回 施設ごとの支援の実際(5) 児童心理治療施設</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)児童心理治療施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)被虐待児への治療的支援のあり方について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第3回 施設養護と家庭養護</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)施設養護(入所施設・通所施設)の生活特性と実際について理解する。 (2)家庭養護の生活特性と実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第11回 施設ごとの支援の実際(6) 障害児入所施設・児童発達支援センター</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)障害児入所施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童発達支援センターにおける専門的支援について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第4回 個別の支援計画</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を理解する。 (2)アセスメントと個別支援計画の作成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第12回 家庭的養護 里親制度・ファミリーホーム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子どもと里親との関係形成について具体的に理解する。 (2)里親委託・ファミリーホーム等の家庭的養護の推進について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第5回 相談支援の方法・技術</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)施設養護における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。 (2)里親委託等における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第13回 社会的養護の支援の実際(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成および発表を行い、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第6回 施設ごとの支援の実際(1) 乳児院</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)乳児院での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)乳児院における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第14回 社会的養護の支援の実際(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成および発表を行い、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				
<b>第7回 施設ごとの支援の実際(2) 児童養護施設</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)児童養護施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童養護施設における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第15回 今後の課題と展望</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会的養護における家庭支援の重要性を理解する。 (2)社会的養護の課題を理解し、家庭的養護の推進等、今後の展望を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)				
<b>第8回 施設ごとの支援の実際(3) 母子生活支援施設</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)母子生活支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)DV被害者への支援について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 社会的養護をめぐる問題は、入所型児童福祉施設に限らず、保育所や教育機関等、すべての子どもの現場に共通の課題となっている。厳しい環境に置かれた児童の社会的養護を日常生活場面で担う保育士の福祉専門職としての役割を十分認識して、学びを深めてほしい。 事例分析では、毎回異なるメンバーのグループで検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。施設実習と関連付けながら、実践への基礎づくりに取り組む。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護内容」雨宮由紀枝・下尾直子編著(大学図書出版) 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b> 社会的養護、子ども家庭福祉							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題30%、課題レポート30%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。 レポート課題の発表、および学期末試験を行う。							

# 授業形態：演習

科目名	子どもの食と栄養			担当者	北島光子	
英文名	Child Nutrition and Diet					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 食事をおいしく楽しく摂ることは、子どもが心身ともに健康に育つ上で基本となる。本授業は、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、子どもの望ましい食生活、保育施設等での食の支援のあり方や食育の重要性について考えるとともに、子どもの成長段階や身体状況に対応した食生活の支援が適切に行えるようになることをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス 「食」の重要性</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業内容や進め方について理解する。 自分の食生活について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身の幼少時および現在の食生活について振り返る。(4.0hr)			<b>第9回 幼児期の食生活①</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の心身の発達と食生活について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第5章を読み、予習する。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの健康と食生活の意義</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの心身の健康と食生活の関わり、「食」に関する指針について理解する。 子どもの食生活の現状と課題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第1章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			<b>第10回 幼児期の食生活②、実習③ 幼児食の調理</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の栄養や献立について、実習を通して理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)			
<b>第3回 栄養と食品①</b> <b>【 到達目標 】</b> 栄養素のはたらきや代謝の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			<b>第11回 幼児期の食生活③</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の食育、食育媒体について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。食育媒体を考える。(4.0hr)			
<b>第4回 栄養と食品②</b> <b>【 到達目標 】</b> 食事摂取基準や食品の分類について理解する。 食品の分類や食事バランスガイドを用いた献立作成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 栄養バランスのとれた献立を考える。(4.0hr)			<b>第12回 学童期・思春期・妊娠期の食生活</b> <b>【 到達目標 】</b> 生涯発達の視点から学童期・思春期・妊娠期の心身の特徴や食生活について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第5章を読み、予習する。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの発育・発達と食生活</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの発育・発達、栄養状態や身体発育の評価について理解する。 子どもの栄養・生理（食欲、味覚、消化・吸収など）について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第3章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			<b>第13回 食育の基本と内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育における食育の意義やその内容、食育計画について理解する。 地域諸機関との連携や食を通じた保護者への支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第6章を読み、予習する。食育計画を考える。(4.0hr)			
<b>第6回 授乳期の食生活、実習① 調乳</b> <b>【 到達目標 】</b> 授乳期の食生活について理解する。 調乳・授乳法や無菌操作法による調乳について、実習を通して理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第4章を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)			<b>第14回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</b> <b>【 到達目標 】</b> 家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第7章を読み、予習する。(4.0hr)			
<b>第7回 離乳期の食生活①</b> <b>【 到達目標 】</b> 離乳期の意義と食生活を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			<b>第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養</b> <b>【 到達目標 】</b> 疾病や体調不良の子ども、アレルギーや障がいのある子への対応について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの第8章を読み、予習する。(4.0hr)			
<b>第8回 離乳期の食生活②、実習② 離乳食の調理</b> <b>【 到達目標 】</b> 離乳期の発達に合わせた献立とその調理方法について、実習を通して理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 日頃から子どもを取り巻く食生活や栄養に関心を持ち、授業内容と関連付けて考える。 実習（演習）やグループ活動に積極的に参加し、自身の考えを深める。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問する。授業中の飲食・携帯使用・私語は厳禁とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「子どもの食と栄養演習（第4版）」 小川雄二編著 建帛社 食品成分表があるとわかりやすい。各種「指針」や「ガイドライン」およびその他の参考図書は授業中に適宜紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 栄養学入門						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、試験の結果（50％）、授業内容の達成度（20％）、レポート（30％）を用いて評価する。						



# 授業形態：演習

科目名	子育て支援				担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Childcare Support						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解することを目的とする。様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 保育士の行う子育て支援の特性（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育士の行う子育て支援の特性を理解する。 (2)子どもの保育とともに行う保護者の支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 保育士の行う子育て支援の展開（5）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会資源の活用について理解する。 (2)自治体・関係機関・専門職との連携・協働について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 保育士の行う子育て支援の特性（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常的・継続的な関わりを通じた保護者の支援について理解する。 (2)保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育所・認定こども園等における支援とその実際について理解する。 (2)通園施設における支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 保育士の行う子育て支援の特性（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保護者や家庭の抱える支援のニーズについて理解する。 (2)保護者や家庭の多面性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)地域の子育て家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)地域子育て支援拠点における支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 保育士の行う子育て支援の特性（4）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども・保護者が多用な他者と関わる機会や場の提供について理解する。 (2)保育士の行う子育て支援の特性についてまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)障害のある子どもと家族に対する支援とその実際について理解する。 (2)アレルギー児・医療的ケア児等と家族に対する支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 保育士の行う子育て支援の展開（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子どもの状況・状態の把握について理解する。 (2)保護者の状況・状態の把握について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)特別な配慮を必要とする保護者への支援とその実際について理解する。 (2)日本語を母語としない保護者への支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 保育士の行う子育て支援の展開（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)支援の計画について理解する。 (2)環境の構成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども虐待の予防に向けた支援とその実際について理解する。 (2)虐待傾向にある保護者への支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 保育士の行う子育て支援の展開（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)支援の実践・記録について理解する。 (2)支援の評価・カンファレンスについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)入所施設における支援とその実際について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 保育士の行う子育て支援の展開（4）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)園内の保育者間の連携・協働について理解する。 (2)園内の他職種との連携・協働について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 保育者として知っておくべき事項や現場で遭遇することの多い出来事について、事例を提示し、演習形式で子育て支援の理論や技術を学ぶ。保育現場で活用できる実践力を身につけるため、体験的な学びを重視する。ほぼ毎時間、演習内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b> 社会福祉、子ども家庭福祉、特別支援教育・障害児保育							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。 中間試験および期末試験を実施する。							

# 授業形態：演習

科目名	子どもの理解と援助				担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child understanding and support						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 「子どもの理解」は、保育者の専門性の根幹となるものである。本授業は、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。ことを目的とする。具体的には、子どもを理解する。基本的な視点について学んだ上で、より確かな理解に基づいた発達援助を行うために、観察や記録の手法、職員間や保護者との連携の取り方などを習得することをねらいとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 保育における「子どもの理解」</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育における「子どもの理解」の意義について理解する。 (2) 「子どもの理解」に基づく養護および教育の一体展開について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 子どもを理解する。方法(Ⅲ) 省察・評価</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育記録から子どもの姿や行為の「意味」を読み解くことについて理解する。 (2) 保育記録からの省察・評価を、子どもの援助に役立てることについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの実態に応じた発達や学びの把握</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもを共感的に見る姿勢について理解する。 (2) 子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 子どもを理解する。方法(Ⅳ) 職員間の対話</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「子どもの理解」を深めるための職員間の日々の連携のあり方について理解する。 (2) 「子どもの理解」に基づく園内研修・保育カンファレンスについて具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもを理解する。視点(Ⅰ) 生活・遊び</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 生活や遊びのなかで見せてくれる姿や行為から、子どもを理解する。 (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達について、多角的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 子どもを理解する。方法(Ⅴ) 保護者との情報共有</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育の場における子育て支援・家庭支援の必要性について理解する。 (2) 「子どもの理解」を保護者と共有し、援助につなげていくことについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもを理解する。視点(Ⅱ) 子ども相互の関わり</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子ども相互の関わりと関係づくりの視点から、子どもを理解する。 (2) 子どもの集団における経験と育ちの視点から、子どもを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 発達の課題に応じた援助と関わり</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの発達を概観し、各時期に生じる様々な課題について理解する。 (2) 発達の課題に応じた保育者の援助と関わりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもを理解する。視点(Ⅲ) 葛藤・つまづき</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 子どもの発達や学びを捉える原理を理解する。 (2) 子ども発達や学びの過程で生ずる葛藤やつまづきについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 特別な配慮を要する子どもを理解し、人間の多様性への理解を深める。 (2) 個々の子どもに応じた発達支援のあり方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもを理解する。視点(Ⅳ) 保育環境</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 保育の環境や構成の視点から、子どもを理解する。 (2) 環境の変化や移行の視点から、子どもを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第14回 就学への支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「幼保小連携」の今日的課題を知り、就学に向けた支援について理解する。 (2) 「子どもの理解」に基づく保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録の書き方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもを理解する。方法(Ⅰ) 観察</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「子どもの理解」を深める観察と記録の意義を理解する。 (2) 観察法の基礎的事項について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 発達の連続性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 発達の連続性について理解する。 (2) 「子どもの理解」に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもを理解する。方法(Ⅱ) 記録</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 記録法の基礎的事項について理解する。 (2) 保育記録の書き方の実際を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書に掲載されていない講義内容については、適宜資料を配布する。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によりフィードバックを行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b> 幼児理解、保育・教育心理学、特別支援教育・障害児保育							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。							

# 授業形態：演習

科目名	保育実習指導 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育園(所)及び児童福祉施設における実習の意義、目的、内容、方法(観察、実践、記録、評価)を理解するとともに、自らの実習の課題を明らかにする。子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務を理解する。実習後の事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業の目的と流れ</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実習 I (施設実習・保育所実習) の目的と全体的な流れを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストを見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第9回 保育所実習における実習の意義と心構え</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所実習における実習の意義と心構えについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 施設の社会的役割や業務内容について</b> <b>【 到達目標 】</b> 施設の社会的役割や業務内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育所保育指針の理解を深める。(4.0hr)			<b>第10回 保育所の社会的役割や業務内容についての理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所の社会的役割や業務内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 施設実習における実習の意義</b> <b>【 到達目標 】</b> 施設実習における実習の意義や心構えを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第11回 保育所実習の目標の設定</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所実習における目標の立て方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 施設実習における目標の設定</b> <b>【 到達目標 】</b> 施設実習における目標の立て方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第12回 保育実習における文書について</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 施設実習における文書について</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第13回 保育実習における指導案について</b> <b>【 到達目標 】</b> 指導計画について理解し、部分指導案を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指導案を作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 施設実習に関する全体的な学習</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの人権の尊重、守秘義務、プライバシーの保護など、保育士の職業倫理と社会的責任について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			<b>第14回 保育実習に関する実践的指導</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの姿をイメージしながら模擬保育を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 実践できる教材を研究する。(4.0hr)			
<b>第7回 施設実習に関する個別の指導</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習を行う施設ごとに個別の課題を見出す。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料を見直しながら個別の課題に取り組む(4.0hr)			<b>第15回 保育実習の振り返り</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実習終了後に実習の振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 施設実習の振り返り</b> <b>【 到達目標 】</b> 施設実習終了後に実習の振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> レポートを作成する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 質の高い保育者になるという自覚を持ち出席すること。実習に向けて、全ての授業において積極的にかつ自主的に学習すること。書類の提出は期限を守ること。ほぼ毎時間レスポンスカードなどで、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教育、保育、施設実習テキスト 第4版」二階堂邦子編著(建帛社)、「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著(創成社)「より深く理解できる施設実習一施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著(萌文書林)、「保育所保育指針」厚生労働省、フレーベル館「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館						
<b>【関連科目】</b> 保育実習 I						
<b>【成績評価方法】</b> 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。						

# 授業形態：演習

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、観察、記録、事例研究、実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 観察実習の振り返り</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実習Ⅰで理解したことを踏まえ、実習の意義、目的などについて再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第9回 責任実習指導案立案</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所の1日の流れをイメージし、保育者の援助について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 子ども理解を深める①</b> <b>【 到達目標 】</b> 0～2歳児の特徴とかかわり方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 責任実習指導案立案</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育所の1日の流れをイメージし、適切な環境構成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 子ども理解を深める②</b> <b>【 到達目標 】</b> 3～5歳児の特徴とかかわり方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第11回 指導案展開</b> <b>【 到達目標 】</b> 模擬保育を行い指導案の在り方について深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 保育計画を立てることの意味について理解する。</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育計画をたてることの意味を理解し、全体の計画、長期計画と短期計画について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第12回 計画案の実践後の自己評価と改善</b> <b>【 到達目標 】</b> 作成した指導案について、子どもの発達に即したものであったか、子どもたちの最善の利益を考慮した保育計画であったかを自己評価をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 子ども理解に基づく保育計画について理解する。</b> <b>【 到達目標 】</b> 子ども理解に基づく保育計画について理解し、適切な環境構成などを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第13回 保育士の業務と職業倫理の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 専門家としての保育士の業務と職業倫理について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 指導案の立て方について理解する。</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的な指導案の立て方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第14回 実習の心構えについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習の心構えについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 実習ノートに必要事項を記入する。(4.0hr)			
<b>第7回 部分指導案の立案①</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもをイメージしながら保育を構想する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			<b>第15回 自己課題の明確化</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習にむけての目標や自己課題を明確にする。  <b>【授業時間外学習】</b> レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 部分指導案立案②</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育全体の見通しをもって構想する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践を基に保育実習Ⅱに臨めるように、保育実習Ⅰでの記録や資料等を整理しておくこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教育、保育、施設実習テキスト 第4版」二階堂邦子編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）						
<b>【関連科目】</b> 保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。						

# 授業形態：実習

科目名	保育実習 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care I					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
<p><b>【目的とねらい】</b>            保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育園(所)の機能と保育士の職務を学ぶ。            保育園(所)以外の居住型及び通所型児童福祉施設の養護と機能を実習を通して具体的に学習し、施設を利用する対象児とその養護内容の理解、現状の問題点を考察する。様々な職種の専門教職員との中で働く保育士の職務内容を理解すると共に、具体的な支援方法を学ぶ。</p>						
<p><b>【授業内容】</b>  <b>【保育園(所)】</b>            9月上旬を標準的期間として12日間の保育園(所)実習を行う。終了後は実習報告会を行う。   <b>【居住型及び通所型児童福祉施設】</b>            11月を標準的期間として12日間の児童福祉施設の実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。</p>						
<p><b>【到達目標】</b>  <b>【保育園(所)】</b>            1. 保育の一日の流れを理解し、保育園(所)の生活に参加する。            2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。            3. 保育計画・指導計画を理解する。            4. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。            5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。            6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。            7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。  <b>【施設】</b>            1. 児童福祉施設等の生活に参加し、施設の実際(養護の一日の流れ)を理解する。            2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。            3. 援助計画・内容の実際を理解する。            4. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。            5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。            6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。            7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。</p>						
<p><b>【授業時間外学習】</b>            実習記録をまとめる。</p>						
<p><b>【学習上の留意点】</b>            「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。</p>						
<p><b>【教科書・参考書など】</b>            「教育・保育・施設テキスト 第4版」二階堂邦子編著(建帛社)            「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著(創成社)</p>						
<p><b>【関連科目】</b>            保育実習指導 I</p>						
<p><b>【成績評価方法】</b>            レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。</p>						

# 授業形態：実習

科目名	保育実習Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Practice of Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。						
<b>【授業内容】</b> 2月中旬を標準的期間として12日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。						
<b>【到達目標】</b> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 3. 指導計画を作成し、実際に実践する。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 5. 地域社会に対する理解を深め、地域との連携について理解する。 6. 保育士としての職業倫理を理解する。 7. 保育士として求められる資質等について、自己の課題を確認する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 実習記録をまとめる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教育・保育・施設テキスト 第4版」二階堂邦子編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）						
<b>【関連科目】</b> 保育実習指導Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。保育実習指導Ⅱの授業を受講し、準備を行うこと。						

# 授業形態：演習

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			担当者	青木 純一・桐川 敦子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> この科目は、教職課程及び保育士養成課程の総仕上げとなる科目である。これまでの教職課程の学修や教育実習及び保育実習の経験を振り返り、自己の成長と課題について認識するとともに、学生による発表やグループ討論により、学生一人ひとりが自己の課題解決のための学修を積極的に進めていく。さらに、今日の教育と学校についての理解を深め、それを担う教職の意義や保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について理解を深めるとともに、自らの保育者（幼稚園教諭・保育士）となるための発達課題を明らかにする。また、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるよう演習を構成する。 授業全体としては、保育者としての指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業開始までの夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、それをもとに討論する。課題レポートを提出する。  <b>【授業時間外学習】</b> 実習の振り返りに関するレポートを作成する。(4.0hr)			<b>第9回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（討論・発表）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学生によるグループ討論と発表を行う。こうした取組みを通して学生は保育者としての自己の課題を明確化し卒業までの自己目標を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの理解を深めるためのビデオカンファレンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもへのかかわり方について考える力を養う。また、経験とともにその変化があるのかを考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第10回 学級経営、学校経営についての理解（講義）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学級の経営や園経営の実際を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルと成長の課題（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保育者の服務と研修、保育者としてのライフスタイルの実際について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第11回 小学校との連携について（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> 現職保育者を招き、現場の実際について講話を聞く。こうした取組みを通して幼小の連携の実際やスタートカリキュラムの内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者に求められる教科の指導力を高めるためのロールプレイ</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育・保育に関わる基本的知識及び実技能力等の補充指導を受ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第12回 保育者として求められる社会性・対人関係能力</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの授業を通して得た知見をもとに討論する。こうした取組みを通して保育者にとって親や保護者とのコミュニケーションが大切なことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 行事について考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 附属幼稚園等の運動会を見学し、各園の保育の方針と行事の在り方について討論する。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園、保育所における行事の見学とレポートを作成する。(4.0hr)			<b>第13回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価1</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 保護者との連携についての理解（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保護者との連携の現状を知り、連携のために必要とされていることについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第14回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価2</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 前半の授業のまとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> 前半の授業を通して得た知見をもとに、自己の課題を整理する。自己課題解決に向けての取り組みについて計画し、開始する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第15回 魅力ある保育者を目指してレポート作成と意見交換ー</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育者としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。  <b>【授業時間外学習】</b> 本科目のまとめに関するレポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（講義）</b> <b>【 到達目標 】</b> 今日の教育について理解を深め教職の意義、教員の役割について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、各自の課題等についてまとめ、レポートとして提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。授業前半は、実習で体験した保育活動に近い具体的な内容であり、各人の課題を振り返り、さらに新たな課題を見つけ出したり、課題解決のための計画を立てやすいように進める。授業後半は、より深く保育、教職について深めながら、各人の課題解決への取り組みをサポートしていく。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。1回～7回は桐川が、8～15回は青木が担当する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定） 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」厚生労働省 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実習」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習・保育実習時に作成する指導案、「実習ノート」等						
<b>【関連科目】</b> 教育実習（事前・事後指導を含む）、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> 各種レポートの提出（50％）、授業時の発表、発言内容（50％）						

# 授業形態：演習

科目名	保育実習指導Ⅲ			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践をもとに、さらに保育所以外の児童福祉施設で行う実習を有意義なものとするための事前指導を行う。また、事後指導では実習の総括と自己評価を行い、施設における保育士としての課題や認識を明確にする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 保育実習Ⅰを振り返る①</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育実習Ⅰの実習日誌や自己評価などを見直す。(4.0hr)			<b>第9回 個別の支援計画の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 個別の支援計画について理解し、対象児にあわせて立案する。  <b>【授業時間外学習】</b> 施設における個別の支援計画に目を通し、その意図等を理解する。(4.0hr)			
<b>第2回 保育実習Ⅰを振り返る②</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育実習Ⅲの進め方と概要、評価方法について確認し、保育実習Ⅲの目標と内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでの振り返りをもとに、実習の課題を明らかにして書き記す。(4.0hr)			<b>第10回 支援の計画・実践・評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 個別の支援計画に基づく実践を評価し、改善点等について省察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作成した個別の支援計画を再考する。(4.0hr)			
<b>第9回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b> <b>【 到達目標 】</b> それぞれの実習希望先に応じて、事例(資料)を用いて、施設の役割や機能について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 施設や児童養護に関する事例(資料)を収集し、整理する。(4.0hr)			<b>第11回 子どもをとりまく環境を踏まえた地域社会との連携</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもをとりまく環境や生活状況等を理解し、地域社会との連携や支援体制について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞記事や雑誌などを通して子どもを取り巻く環境を考察する。(4.0hr)			
<b>第4回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b> <b>【 到達目標 】</b> それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 施設や児童養護に関する事例から必要な支援や関わりを考えて書く。(4.0hr)			<b>第12回 職員間の連携や役割分担の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育士等の職員間の連携や役割分担について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 施設の職員の職種とその役割をまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b> <b>【 到達目標 】</b> それぞれの実習希望先に応じて、グループ活動を通して、明確にしたいテーマを決める。  <b>【授業時間外学習】</b> 資料及び参考文献を用いて施設への理解を深め、グループ内報告の準備をする。(4.0hr)			<b>第13回 専門職としての倫理と子どもの最善の利益の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等の職業倫理について具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの権利条約や人権擁護にかかわる法律等を読み、理解を深める。(4.0hr)			
<b>第6回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに事例検討を行い、それぞれの施設の役割や機能について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ報告での内容を整理し、子どもの心理や行動を理解しようとする。(4.0hr)			<b>第14回 実習の振り返りと自己評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習を振り返り、子どもへの支援や養護のかかわり等について省察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自己評価の観点を踏まえて実習を自己評価する。(4.0hr)			
<b>第7回 施設を利用する子どもの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの観察と記録および援助のかかわりについて具体的に学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を読み、観察の観点や記録の重要性を知る。(4.0hr)			<b>第15回 実習に基づく自己課題の明確化</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己評価をもとに新たな課題や学習目標を明確にする。  <b>【授業時間外学習】</b> 施設からの実習評価と自己評価を照らし合わせながら自己課題を見出す。(4.0hr)			
<b>第8回 一人一人の子どもの状態に応じた援助やかかわりの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 入所の事由や子どもの状態に応じたかかわりや援助の実践について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 参考文献を読む等して、援助の実践を知る。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 個人学習及びグループ学習を通して、児童福祉や社会的養護の学びを踏まえ、施設に入所する子どもへの理解や施設の役割についての理解を深め、支援の内容や方法を具体的に学んでほしい。また、実習先となる施設と異なる種類の施設についても、事前学習や実習報告等様々な機会を利用して理解できるよう努めることが望ましい。実習で得た学びを、自己評価するとともに、実習生全体の学びとして共有できるよう、フィードバックしていく。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著(萌文書林) 『教育、保育、施設実習テキスト 第2版』二階堂邦子編著(建帛社) 参考書：『施設で育った子どもたちの語り』(明石書店)、『この子を受け止めて、育むために 育てる・育ち合ういとなみ』(全国児童養護施設協議会)						
<b>【関連科目】</b> 保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、社会的養護、子ども家庭福祉						
<b>【成績評価方法】</b> 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。						



# 授業形態：実習

科目名	保育実習Ⅲ			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解を深める。また、保育士の職業倫理について具体的に理解し、入所児童の人権やプライバシーに配慮しながら子どもへの理解を深める。さらに、施設の現状や課題に着目しながら、様々な専門職と連携を図り子どもと保護者を支援する保育士の役割や、具体的な支援の内容について学び、保育士としての自己課題を明確にする。						
<b>【授業内容】</b> 1 1月を標準的期間として、1 2日間の児童福祉施設での実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。						
<b>【到達目標】</b> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について、実習を通して理解を深める。 2. 施設における支援の実際を理解する。 ①受容し、共感する態度 ②個人差や生活環境に伴うニーズの把握と子ども理解 ③個別支援計画の作成と実践 ④子どもの家庭への支援と対応 ⑤多様な専門職との連携 ⑥地域との連携 3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己課題を明確化する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 子ども一人一人の理解を深めるために、社会的養護や児童養護に関わる書物や資料を読む。また、新聞や雑誌などで現代の家庭や社会が抱える問題・課題に関する記事を読み、考察する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 現代社会における児童福祉や社会的養護の重要性について理解を深めながら、施設の在り方や子どもの最善の利益を踏まえた支援の実際について意欲的に学んでほしい。施設実習の経験は保育や福祉の根幹にかかわる重要な学びとなり、貴重な経験になることを踏まえ、課題意識をもって実習に臨んでほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『教育・保育・施設テキスト 第3版』二階堂邦子編著（建帛社）『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林）参考書：『児童福祉施設における子どもの育ちと貧困』（明石書店）、『虐待を受けた子どもへの自立支援』（中央法規出版）、『児童養護施設近未来像Ⅱ～子どもを未来とするために』（全国児童養護施設協議会）						
<b>【関連科目】</b> 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅲ、社会的養護、子どもの家庭福祉						
<b>【成績評価方法】</b> レポート30%、実習ノート30%、施設からの評価40%によって総合的に評価する。						

# 授業形態：実習

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	桐川 敦子	
英文名	Guidance Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門・選択
<b>【目的とねらい】</b> 「教育実習」は大学での「事前・事後指導」（1単位）と幼稚園での4週間の「幼稚園実習」（4単位）からなる。 幼稚園における実際の保育にかかわり、幼稚園教育（教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等）の理解を深め、保育者としての資質を高めることを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 幼稚園実習について</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。 幼稚園教育要領、幼稚園生活の流れなどを学ぶ。 附属幼稚園での実習の仕方、記録の書き方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			<b>第9回 保育実践の留意点</b> <b>【 到達目標 】</b> 作成した指導案を展開することにより、保育に取り組む姿勢などを学ぶ。 指導案については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第2回 子どもの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な角度から子どもを理解する方法を学ぶ。 保育者は子どもとどのように向き合っていくべきか考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			<b>第10回 実習に向けての心構え</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習中、実習前後の心構えについて理解する。 服装、持ち物、健康管理など、実習中の詳細について確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第3回 附属幼稚園での見学、参加実習1</b> <b>【 到達目標 】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			<b>第11回 実習の振り返りと自己評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習を振り返り、自己評価を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第4回 附属幼稚園での見学、参加実習2</b> <b>【 到達目標 】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。			<b>第12回 実習報告会1</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第5回 附属幼稚園での見学、参加実習3</b> <b>【 到達目標 】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。			<b>第13回 実習報告会2</b> <b>【 到達目標 】</b> 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第6回 教材研究</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアターの教材研究を行い、オリジナルのものを作成する。 造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、教材研究を進める。			<b>第14回 保育者を目指すにあたって</b> <b>【 到達目標 】</b> 保育者を目指すにあたって、今、何をすべきか検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第7回 指導計画立案</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼稚園教育課程を学び、指導案を作成する。 指導案作成の際の注意事項などを学ぶ。 教育要領に基づく教育課程の理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、指導案を書く作業をすすめる。			<b>第15回 実習ノートの分析</b> <b>【 到達目標 】</b> 返却された実習ノートを読み返ししながら自己の課題について認識する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第8回 保育実技についての検討</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵本、紙芝居などを子どもの前で読んだり、パネルシアターやエプロンシアター、ペープサートを演じる際の配慮すべき点を学ぶ。 子どもとの心の交流や子どもの想像力について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 全ての授業に対し、幼稚園教諭免許状取得を目指し、実習に臨む積極的な態度で臨むこと。課題には自主的に取り組み、提出物は必ず期限を守り提出すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト「教育、保育、施設実習テキスト 第4版」二階堂邦子編著（建帛社）、「幼稚園教育要領」文部科学省 参考書「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「遊びや生活の中で“10の姿”を育む保育 事例で見る幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（チャイルド本社）						
<b>【関連科目】</b> 幼稚園免許に関わる教職科目						
<b>【成績評価方法】</b> 事前事後の授業でのレポート・課題の評価（50%） 実習園からの評価（50%）						

# 授業形態：実習

科目名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	森田陽子	
英文名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単位数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1～3					専門・選択
<b>【目的とねらい】</b>						
<p>本学における部活動を通して、得られた経験や成果をまとめ、より専門的なスポーツ活動に繋げることを目的とする。1年次から3年次まで継続して活動することが単位取得のための必要条件となる。選手だけではなく、選手をサポートするマネージャー等も受講対象とする。</p> <p>履修者は、1年次から3年次まで年次ごとに活動報告書を作成し、優れた成績や自らのパフォーマンス向上に繋がるような分析や考察をすることが求められる。</p>						
<b>【授業内容】</b>						
<p>1、1年次 4月：ガイダンス 授業の目的やねらいについて説明を行う。また、活動報告書の作成方法及び提出についても説明する。</p> <p>2、1年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、2年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>3、2年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、3年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>4、3年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、最終年次、部活動の集大成としての具体的な目標を記す。さらに、大学での競技を終え、卒業後にこの経験をどのように生かしていくのかについても記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>継続した活動を通して、競技者として競技力を向上させ、より優れた成績を残すことが到達目標となる。さらに、大学生競技者として、年次を重ねるごとに人間的にも成長していることを実感できることが目標となる。卒業後、競技者の継続を希望する者、指導者を希望する者等、将来の自分をイメージしながら日々の活動を行い、報告書を作成することが望ましい。</p>						
<b>【授業時間外学習】</b>						
<p>日々の部活動には、目的意識をもって取り組み、練習ノート等にその日の練習内容に加えて、反省すべき点や今後活かせる点等も記録する。自らの課題を解決するために必要な情報については、授業や書籍等を活用しながら、それらを積極的に取り入れ、より有効な活動ができるようにする。</p>						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<p>大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を審査を受ける。受講学生は、1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する。不定期でガイダンスを実施するので、掲示をよく見て、必ず出席すること。また、学年をまたいでの課題提出はいかなる理由であっても認めない。その場合は、次年度の履修は取り消しとなるので注意すること。</p>						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
<p>各競技種目に関する専門書や指導書など。</p>						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b>						
<p>3年間を通したスポーツ活動実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。</p>						

## 授業形態：演習

<b>科目名</b>	卒業研究				<b>担当者</b>		
<b>英文名</b>	Graduation Thesis						
<b>単位数</b>	6	<b>科目区分・必修 ／選択の区別</b>	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
<b>履修年次</b>	3～4					専門・選択	
<b>【目的とねらい】</b>							
<p>幼児発達学専攻において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。3年次からの2年間にわたる活動をとおして幼児発達の理解をさらに深めるとともに、専門的な能力を高める。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果をまとめ、プレゼンテーション（発表）を行う。</p>							
<b>【授業内容】</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解</li> <li>2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定</li> <li>3. 研究活動の展開</li> <li>4. 結果の考察とまとめ</li> <li>5. 論文の作成、研究成果の発表</li> </ol>							
<b>【到達目標】</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 専門的に学ぶ分野の先行研究の概要や、問題の所在を十分に理解する。</li> <li>2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 対象分野の研究の動向や、研究方法及び手法の特色を理解し、各自のテーマと方法を構想する。</li> <li>3. 研究活動の展開 各自のテーマと研究計画を明確にして、具体的に展開する。</li> <li>4. 結果の考察とまとめ 論文のまとめを構想しながら、さらに研究を進め、考察を深める。</li> <li>5. 論文の作成、研究成果の発表 構成を練り、論理的にまとまりよく、的確に伝えることができる。</li> </ol>							
<b>【授業時間外学習】</b>							
各担当教員の指示による。							
<b>【学習上の留意点】</b>							
各担当教員の指示による。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
状況に応じて参考図書・資料等を紹介する。							
<b>【関連科目】</b>							
対象分野の「教養科目」「専門基礎教育科目」「専門教育科目」							
<b>【成績評価方法】</b>							
2年間の論文作成に至る過程での状況と、論文の内容を総合的に評価する。							